資料４

第９期高齢者福祉・介護保険事業計画
策定に向けたアンケート調査の結果概要

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

本調査は、第 10 次高齢者福祉計画及び第９期介護保険事業計画の策定にあたって、対象となる住民の健康状態や生活習慣、介護保険サービス、保健福祉サービスの利用状況やニーズ等を把握し、基礎資料とすることを目的とします。

２　調査方法等

本調査は図表１のとおり実施しました。

図表１

区　　分	①一般高齢者調査	②要支援認定者調査	③要介護認定者調査
調査対象者	75 歳以上の人（要支援・要介護認定者を除く）	要支援認定者	要介護認定者
抽出方法	2,000 人を無作為抽出	全数	全数
調査票の配布・回収	郵送による配布・回収		
調 査 期 間	令和４年 12 月 15 日～12 月 31 日		

３　回収結果

回収結果は図表２のとおりです。

図表２

区　　分	配　布　数	回　収　数	有効回答数	有効回答率
①一般高齢者	2,000	1,409	1,405	70.3%
②要支援認定者	466	335	313	67.2%
③要介護認定者	905	420	312	34.6%

４　調査・分析にあたって

○図表中のｎ（Number of Caseの略）は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示しています。

○比率はすべてパーセントで表し､小数点以下第２位を四捨五入して算出しました｡そのため、パーセントの合計が 100%にならない場合があります。

○クロス集計の表やグラフを見やすくするため、性、年齢などの比較対象となる項目の「無回答」を表示していません。したがって、比較対象となる項目の合計は全体の合計と一致しない場合があります。

○複数回答が可能な質問の場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をします。したがって、各項目の比率の合計は、通常 100%を超えています。

○本報告書中の表、グラフ、本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略してある場合があります。

○75 歳未満は要支援認定者に限られるため､「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果」の年齢別の分析は 75 歳以上のみで行いました。

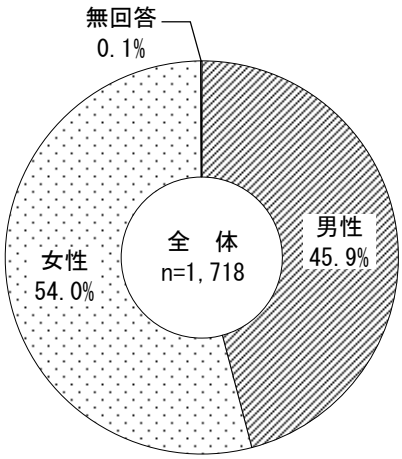
Ⅱ　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果の概要

1　回答者の属性

(1)　性　別

調査対象者の性別は、「男性」が 45.9%、「女性」が 54.0%です。

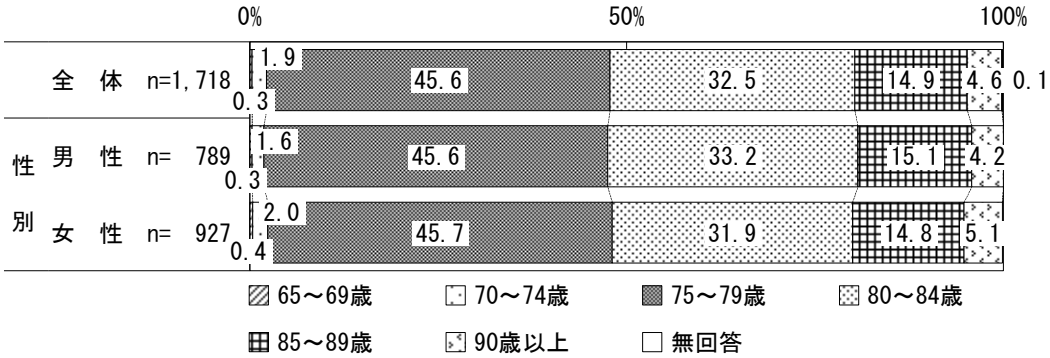
図表３　性　別



(2)　年　齢

年齢は、「75～74 歳」が 45.6%と最も高く、次いで「80～84 歳」が 32.5%、「85～89 歳」が 14.9%などの順です。また、＜65～74 歳＞は要支援認定者に限られるため、2.2%のみとなっています。

図表４　年　齢

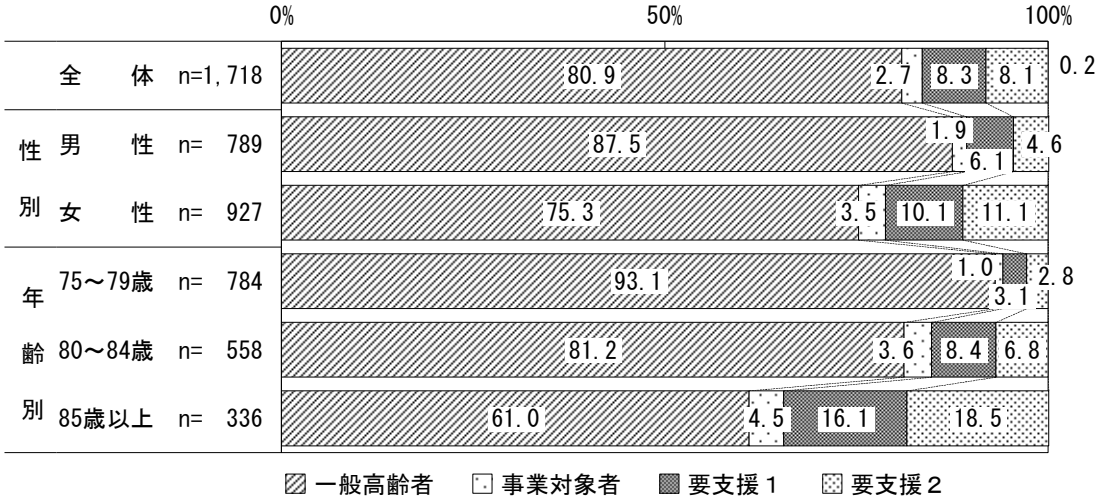


(3)　認定区分

認定区分は、「一般高齢者」が 80.9%、「事業対象者」が 2.7%、「要支援１」が 8.3%、「要支援２」が 8.1%となっており、「要支援１」と「要支援２」を合計した＜要支援認定者＞が 16.4%です。性別にみると、女性は男性に比べて「事業対象者」及び＜要支援認定者＞が高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「一般高齢者」は低下し、85 歳以上になると 61.0%となります。

図表５　認定区分

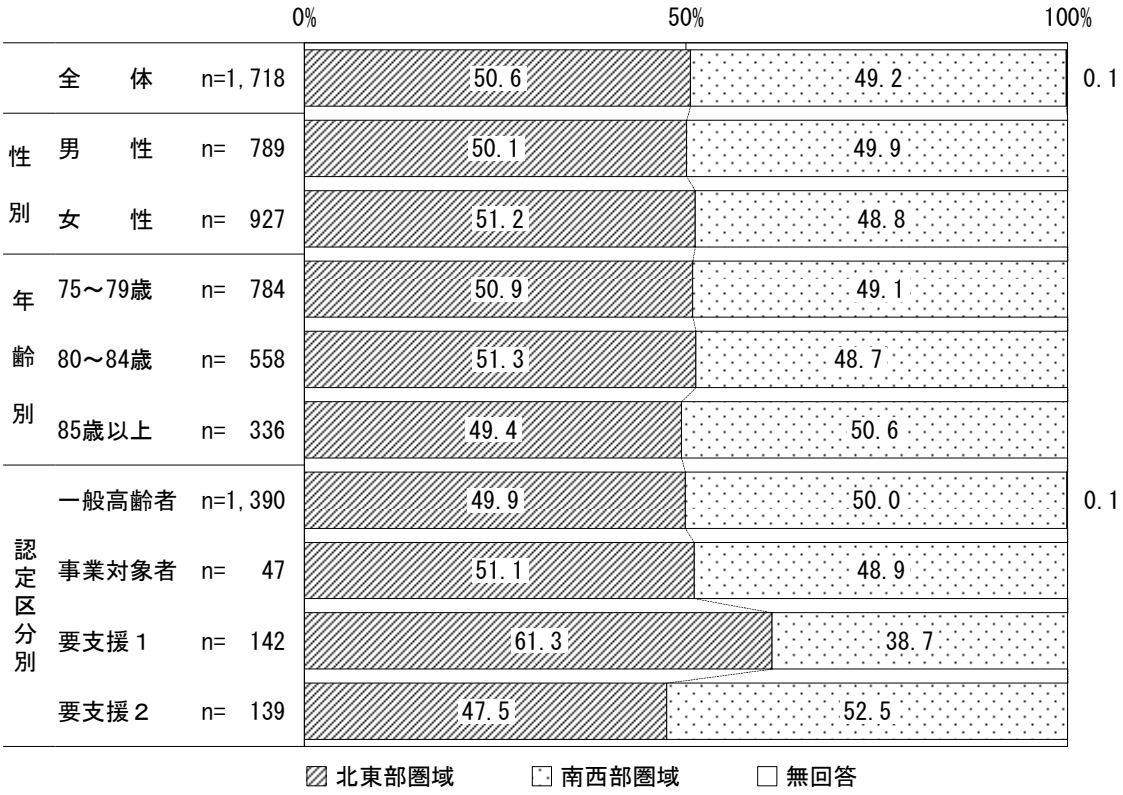


(4)　日常生活圏域

日常生活圏域とは、高齢者が住み慣れた地域で適切なサービスを受けながら生活を継続できるように、地理的条件・人口・交通事情やその他の社会的条件、施設の整備状況などを総合的に勘案し、地域の特性に応じて市町村内を区分するものです。本市では、〈北東部〉と〈南西部〉の２圏域を日常生活圏域としています。

回答者の日常生活圏域は「北東部圏域」が 50.6%、「南西部圏域」が 49.2%です。認定区分別にみると、要支援１は「北東部圏域」、要支援２は「南西部圏域」がそれぞれ高くなっています。

図表６　日常生活圏域



【参考】　日常生活圏域の区分

区　　分	北東部圏域	南西部圏域
小学校区	長久手小・東小・北小学校区	西小・南小・市が洞小学校区
地域包括支援センター	長久手市社会福祉協議会 地域包括支援センター	愛知たいようの杜 地域包括支援センター

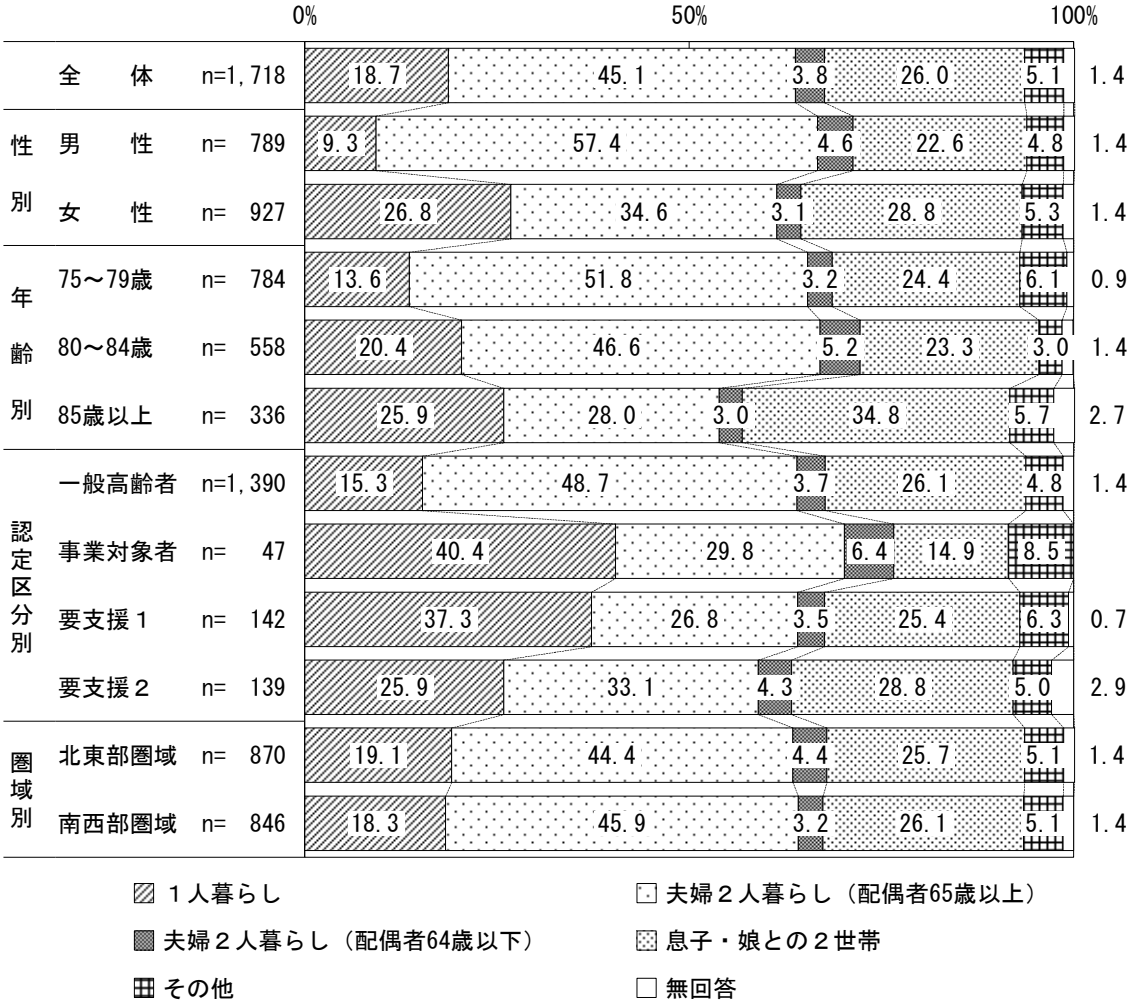
(5)　家族構成

家族構成は「１人暮らし」(18.7%) と「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上)」(45.1%) の合計が 63.8%を占めています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「１人暮らし」が上昇し、85 歳以上になると 25%以上を占めています。

認定区分別にみると、事業対象者は「１人暮らし」が 40.4%を占めているものの、重度化にしたがい低下します。

図表７　家族構成



２　健康状態

(1)　介護・介助の必要性

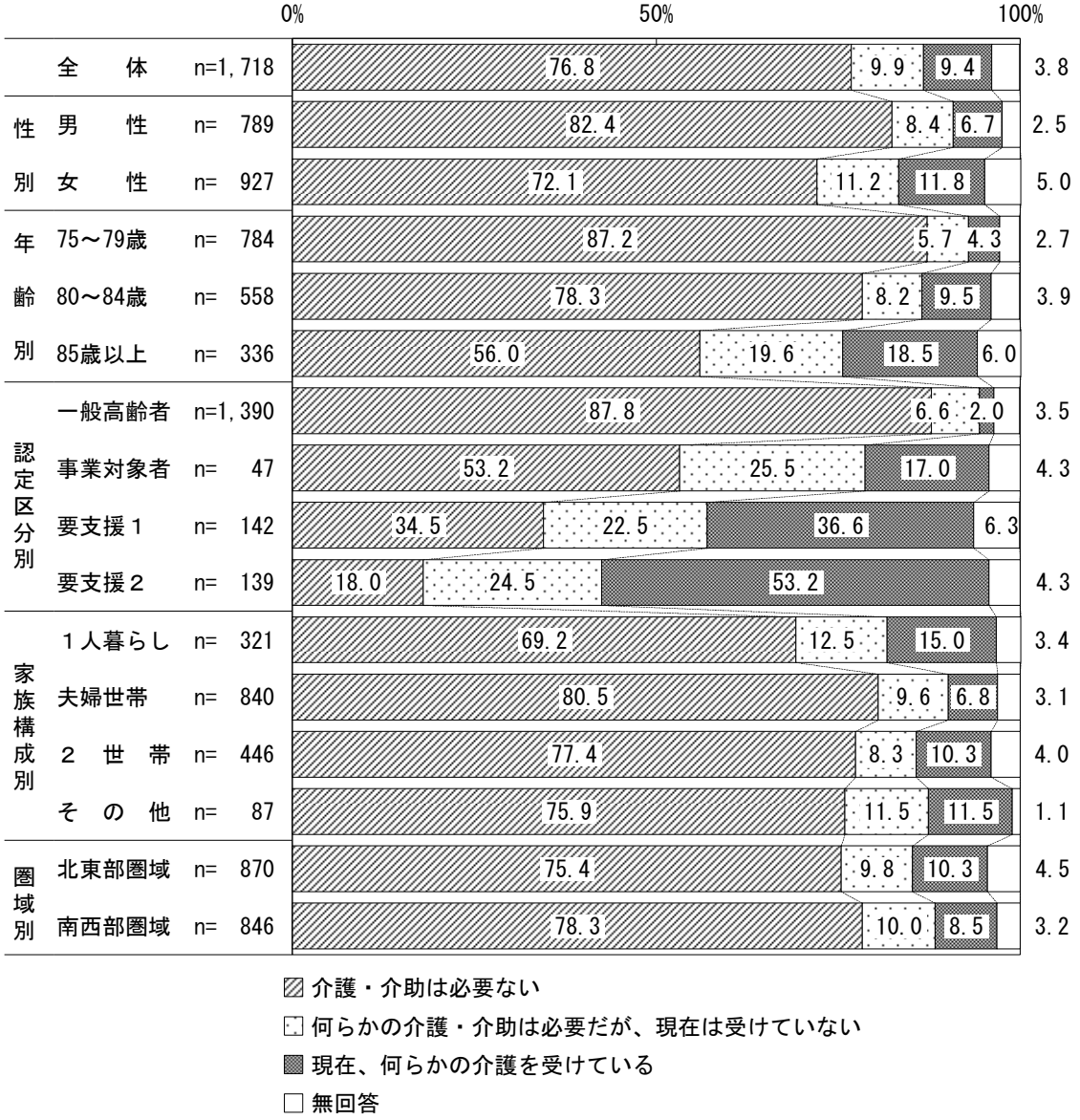
普段の生活で介護・介助が必要かたずねたところ、「介護・介助は必要ない」が 76.8%を占めており、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 9.9%、「現在、何らかの介護を受けている」が 9.4%の順となっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」を合計した＜介護が必要＞が上昇し、85 歳以上になると 40%近くを占めます。

認定区分別にみると、事業対象者及び要支援認定者の 25%前後が「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答しています。

家族構成別にみると、１人暮らし世帯は＜介護が必要＞が高くなっています。

図表８　介護・介助の必要性



(2)　介護が必要になった主な原因

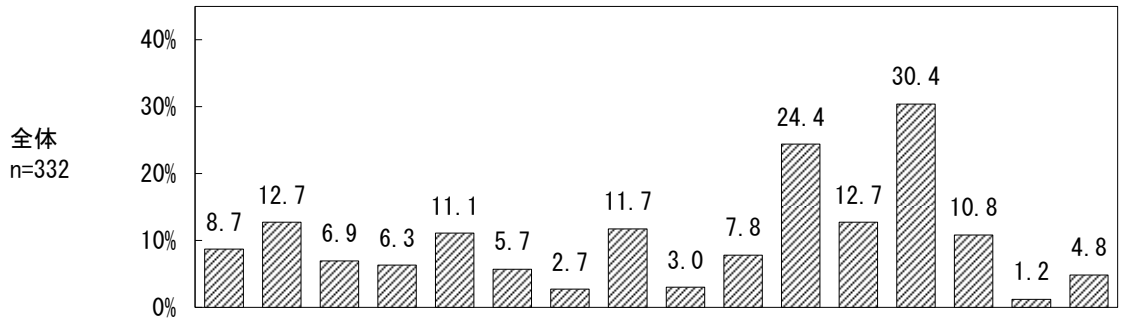
普段の生活で介護を必要としている人に、介護が必要になった主な原因をたずねたところ、「高齢による衰弱」が 30.4%と最も高く、次いで「骨折・転倒」（24.4%）、「心臓病」及び「脊椎損傷」（12.7%）などの順となっています。

性別にみると、女性は男性に比べて「骨折・転倒」が 11.8 ポイント高くなっています。

認定区分別にみると、重度化にしたがい「脊椎損傷」が高くなります。また、一般高齢者は「高齢による衰弱」が、要支援２は「骨折・転倒」が高くなっています。

図表９　介護が必要になった主な原因（複数回答）

単位：ｎは人、他は%

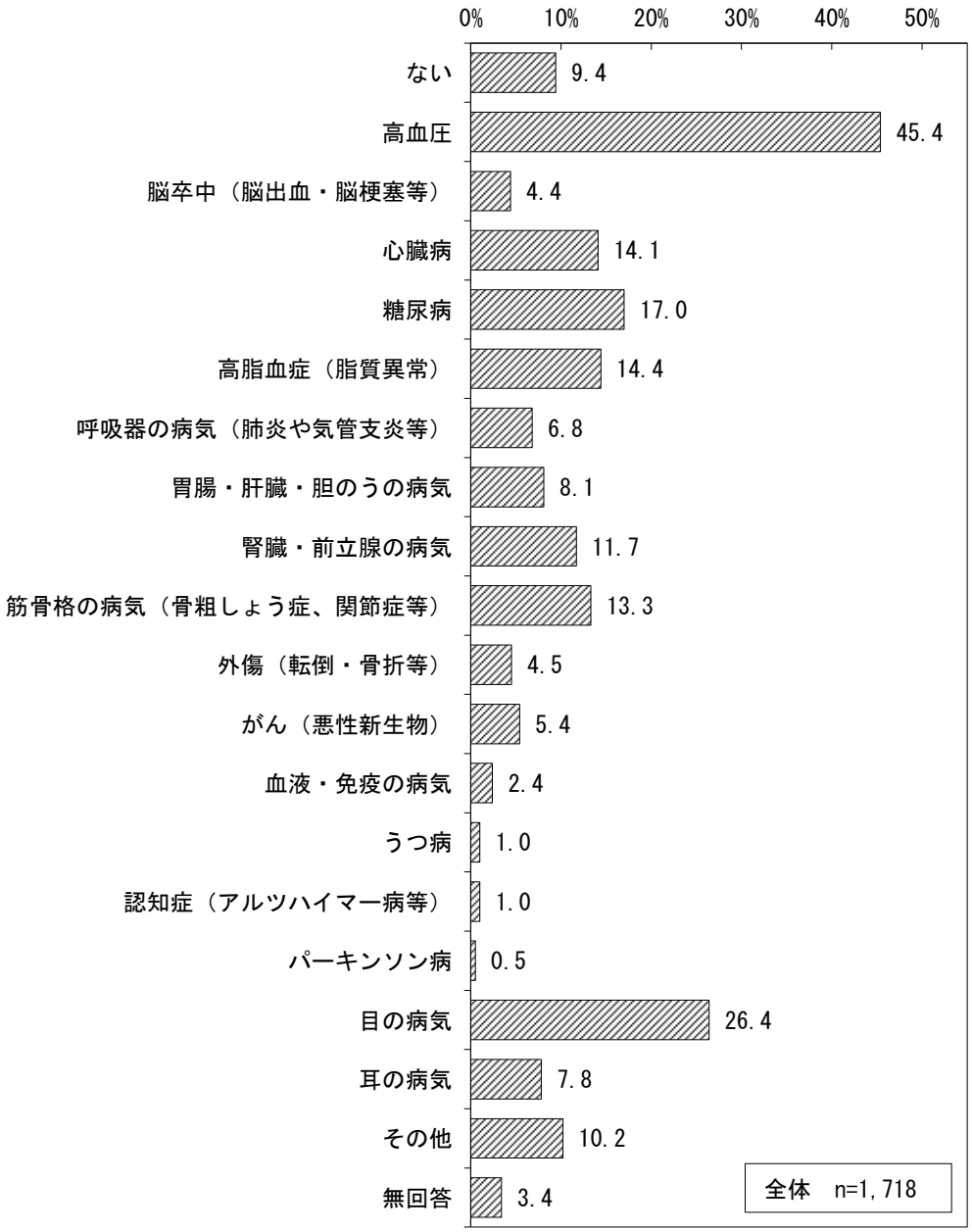


区分		n	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	がん（悪性新生物）	呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）	関節の病気（リウマチ等）	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患（透析）	視覚・聴覚障がい	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
性別	男性	119	7.6	16.0	10.1	6.7	8.4	5.9	3.4	14.3	2.5	6.7	16.8	10.1	33.6	11.8	2.5	4.2
	女性	213	9.4	10.8	5.2	6.1	12.7	5.6	2.3	10.3	3.3	8.5	28.6	14.1	28.6	10.3	0.5	5.2
認定区分別	一般高齢者	120	4.2	10.0	9.2	6.7	10.0	9.2	1.7	14.2	3.3	11.7	20.8	5.0	40.0	10.0	2.5	4.2
	事業対象者	20	5.0	15.0	5.0	－	10.0	5.0	－	10.0	－	5.0	15.0	10.0	25.0	20.0	－	15.0
	要支援１	84	10.7	14.3	3.6	7.1	7.1	6.0	4.8	10.7	2.4	3.6	19.0	16.7	27.4	11.9	－	4.8
	要支援２	108	13.0	13.9	7.4	6.5	15.7	1.9	2.8	10.2	3.7	7.4	34.3	18.5	23.1	9.3	0.9	3.7

(3)　現在、治療中または後遺症のある病気

現在、治療中または後遺症のある病気は、「高血圧」が 45.4%と突出して高く、次いで「目の病気」（26.4%）、「糖尿病」（17.0%）、「高脂血症（脂質異常）」（14.4%）などの順となっています。

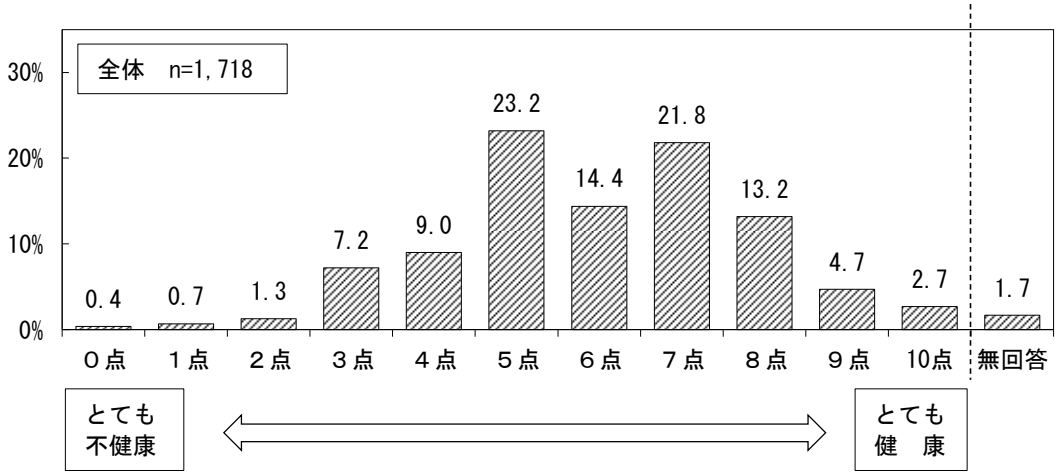
図表10　現在治療中または後遺症のある病気（複数回答）



(4)　からだの健康度

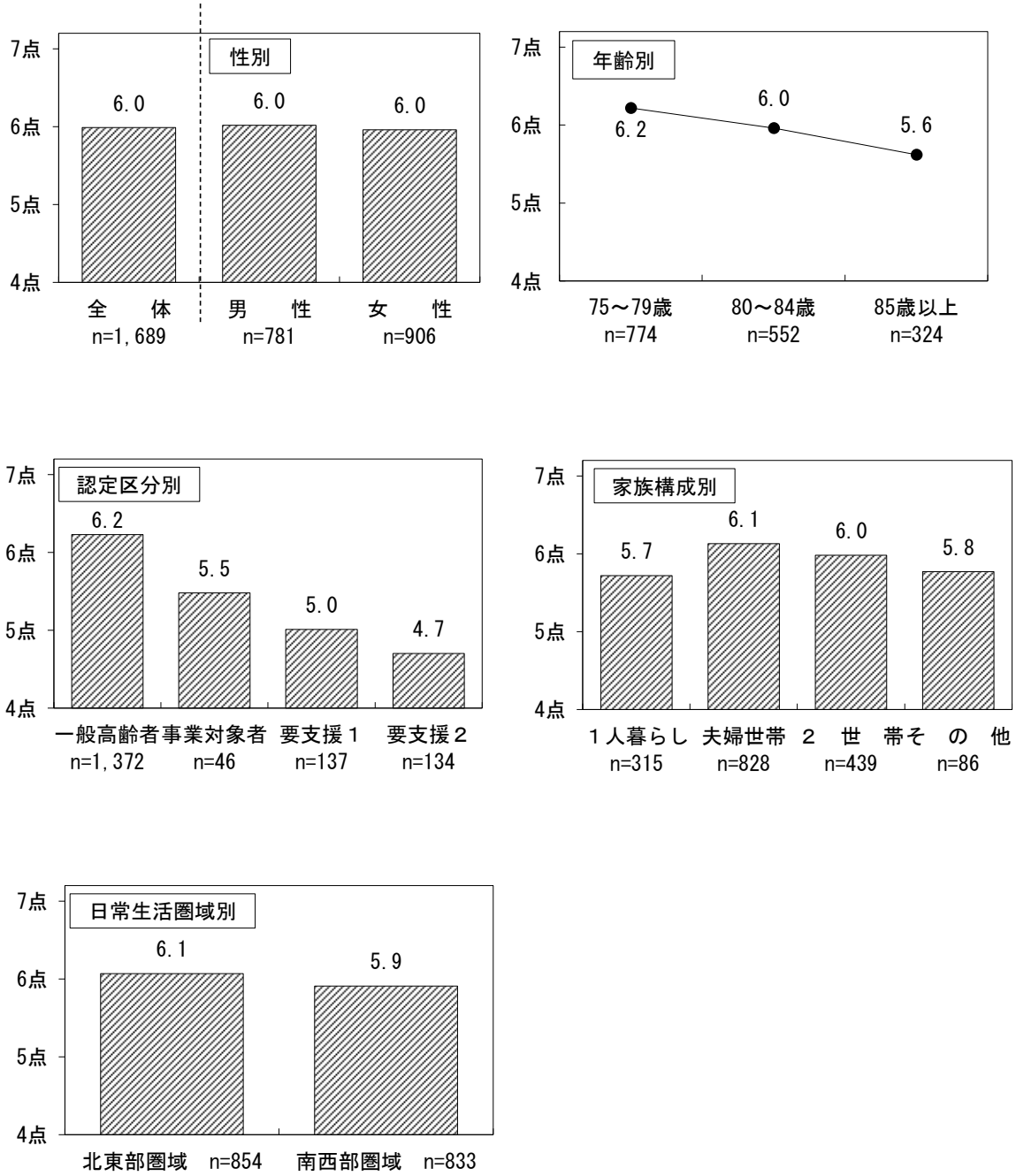
「あなたの現在のからだの健康度はどの程度ですか。「とても不健康」を０点、「とても健康」を 10 点としてご記入ください」という設問では、「５点」が 23.2%と最も高く、次いで「７点」が 21.8%などの順となっています。

図表11　からだの健康度



からだの健康度の平均点は 6.0 点です。家族構成別にみると、１人暮らし及びその他の世帯はやや低くなっています。

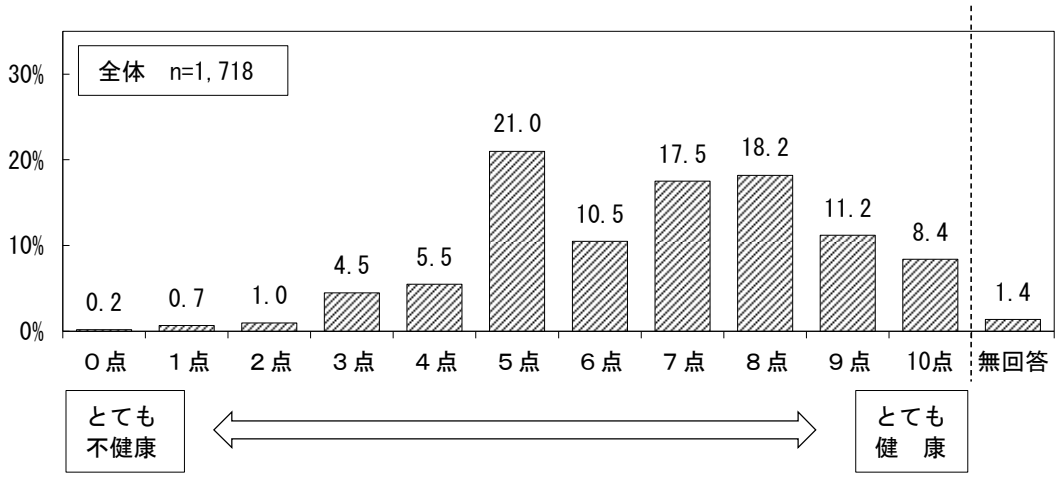
図表12　からだの健康度の平均点



(5)　こころの健康度

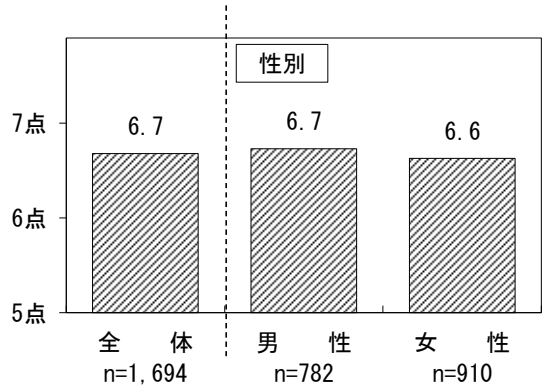
「あなたの現在のこころの健康度はどの程度ですか。「とても不健康」を０点、「とても健康」を 10 点としてご記入ください」という設問では、「５点」が 21.0%と最も高く、次いで「８点」（18.2%）、「７点」（17.5%）などの順となっており、＜８点以上＞が 37.8%あります。

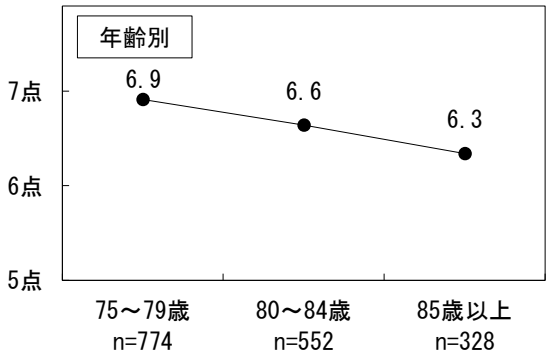
図表13　こころの健康度

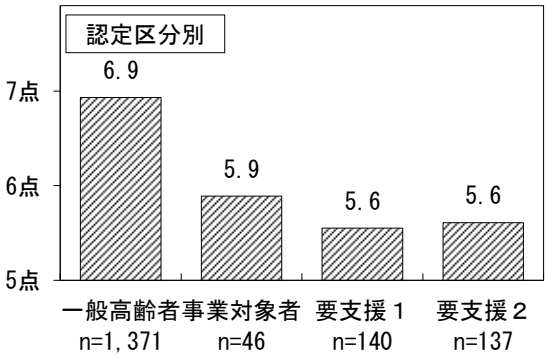


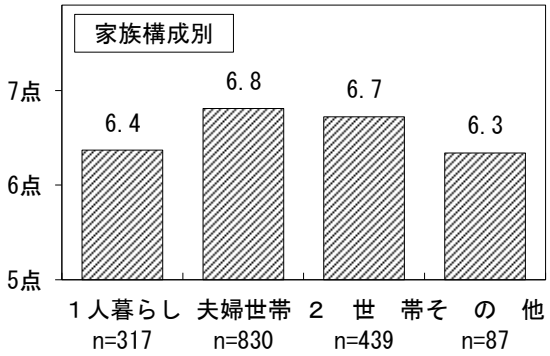
こころの健康度の平均点は 6.7 点です。年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい低下します。また、認定区分別にみると、事業対象者及び要支援認定者は低くなっています。家族構成別にみると、１人暮らし及びその他の世帯は比較的低くなっています。

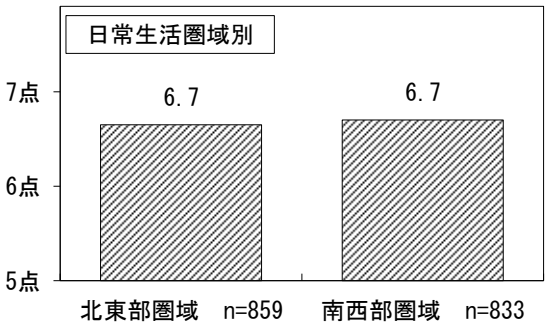
図表14　こころの健康度の平均点







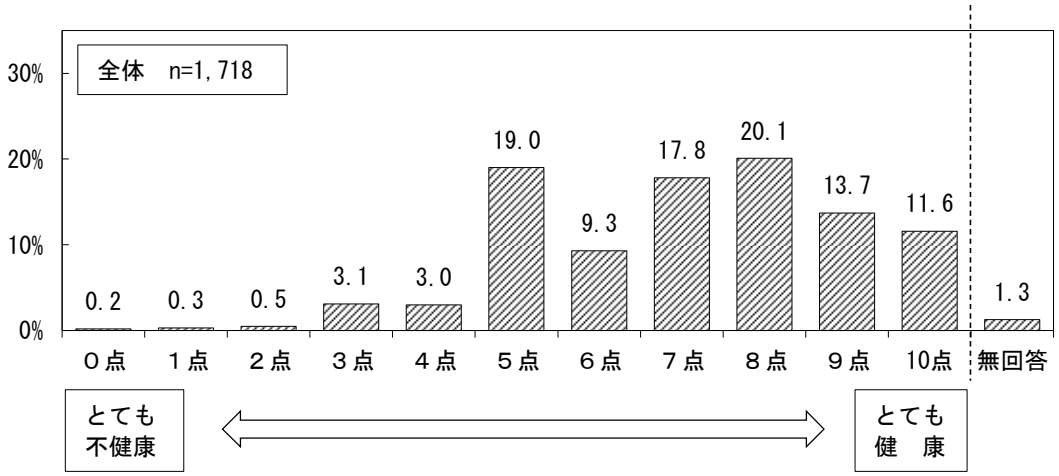




(6)　幸福度

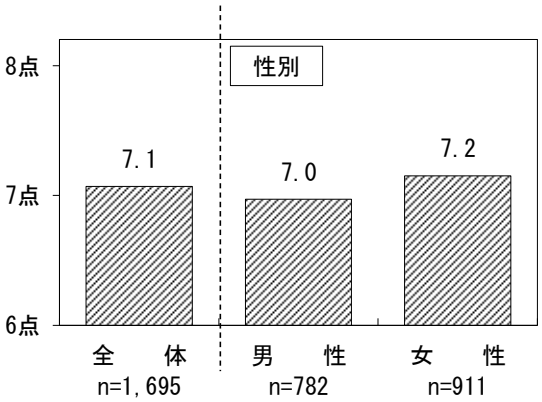
「あなたの現在の幸福度はどの程度ですか。「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を 10 点としてご記入ください」という設問では、「８点」が 20.1%と最も高く、次いで「５点」が 19.0%、「７点」が 17.8%などの順となっており、＜８点以上＞が 45.4%を占めています。

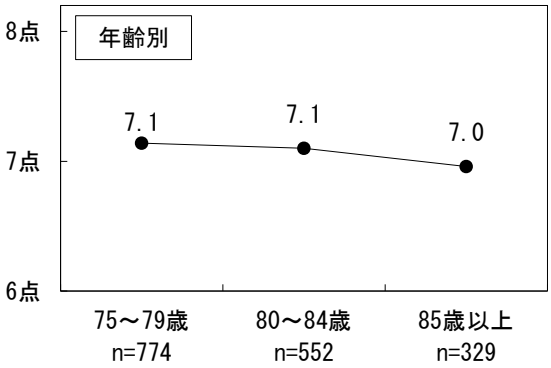
図表15　幸福度

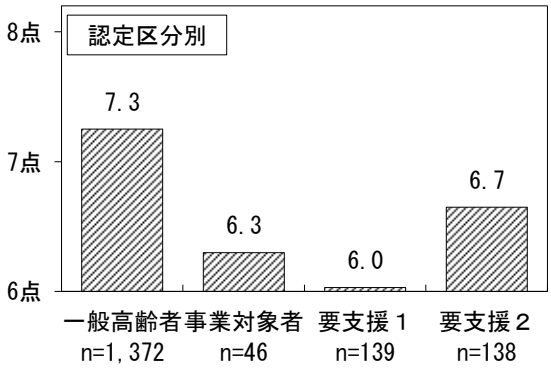


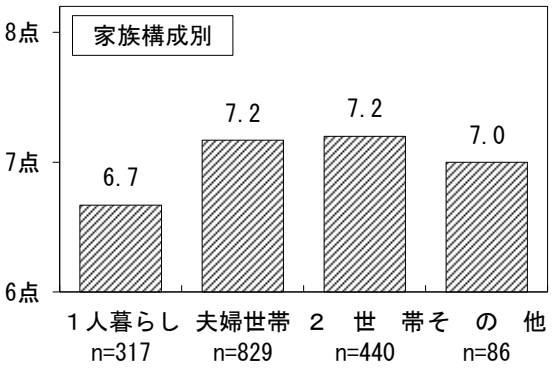
幸福度の平均点は 7.1 点です。認定区分別にみると、事業対象者及び要支援１は低い点数となっています。また、家族構成別にみると、１人暮らしは比較的低くなっています。

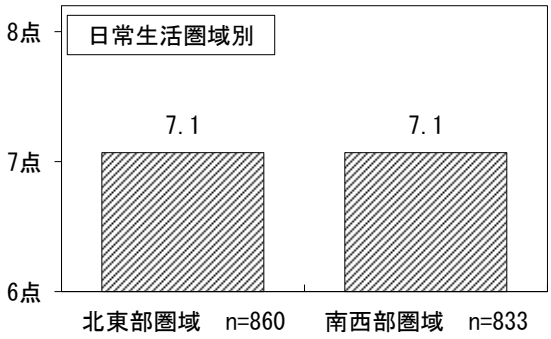
図表16　幸福度の平均点









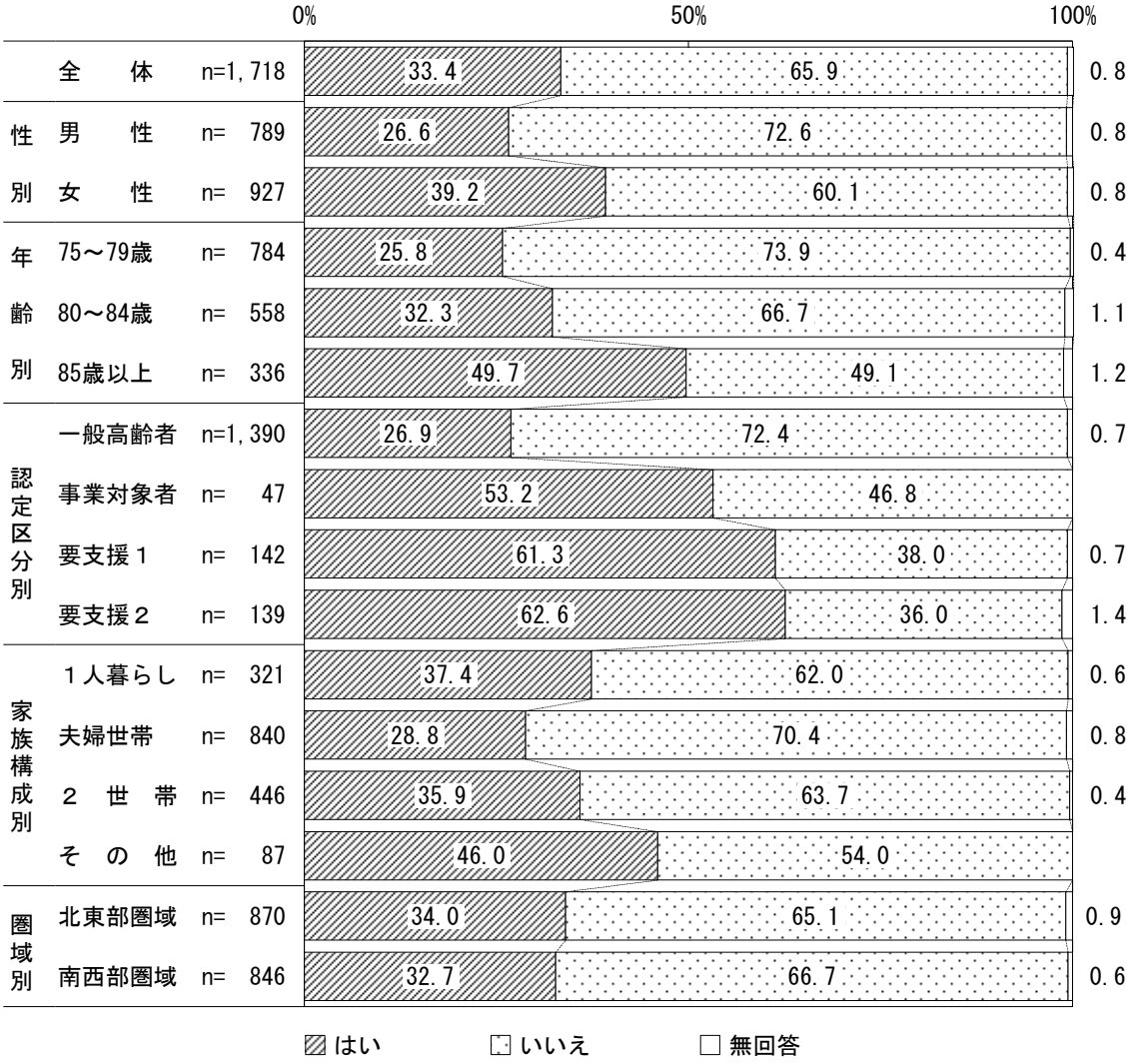


３　外　出

(1)　外出を控えているか

外出を控えている（「はい」）のは 33.4%です。「はい」を性別にみると、女性は男性に比べて 12.6 ポイント高くなっています。年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい上昇し、85 歳以上になると 50%程度になります。また、認定区分別にみると、事業対象者及び要支援認定者は過半数を占めています。さらに、家族構成別にみると、夫婦世帯は比較的低くなっています。

図表17　外出を控えているか



⑵　外出を控える理由

外出を控えている人にその理由をたずねたところ「足腰などの痛み」が 44.2%と最も高く、次いで「交通手段がない」（18.5%）、「外での楽しみがない」（16.9%）などの順となっています。

性別にみると、女性は男性に比べて「足腰などの痛み」が 13.3 ポイント高くなっています。

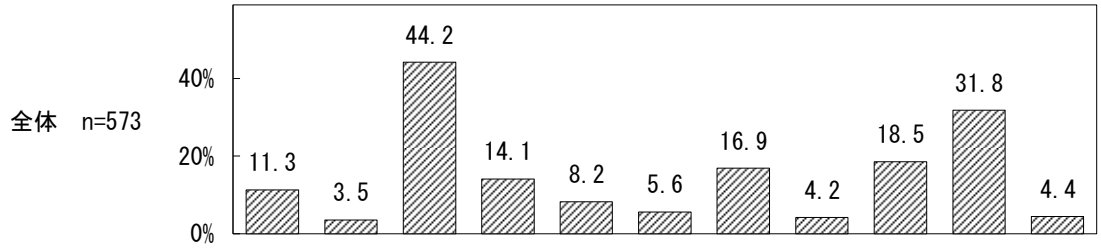
年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「交通手段がない」が上昇します。また、80 歳以上になると「足腰などの痛み」が過半数を占めます。

認定区分別にみると、重度化にしたがい「病気」、「足腰などの痛み」及び「交通手段がない」が上昇しています。

その他として図表 19 の内容が記載されており、「新型コロナウイルスの影響」が 131 件（22.9%）を占め、「足腰などの痛み」に次いで高くなっています。

図表18　外出を控える理由（複数回答）

単位：ｎは人、他は%



区分		n	病気	障害（脳卒中の後遺症等）	足腰などの痛み	トイレの心配（失禁等）	耳の障害（聞こえの問題等）	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
性別	男性	210	13.8	3.3	35.7	16.7	4.8	5.2	19.0	5.2	14.3	34.3	4.8
	女性	363	9.9	3.6	49.0	12.7	10.2	5.8	15.7	3.6	20.9	30.3	4.1
年齢別	75～79歳	202	9.9	2.0	32.2	10.4	4.5	3.5	19.8	6.4	13.4	45.5	4.0
	80～84歳	180	13.9	3.3	50.0	13.3	8.3	7.8	13.3	2.8	20.6	27.8	5.6
	85歳以上	167	7.8	3.0	51.5	17.4	13.2	6.0	16.8	3.0	24.0	21.0	4.2
認定区分別	一般高齢者	374	8.6	1.3	31.8	12.0	6.4	5.1	17.9	5.6	14.7	40.6	5.3
	事業対象者	25	12.0	－	64.0	16.0	12.0	4.0	16.0	－	28.0	16.0	－
	要支援１	87	13.8	3.4	65.5	18.4	8.0	8.0	20.7	1.1	26.4	16.1	4.6
	要支援２	87	20.7	13.8	70.1	18.4	14.9	5.7	9.2	2.3	24.1	13.8	1.1
家族構成別	１人暮らし	120	13.3	1.7	50.8	13.3	10.0	6.7	13.3	5.8	24.2	30.0	5.8
	夫婦世帯	242	11.6	4.1	38.8	14.0	5.8	5.4	18.6	5.0	16.1	33.5	5.0
	２世帯	160	9.4	2.5	43.8	16.3	11.9	5.0	18.1	2.5	17.5	33.8	3.1
	その他	40	10.0	7.5	57.5	7.5	2.5	7.5	17.5	2.5	15.0	25.0	2.5
圏域別	北東部圏域	296	11.5	3.4	45.9	14.9	10.1	6.4	14.5	3.7	19.6	31.4	4.4
	南西部圏域	277	11.2	3.6	42.2	13.4	6.1	4.7	19.5	4.7	17.3	32.1	4.3

図表19　外出を控える理由（その他、複数回答）

- 新型コロナウイルスの影響　131件
- 配偶者の介護　３件
- 車の運転
- 車の運転を休止（中止）している
- Ｎバスが不便
- Ｎバスが有料になったので。今までは片道歩いて帰りはＮバスで買い物に行っていた
- 足の障害
- おっくう、ものぐさ
- 外に出るのが苦になった
- 外出の必要がない
- 気が向いたときは出る
- 生活費にあまり余裕がない
- 去年主人を亡くした
- 事故等の防止のため
- 自然に回数が減っている
- 脊髄を痛めているため
- 体力の低下が気になり始めた
- 立ちくらみが多い
- 疲れるので外出は１日おきにしている
- 妻の死亡により各手続きが多いため
- 寒いため
- 天候による
- 転倒しないよう
- 風速４ｍを目安に、雨天では散歩だけでは外出しないようにしています。

⑶　移動手段

移動手段をたずねたところ、「徒歩」が 62.1%と最も高く、次いで「自動車（自分で運転）」（47.6%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（29.7%）、「電車（リニモ含む）」及び「路線バス」（24.2%）などの順となっています。

性別にみると、男性は女性に比べて「自動車（自分で運転）」が高く、「自動車（人に乗せてもらう）」が低くなっています。また、女性は男性に比べて「路線バス」や「タクシー」などの公共交通機関が高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「自動車（自分で運転）」は低くなるものの、85 歳以上においても 21.1%あります。また、公共交通機関をみると、年齢が高くなるにしたがい「路線バス」及び「タクシー」が上昇する一方で、「電車（リニモ含む）」が低下しています。

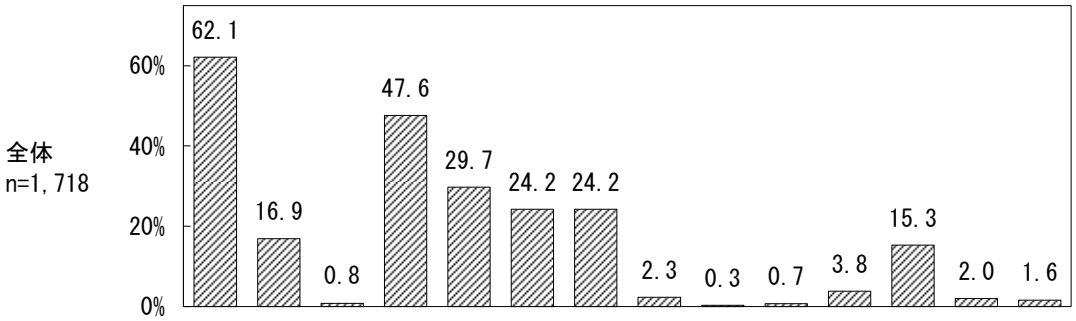
認定区分別にみると、重度化にしたがい「自動車（人に乗せてもらう）」、「病院や施設のバス」、「歩行器・シルバーカー」及び「タクシー」が上昇します。また、一般高齢者、事業対象者及び要支援 1 は「徒歩」が、要支援 2 は「自動車（人に乗せてもらう）」が過半数を占めています。

家族構成別にみると、1 人暮らし及びその他の世帯は「路線バス」及び「タクシー」が比較的高い率です。

日常生活圏域別にみると、南西部圏域は北東部圏域に比べて「徒歩」及び「電車（リニモ含む）」が 10 ポイント以上高くなっています。

図表20　移動手段（複数回答）

単位：ｎは人、他は%



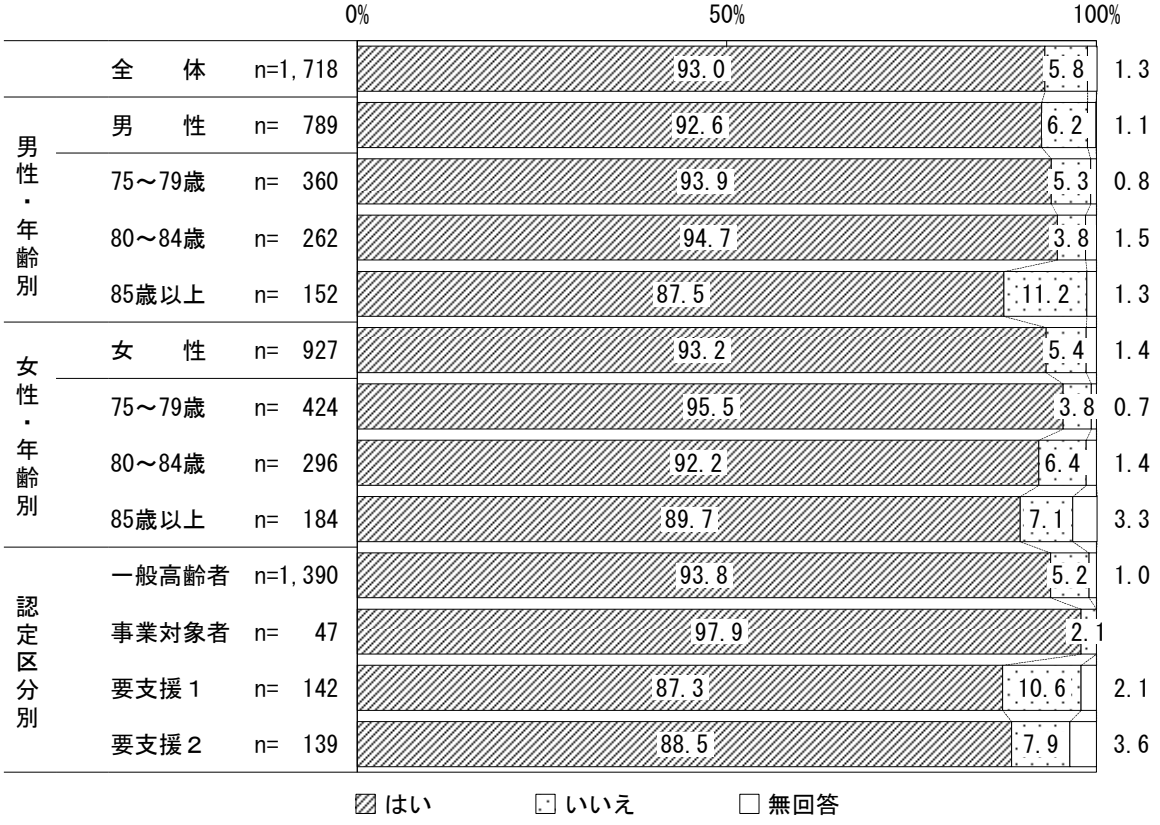
区分		n	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車（リニモ含む）	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
性別	男性	789	64.9	20.8	0.8	67.7	17.2	26.4	20.4	1.8	0.1	1.1	1.3	10.6	1.5	1.5
	女性	927	59.8	13.5	0.9	30.3	40.3	22.3	27.4	2.8	0.4	0.3	5.9	19.2	2.5	1.7
年齢別	75～79歳	784	66.6	19.4	0.8	60.6	25.3	27.2	23.3	1.3	0.1	0.1	1.3	8.4	1.9	1.5
	80～84歳	558	63.1	16.5	1.4	45.9	31.0	24.9	25.1	2.9	0.4	0.7	3.6	17.0	1.8	2.0
	85歳以上	336	52.7	12.8	－	21.1	36.9	18.2	25.3	3.6	－	2.1	9.8	27.7	3.0	1.5
認定区分別	一般高齢者	139	65.3	19.4	0.9	55.2	26.0	27.0	23.8	0.8	－	0.1	0.9	10.6	1.9	1.5
	事業対象者	47	68.1	17.0	－	21.3	29.8	14.9	29.8	6.4	－	－	2.1	23.4	－	2.1
	要支援１	142	50.7	7.0	－	16.9	42.3	14.1	32.4	6.3	0.7	4.9	14.8	33.8	2.8	2.8
	要支援２	139	39.6	2.2	0.7	11.5	53.2	10.1	17.3	12.2	2.9	2.9	22.3	39.6	2.9	1.4
家族構成別	１人暮らし	321	63.9	16.5	0.9	32.4	22.7	25.5	34.0	2.5	0.3	0.6	5.9	25.5	2.8	1.9
	夫婦世帯	840	62.7	17.4	0.7	57.1	26.4	25.2	22.4	2.0	0.4	0.4	1.8	12.1	1.5	1.4
	２世帯	446	61.2	17.5	0.9	42.8	38.6	21.1	19.3	2.2	0.2	1.1	4.9	11.9	1.8	1.8
	その他	87	62.1	11.5	1.1	40.2	41.4	29.9	32.2	5.7	－	2.3	6.9	20.7	4.6	1.1
圏域別	北東部圏域	870	55.7	19.5	0.9	48.6	29.0	18.3	22.2	2.3	0.2	0.7	4.6	13.2	1.7	2.0
	南西部圏域	846	68.7	14.1	0.7	46.3	30.5	30.3	26.2	2.4	0.4	0.7	3.0	17.4	2.4	1.3

4　口腔・食事

(1)　歯磨きを毎日しているか

歯磨きを毎日している（「はい」）のは93.0%となっており、女性は年齢が高くなるにしたがい低下しています。また、認定区分別にみると、要支援認定者は80%台の低い率となっています。

図表21　歯磨きを毎日しているか



(2)　共食の機会

誰かと食事をともにする機会があるかたずねたところ､｢毎日ある｣が 54.8%と最も高く、次いで「月に何度かある」（16.5%）などの順となっています。その一方で、「ほとんどない」が 7.6%あります。

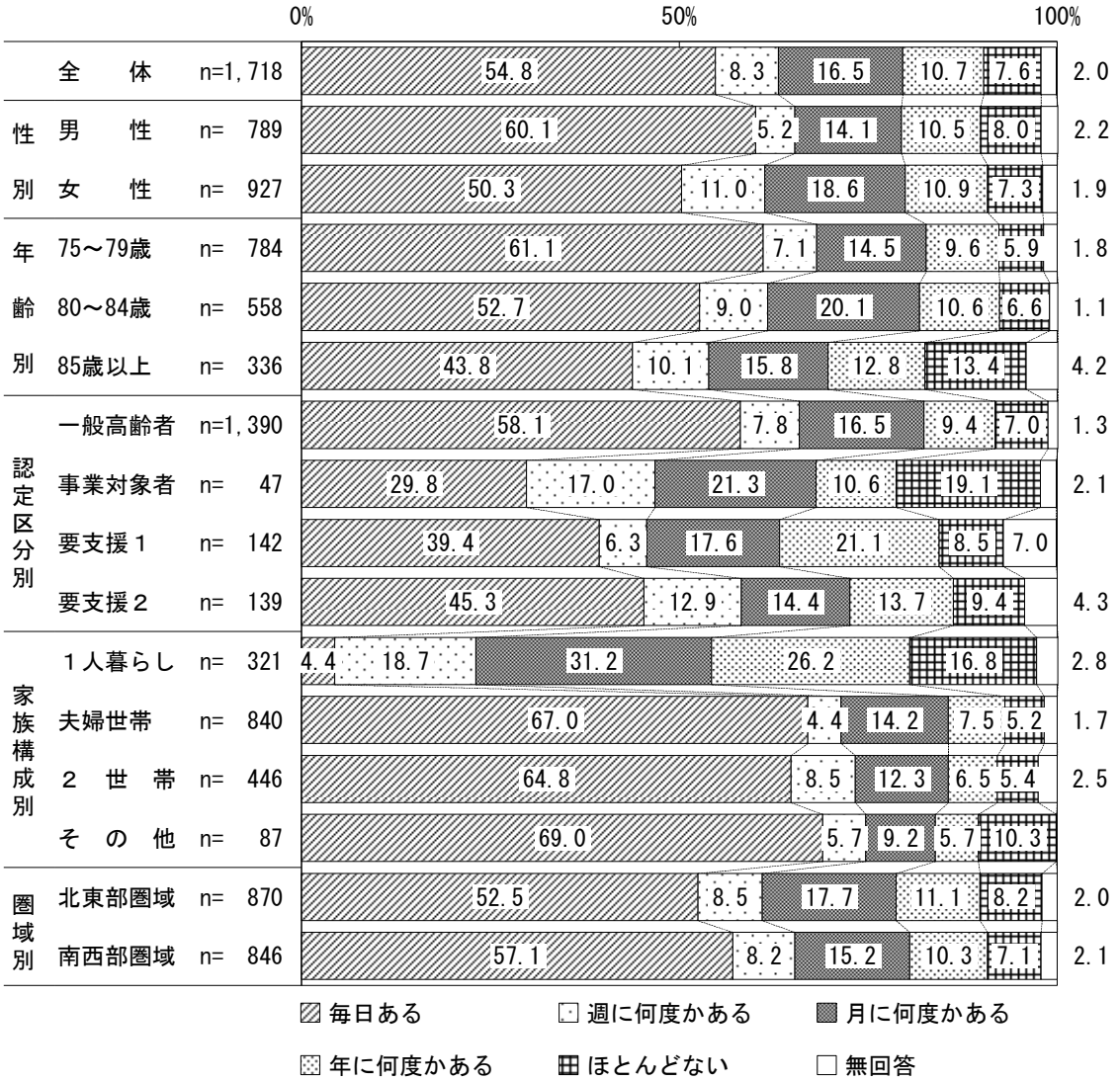
性別にみると、男性は女性に比べて「毎日ある」が 10 ポイント近く高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「毎日ある」が低下します。

認定区分別にみると、事業対象者は「毎日ある」が低く、「ほとんどない」が高くなっています。

家族構成別にみると、１人暮らし世帯は「ほとんどない」が 16.8%の高い率となっており、共食の機会が少ないことがわかります。

図表22　共食の機会



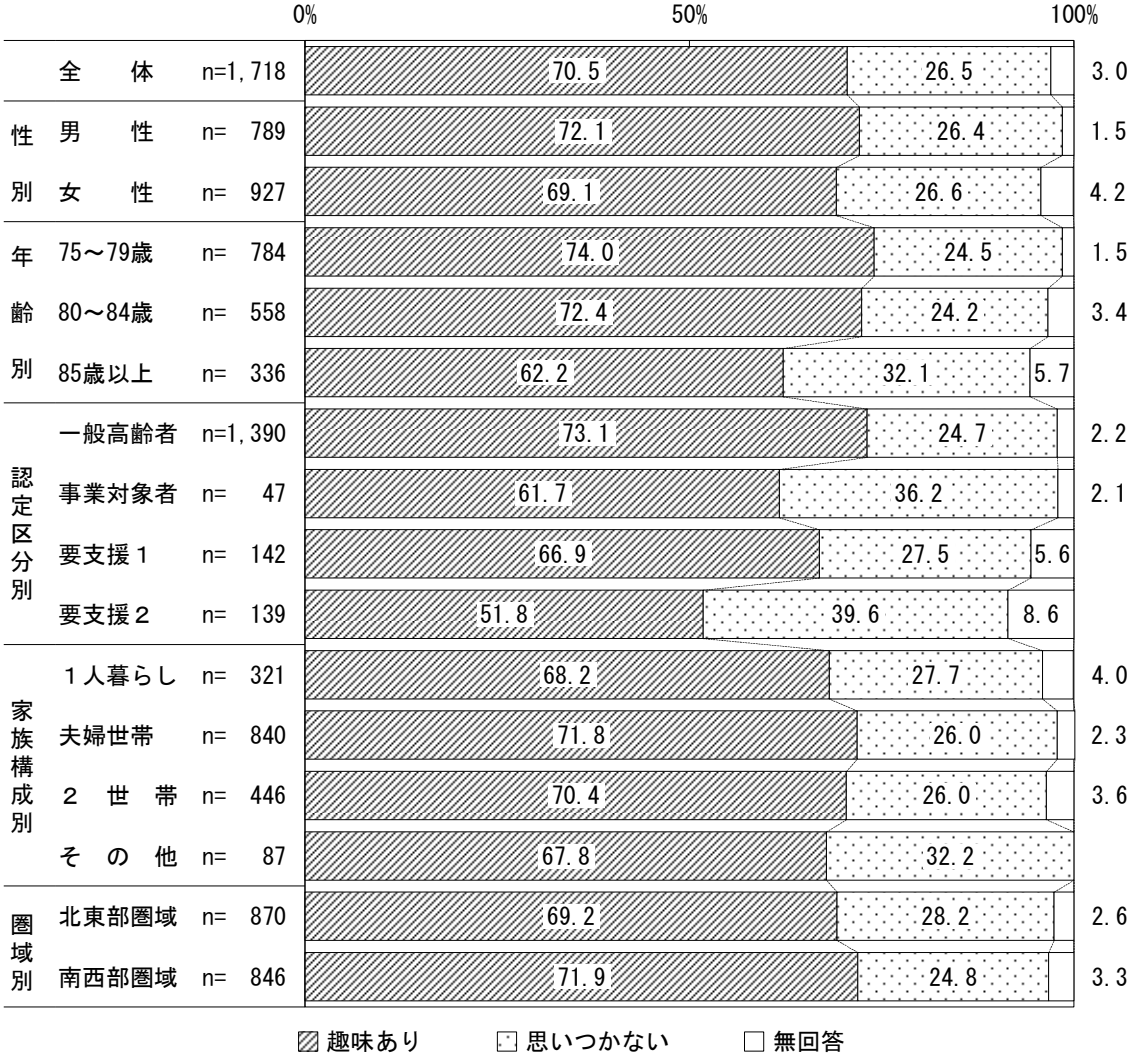
５　趣味・生きがい

(1)　趣　味

趣味があるかたずねたところ、「趣味あり」が 70.5%を占めています。

「趣味あり」を年齢別にみると、85 歳以上になると著しく低下します。また、認定区分別にみると、要支援２は 50%台の低い率です。

図表１０　趣　味

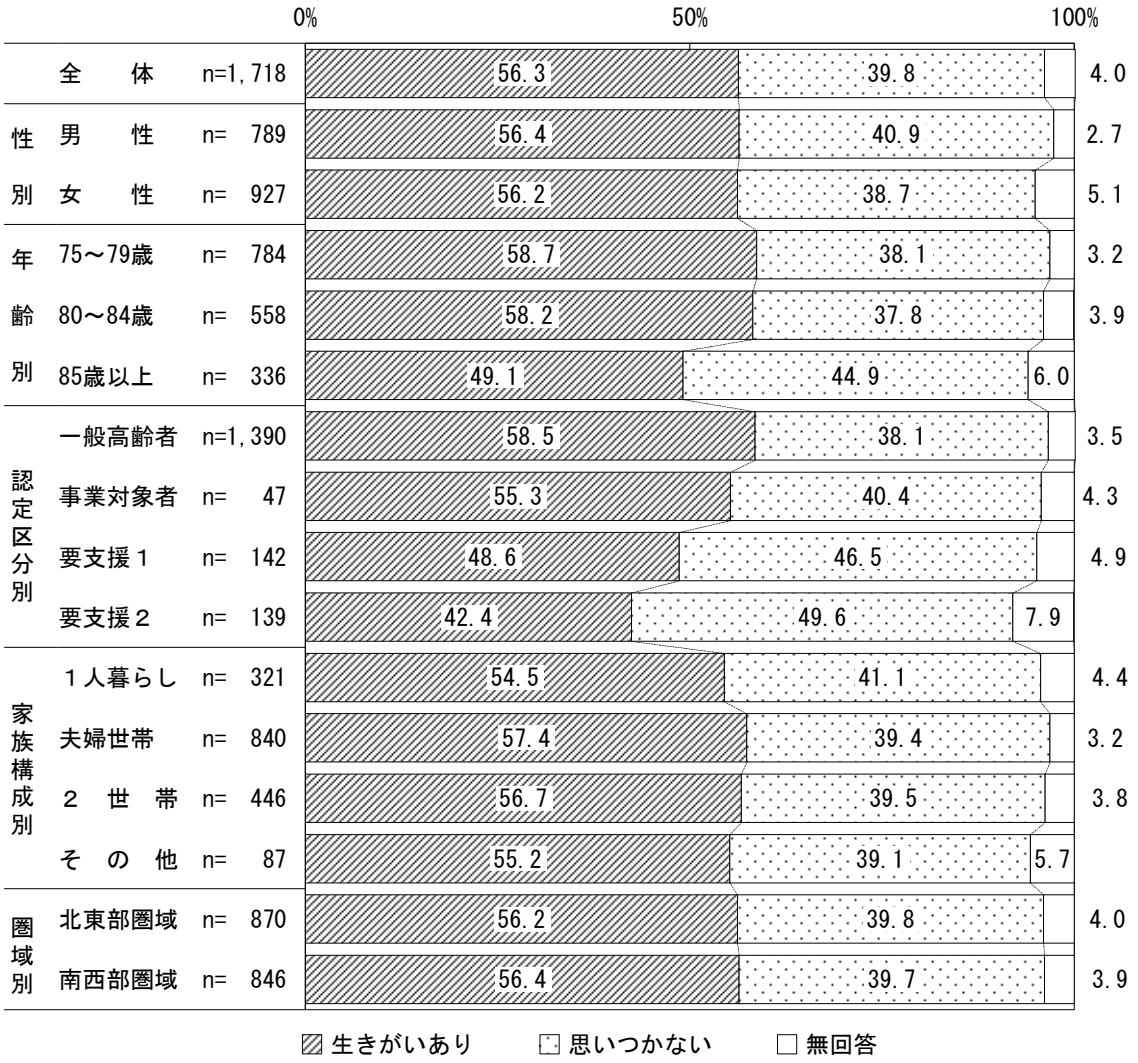


(2)　生きがい

生きがいがあるかたずねたところ、「生きがいあり」は 56.3%となっています。

「生きがいあり」を年齢別にみると、85 歳以上になると著しく低下します。また、認定区部別にみると、重度化にしたがい低下し、要支援認定者は 50%を下回ります。

図表23　生きがい



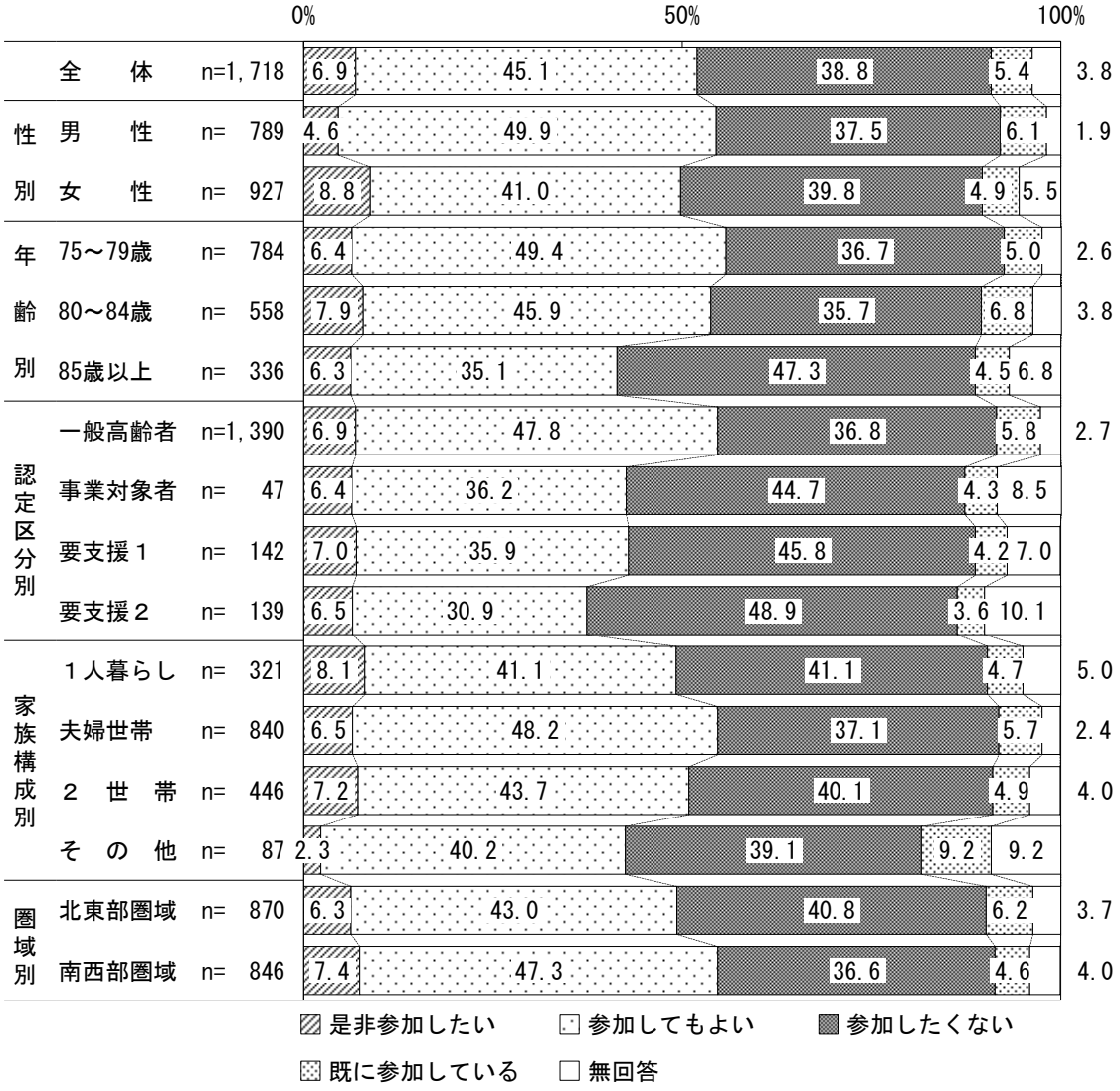
６　地域との関わり

(1)　地域活動への参加者としての参加意向

地域活動への参加者としての参加意向をたずねたところ、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合計した＜参加意向＞が 52.0%です。

＜参加意向＞を年齢別にみると、85 歳以上になると急激に低下します。また、認定区分別にみると、一般高齢者は過半数を占めています。家族構成別にみると、夫婦世帯は比較的高い率です。日常生活圏域別にみると、南西部圏域は北東部圏域に比べて 5.4 ポイント高くなっています。

図表24　地域活動への参加者としての参加意向

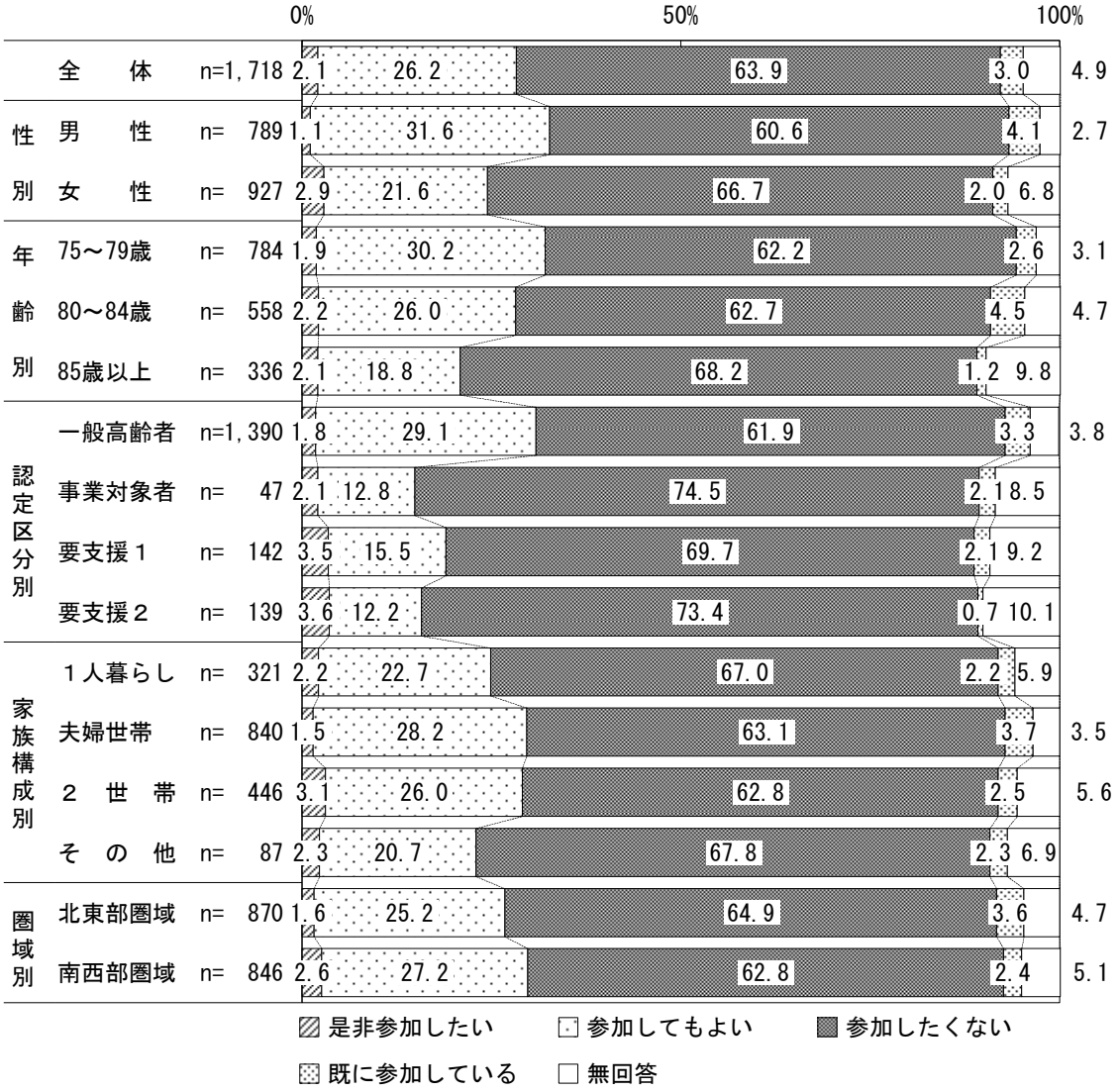


(2)　地域活動への企画・運営としての参加意向

地域活動への企画・運営としての参加意向をたずねたところ、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合計した＜参加意向＞が 28.3%です。

＜参加意向＞を性別にみると、男性は女性に比べて 8.2 ポイント高くなっています。年齢別にみると、75～79 歳は 30%以上の高い率となっており、その後は年齢が高くなるにしたがい低下します。また、認定区分別にみると、一般高齢者は 30%以上の高い率です。家族構成別にみると、夫婦世帯及び 2 世帯は比較的高い率となっています。さらに、日常生活圏域別にみると、南西部圏域は北東部圏域に比べてやや高くなっています。

図表25　地域活動への企画・運営としての参加意向

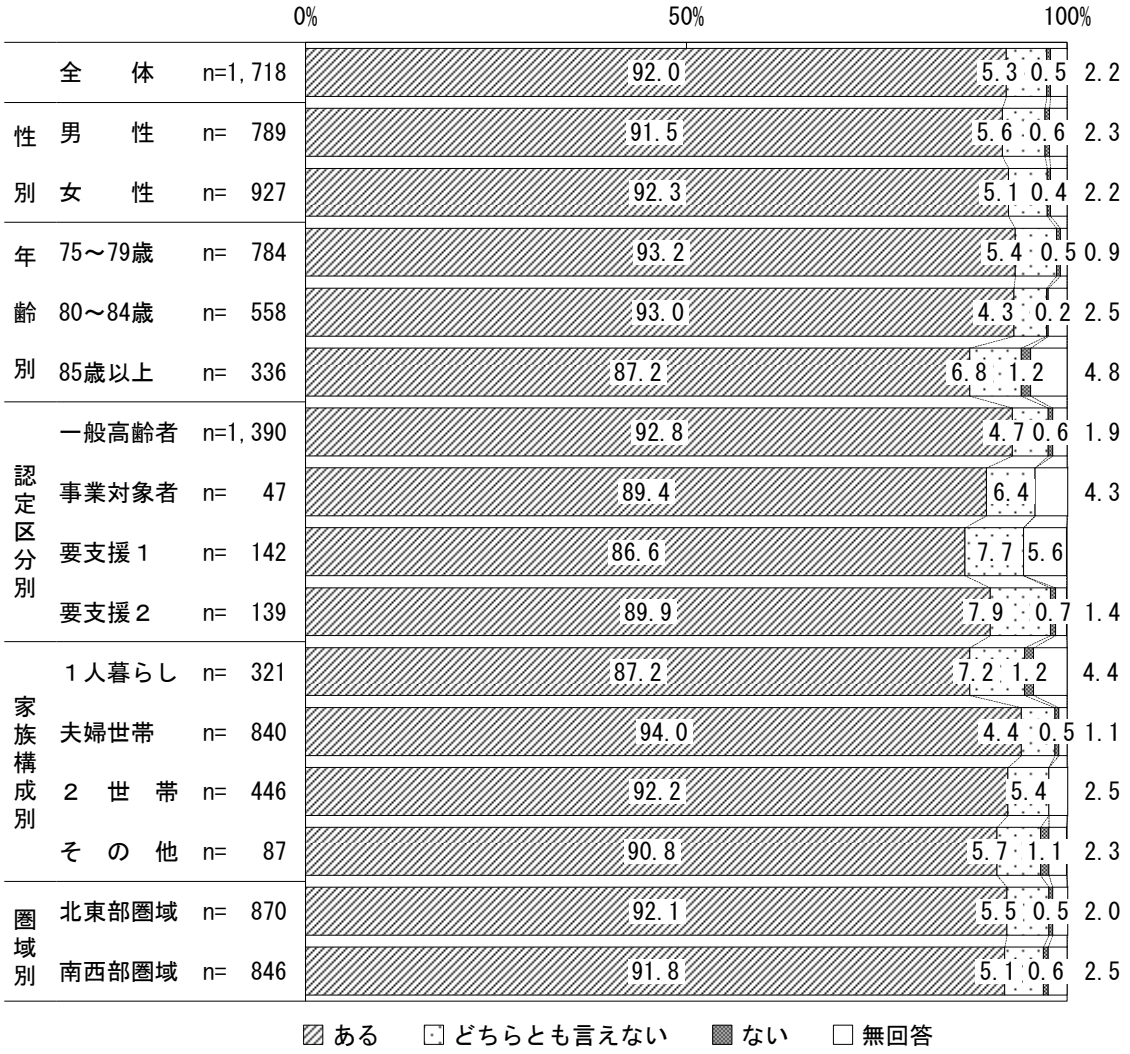


(3)　居場所

居場所があるかたずねたところ、「ある」が 92.0%を占めており、「どちらとも言えない」が 5.3%、「ない」が 0.5%となっています。

「ある」を年齢別にみると、85 歳以上になると低下します。また、家族構成別にみると、１人暮らしは比較的低い率です。

図表26　居場所

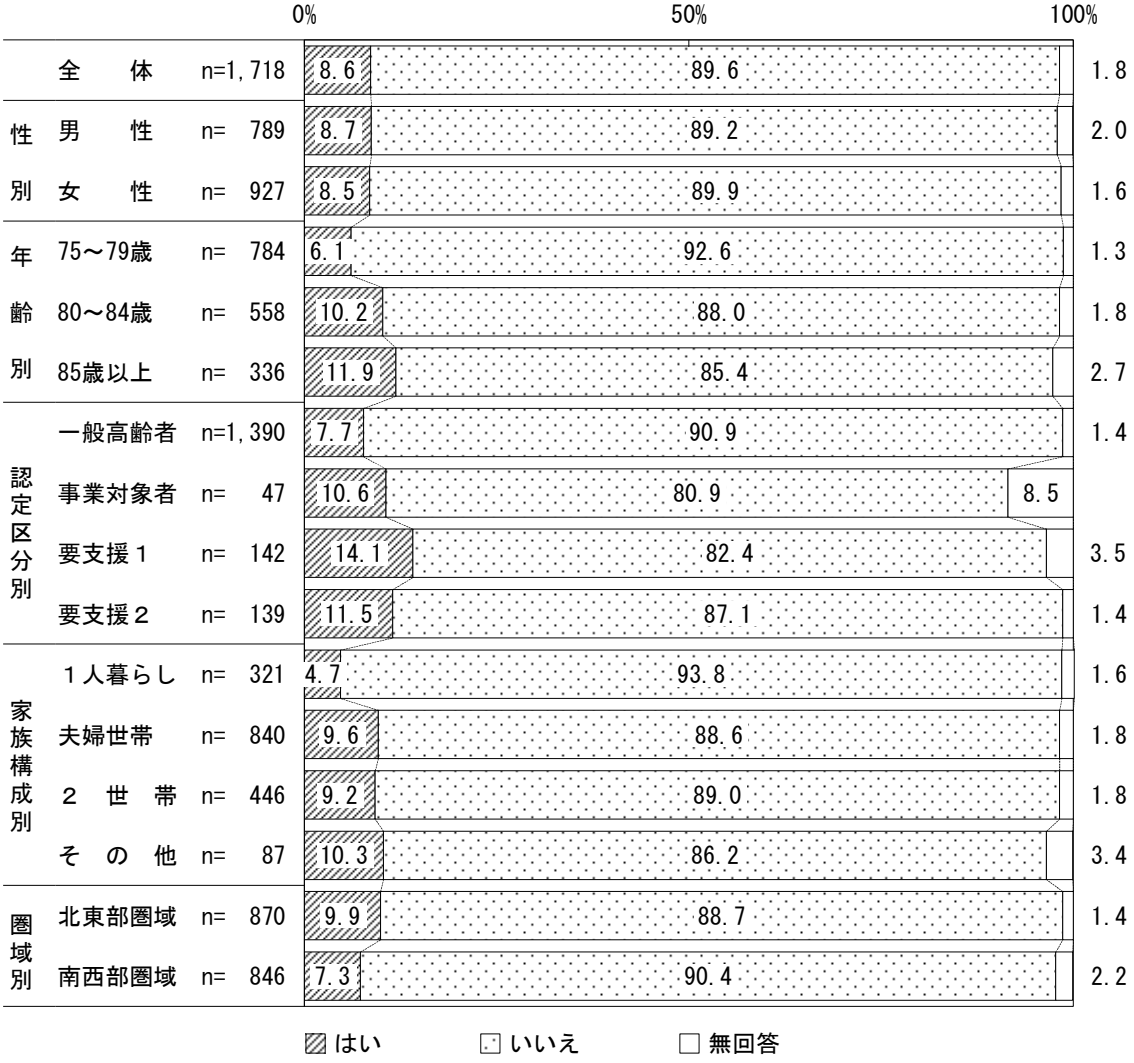


7　認知症

(1)　認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるか

認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいる(「はい」)のは 8.6%です。年齢別にみると、80 歳以上になると 10%を超えます。また、認定区分別にみると、要支援１はやや高い率となっています。家族構成別にみると、１人暮らし世帯は低い率です。さらに、日常生活圏域別にみると、北東部圏域は南西部圏域に比べてやや高いことが特徴としてあげられます。

図表27　認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるか

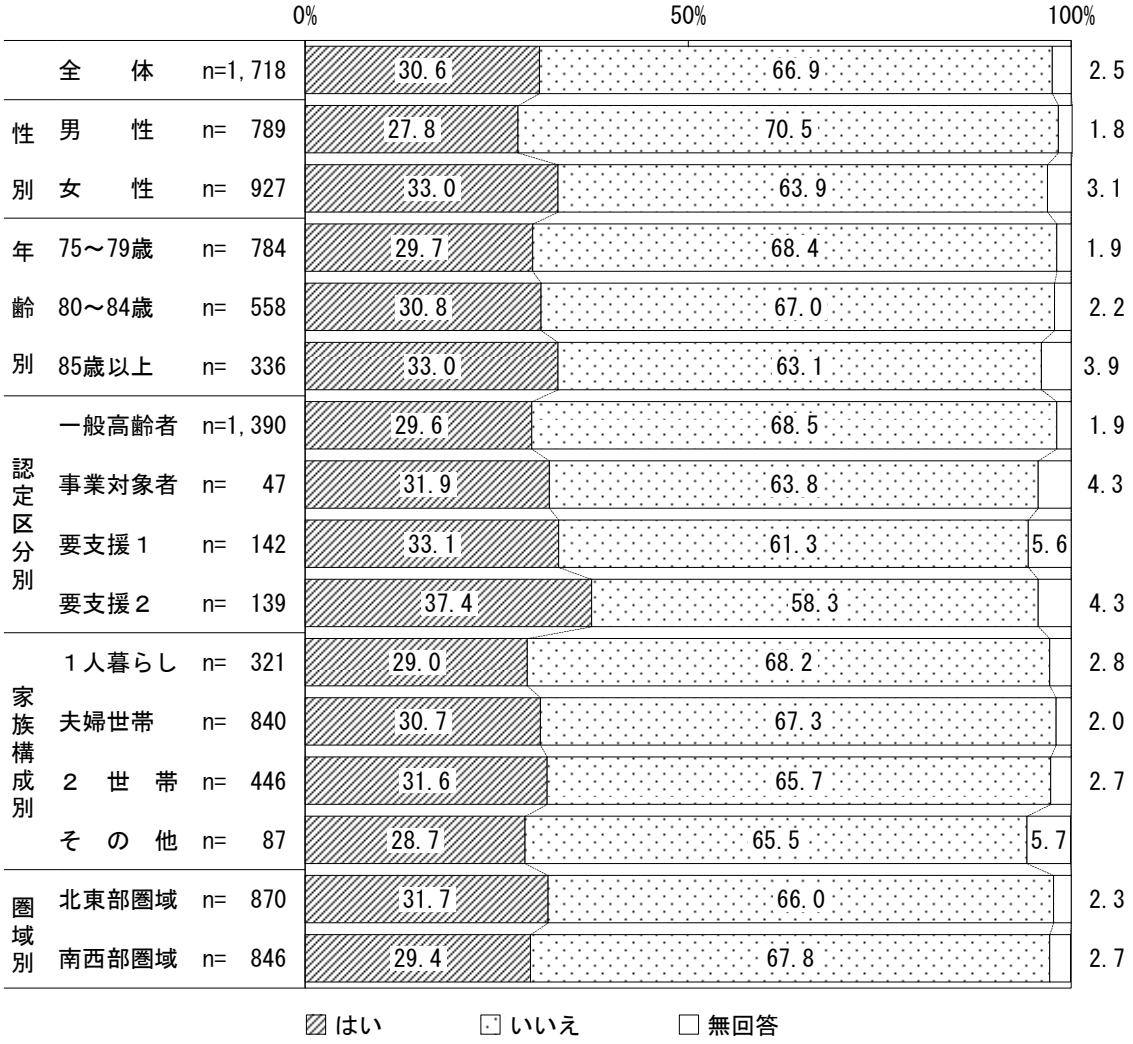


(2)　認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口の認知度（「はい」）は、30.6%です。

認知度を性別にみると、女性は男性に比べて 5.2 ポイント高くなっています。また、認定区分別にみると、重度化にしたがい上昇し、要支援２では 35%を超えます。

図表28　認知症に関する相談窓口の認知度



8　生活機能評価

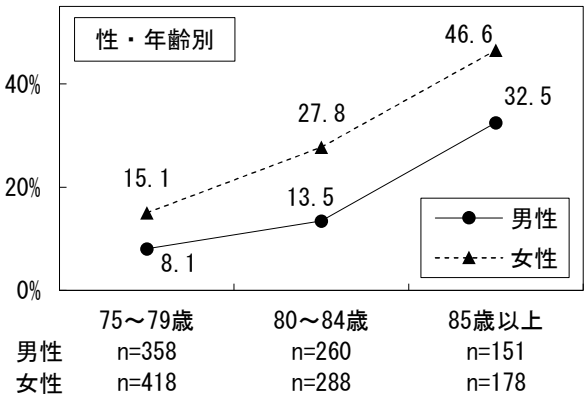
(1)　運動機能の低下者

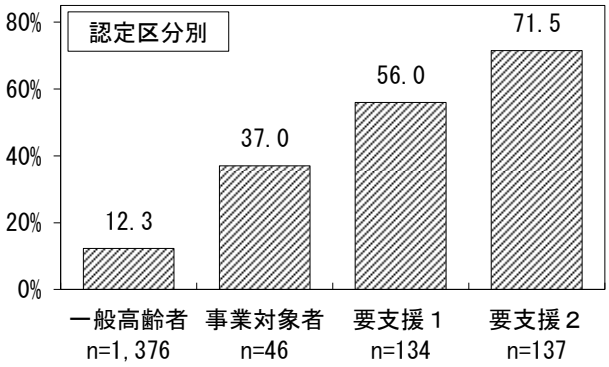
国の手引きに基づき、運動機能の状態を評価したところ、運動機能の「低下者」は男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇し、特に女性は 85 歳以上になると 40%を超えます。また、認定状況別にみると、重度化にしたがい上昇し、要支援２は 70%を超える非常に高い率です。家族構成別にみると、夫婦世帯はやや低い率となっています。

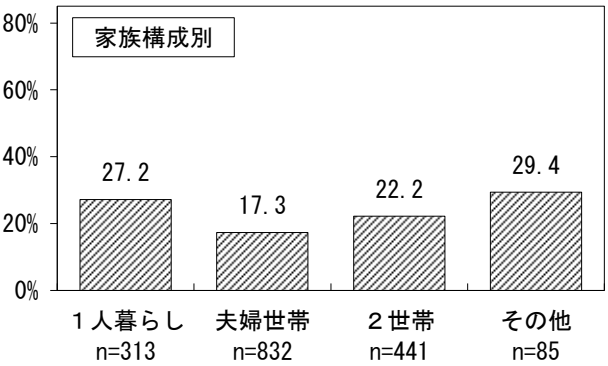
【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、５項目のうち３項目以上に該当する人を運動機能の「低下者」と判定しています。

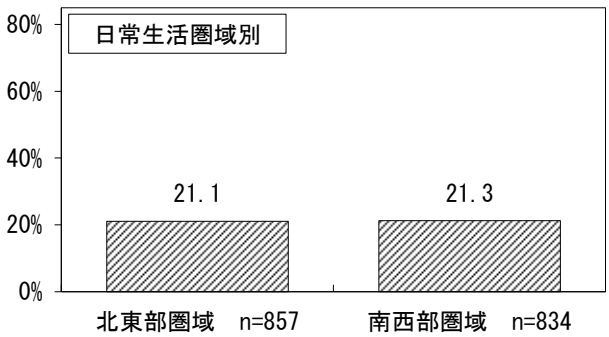
設　　問	該当する選択肢
問７　階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	３．できない
問８　椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	３．できない
問９　15分くらい続けて歩いていますか	３．できない
問10　過去１年間に転んだ経験がありますか	１．何度もある ２．１度ある
問11　転倒に対する不安は大きいですか	１．とても不安である ２．やや不安である

図表29　運動機能の低下者









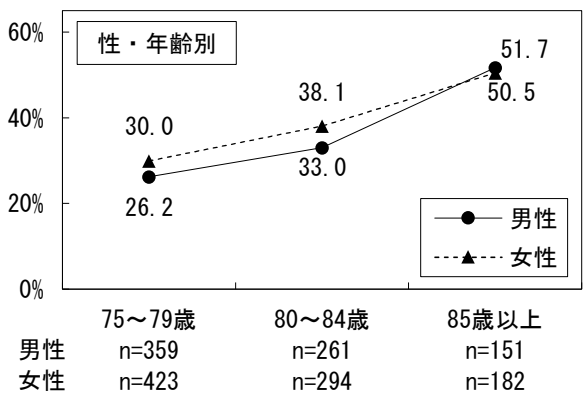
(2)　転倒リスクのある高齢者

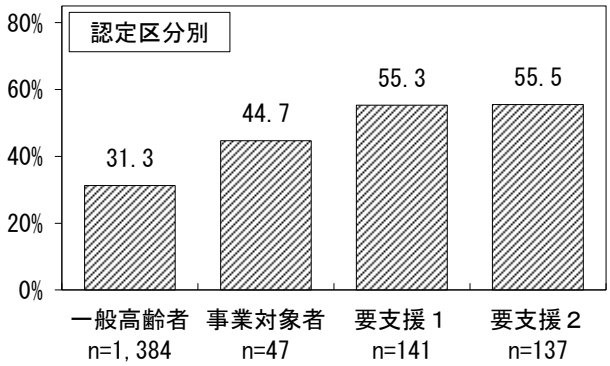
国の手引きに基づき、転倒リスクを評価したところ、転倒リスクの「該当者」は男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇し、85 歳以上になると過半数を占めます。認定区分別にみると、要支援認定者は 50%を超える高い率です。家族構成別にみると、１人暮らし世帯は比較的高くなっています。さらに、日常生活圏域別みると、北東部圏域は南西部圏域に比べて 4.0 ポイント高くなっています。

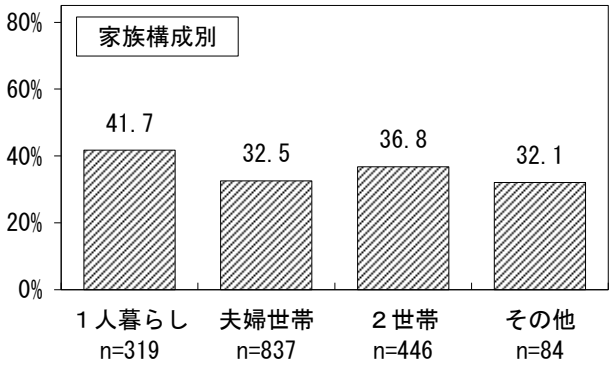
【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を転倒リスクの「該当者」と判定しています。

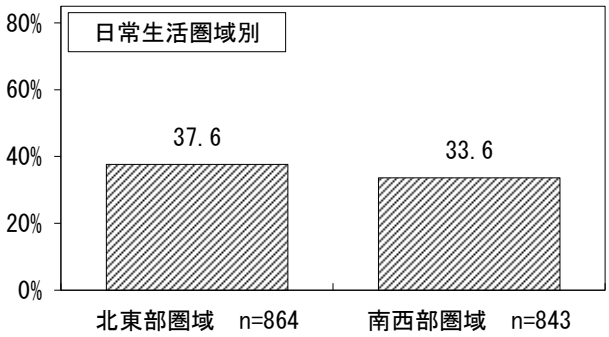
設　　問	該当する選択肢
問10　過去１年間に転んだ経験がありますか	１．何度もある ２．１度ある

図表30　転倒リスクのある高齢者









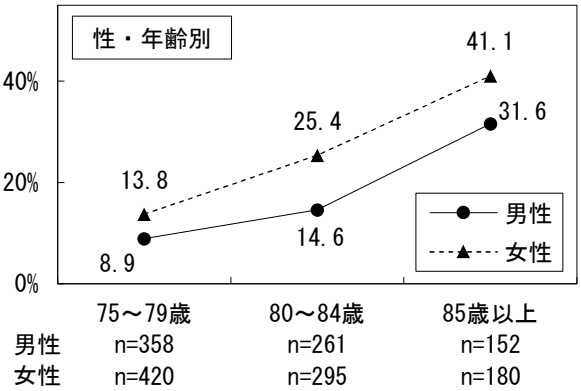
(3)　閉じこもり傾向の該当者

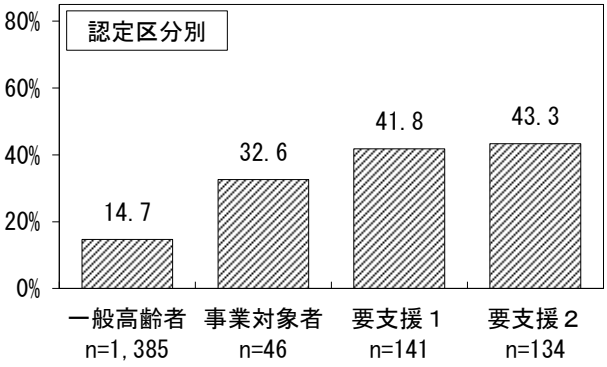
国の手引きに基づき、閉じこもり状態を評価したところ、閉じこもり傾向の「該当者」は、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇し、特に女性は 85 歳以上になると 40%を超えます。また、認定区分別にみると、事業対象者及び要支援認定者は 30～40%台の高い率です。家族構成別にみると、夫婦世帯は低い率となっています。

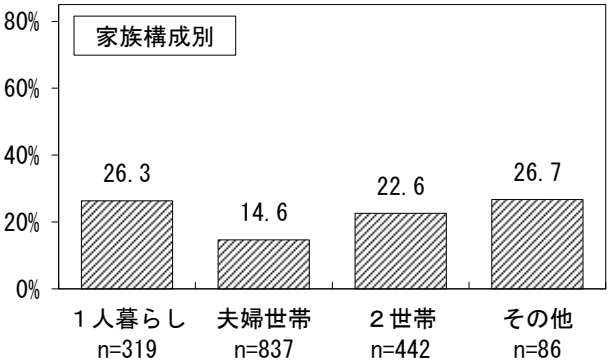
【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を閉じこもり傾向の「該当者」と判定しています。

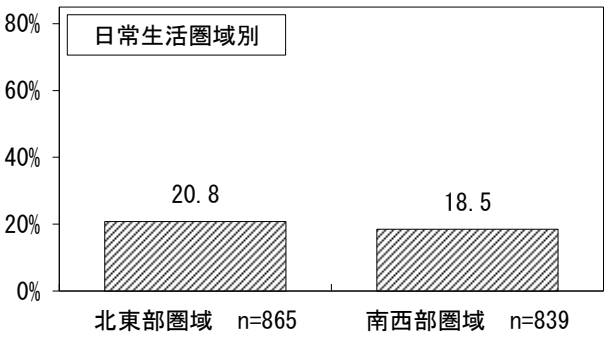
設　　問	該当する選択肢
問12　週に１回以上は外出していますか	１．ほとんど外出しない ２．週 １ 回

図表31　閉じこもり傾向の該当者









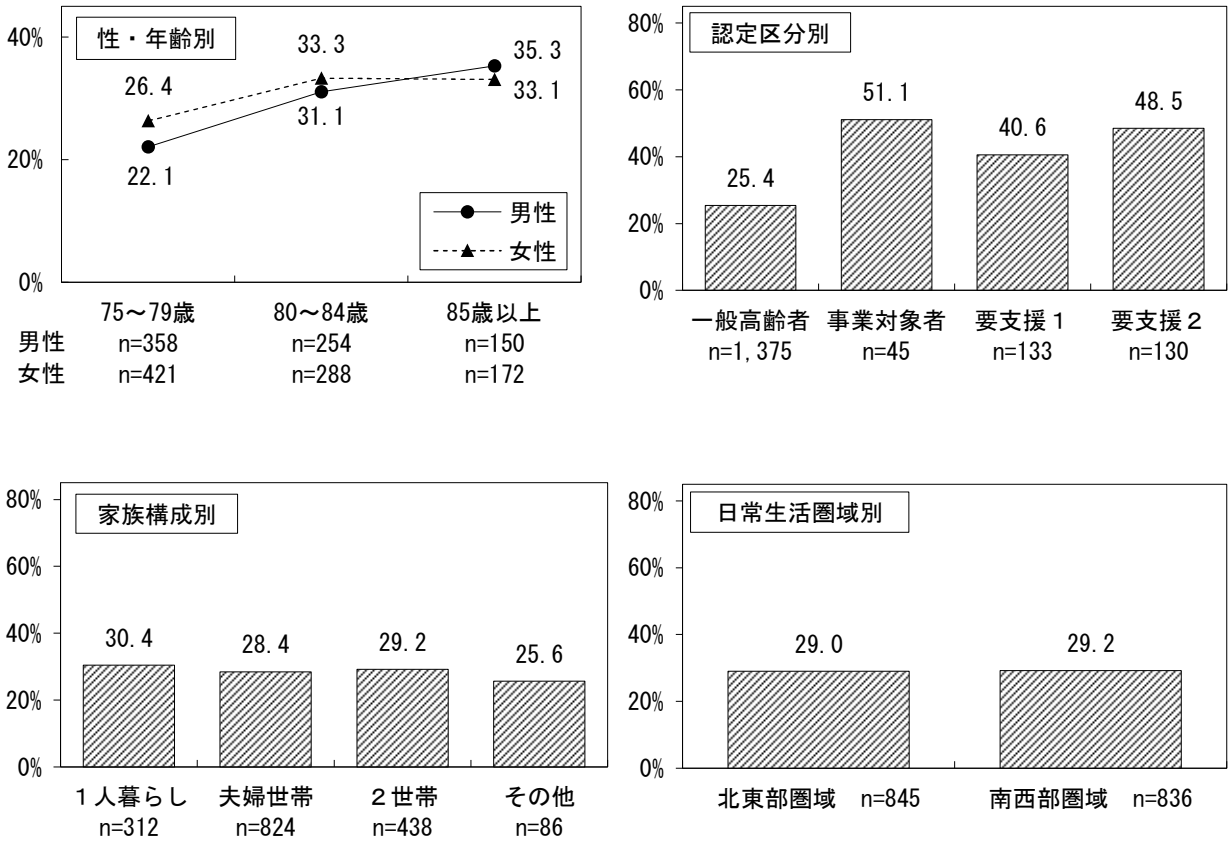
(4)　口腔機能の低下者

国の手引きに基づき、口腔機能を評価したところ、男性は年齢が高くなるにしたがい、口腔機能の「低下者」が上昇します。また、認定区分別にみると、事業対象者及び要支援２は50%前後の高い率です。

【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、３項目のうち２項目以上に該当する人を口腔機能の「低下者」と判定しています。

設　　問	該当する選択肢
問18　半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	１．はい
問19　お茶や汁物等でむせることがありますか	１．はい
問20　口の渇きが気になりますか	１．はい

図表32　口腔の機能低下者



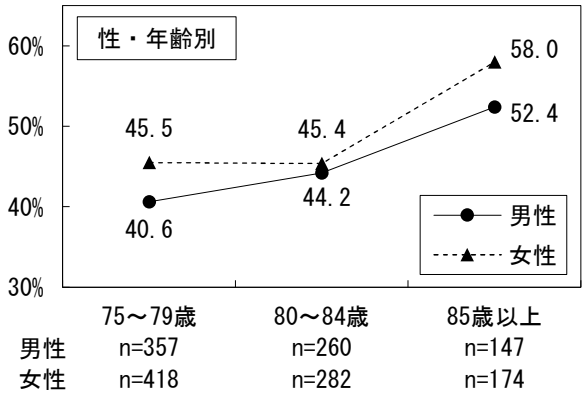
(5)　認知機能の低下者

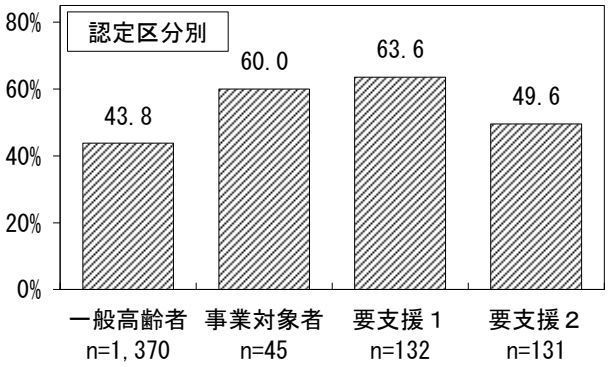
国の手引きに基づき、認知機能を評価したところ、認知機能の「低下者」は、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあり、85 歳以上になると過半数を占めます。また、認定区分別にみると、事業対象者及び要支援１は 60%超える高い率です。さらに、日常生活圏域別にみると、北東部圏域は南西部圏域に比べて 5.4 ポイント高くなっています。

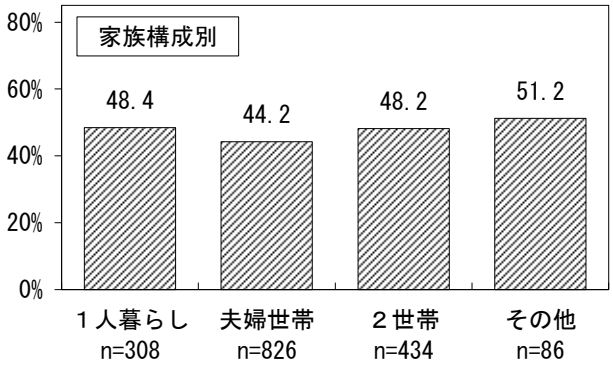
【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を認知機能の「低下者」と判定しています。

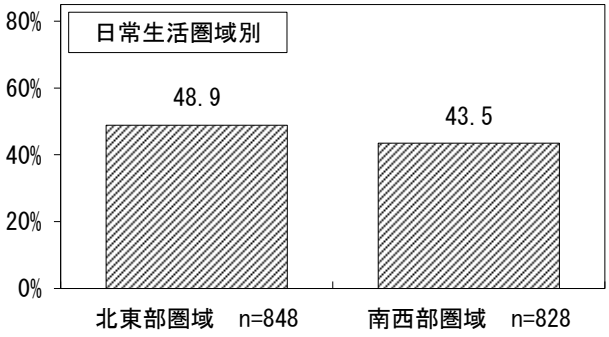
設　　問	該当する選択肢
問27　物忘れが多いと感じますか	１．はい

図表33　認知機能の低下者









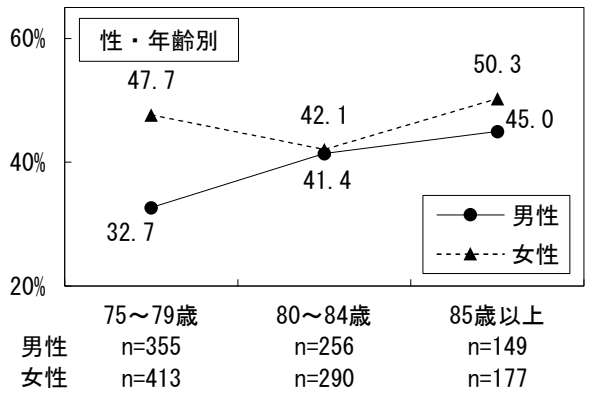
(6)　うつ傾向の該当者

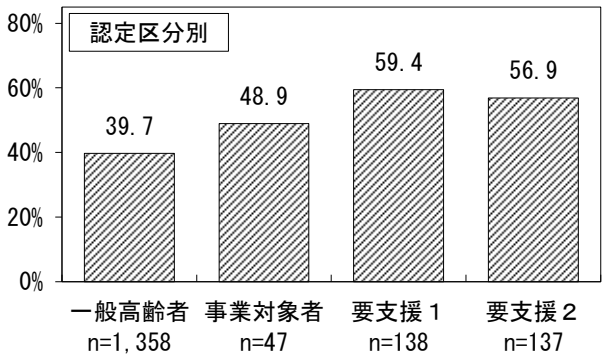
国の手引きに基づき、うつ状態を評価したところ、男性は年齢が高くなるにしたがいうつ傾向の「該当者」が上昇します。認定区分別にみると、要支援認定者は50%を超える高い率となっています。家族構成別にみると、１人暮らし及びその他の世帯は50%前後と高くなっています。

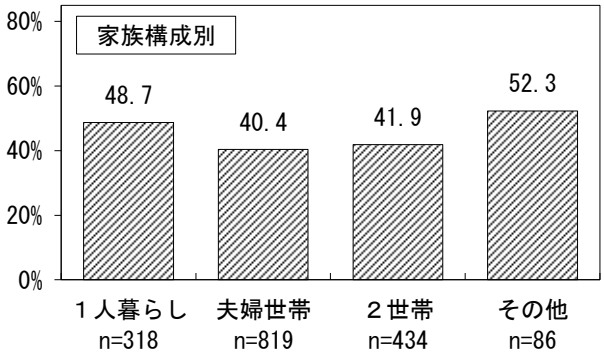
【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、２項目のうち１項目以上に該当する人をうつ傾向の「該当者」と判定しています。

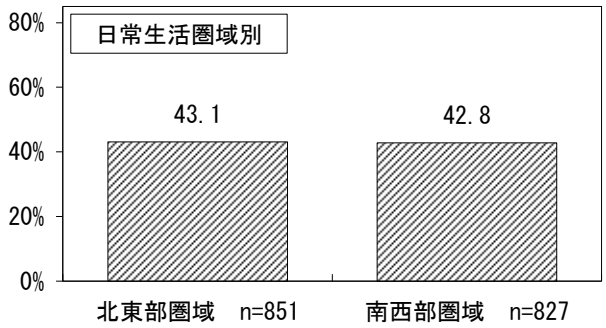
設　　問	該当する選択肢
問58　この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	１．はい
問59　この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	１．はい

図表34　うつ傾向の該当者









(7)　手段的自立度（ＩＡＤＬ）の低下者

高齢者の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標※のうち、手段的自立度（ＩＡＤＬ）※※をみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい「低下者」の割合が高くなります。認定区分別にみると、要支援２は 58.6%の非常に高い率となっています。また、家族構成別にみると、１人暮らし世帯はやや低くなっています。

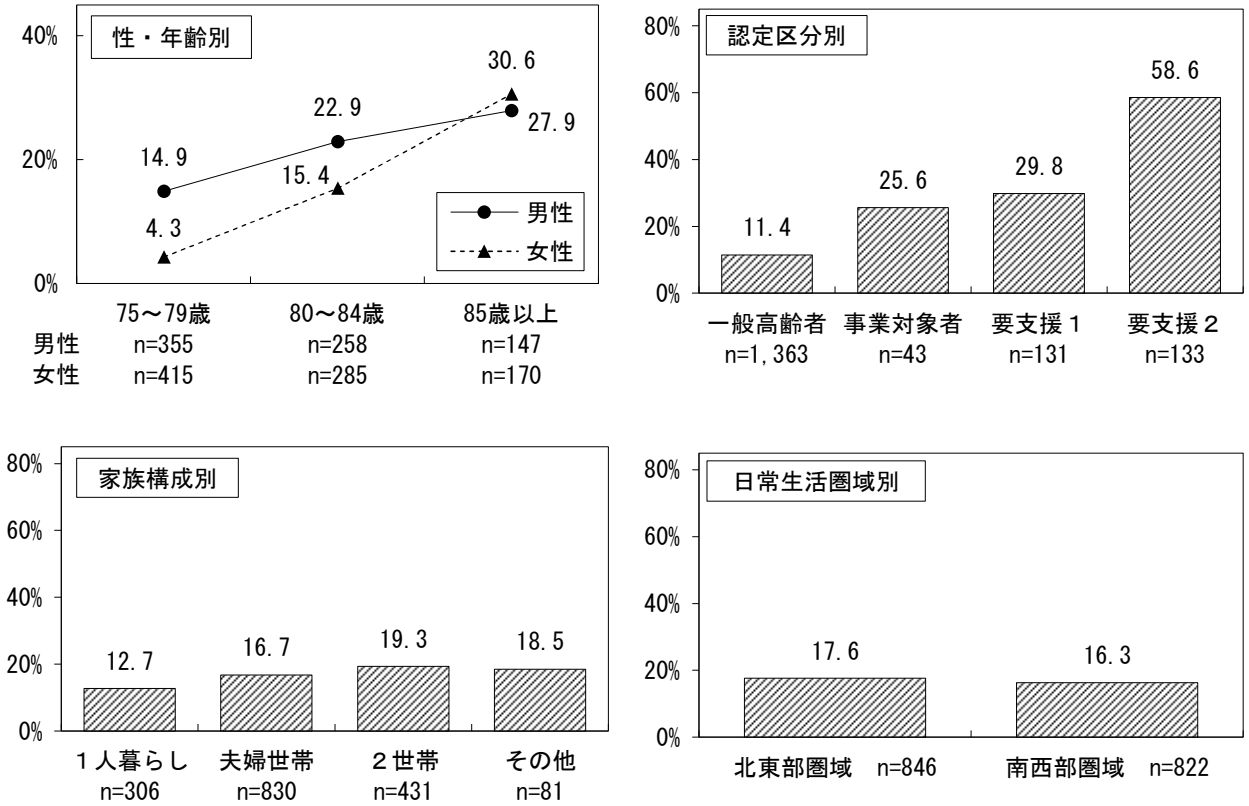
※老研式活動能力指標とは、1986年に東京都老人総合研究所（現東京都健康長寿医療センター研究所）において開発された指標。評価の基礎となる13の設問の回答を点数化し、その点数に応じて「高い」「やや低い」「低い」などと評価します。本項では、「やや低い」と「低い」を「低下者」として評価しました。

※※手段的自立度とは、交通機関の利用や電話の応対、買物、食事の支度、家事、洗濯、服薬管理、金銭管理など、活動的な日常生活をおくるための動作の能力をいいます。

【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、５点満点で評価し、４点以下を「低下者」と判定しています。

区　　分	できるし、している	できるけどしていない	できない
問30　バスや電車を使って１人で外出していますか	１点	１点	０点
問31　自分で食品・日用品の買い物をしていますか	１点	１点	０点
問32　自分で食事の用意をしていますか	１点	１点	０点
問33　自分で請求書の支払いをしていますか	１点	１点	０点
問34　自分で預貯金の出し入れをしていますか	１点	１点	０点

図表35　手段的自立度（ＩＡＤＬ）の低下者



(8)　知的能動性の低下者

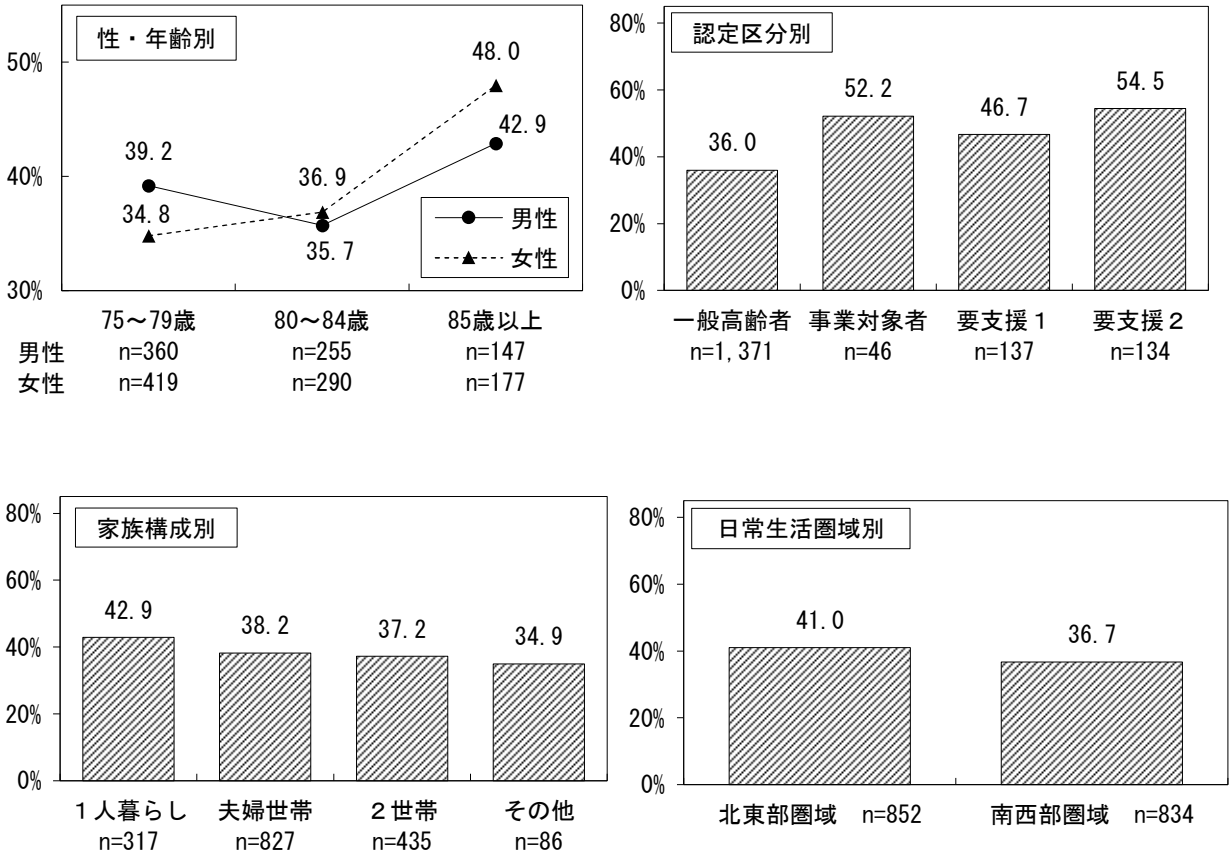
老研式活動能力指標のうち、知的能動性※の「低下者」の割合は、女性は年齢が高くなるにしたがい上昇します。認定区分別にみると、事業対象者及び要支援認定者は50%前後の高い率です。また、家族構成別にみると、１人暮らし世帯は比較的高い率となっています。さらに、日常生活圏域別にみると、北東部圏域は南西部圏域に比べてやや高くなっています。

※知的能動性とは、役所の書類を書く、新聞や本などの読書、健康情報への関心など、余暇や創作など生活を楽しむ能力をいいます。

【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、４点満点で評価し、３点以下を「低下者」と判定しています。

区　　分	は　い	いいえ
問35　年金などの書類が書けますか	１点	０点
問36　新聞を読んでいますか	１点	０点
問37　本や雑誌を読んでいますか	１点	０点
問38　健康についての記事や番組に関心がありますか	１点	０点

図表36　知的能動性の低下者



(9)　社会的役割の低下者

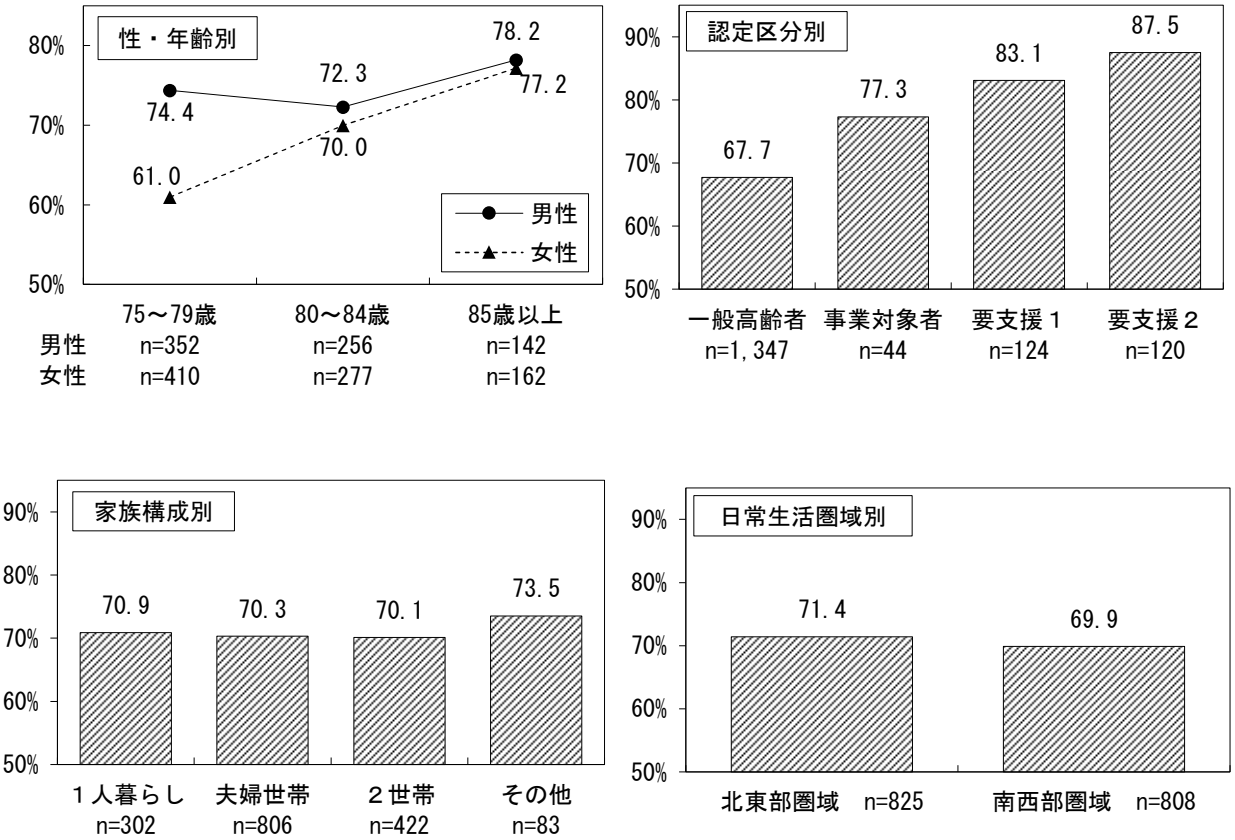
老研式活動能力指標のうち、社会的役割※の「低下者」の割合は、女性は年齢が高くなるにしたがい上昇します。認定区分別にみると、重度化するにしたがい高くなり、要支援２になると 90%近くの非常に高い率となります。家族構成別にみると、その他の世帯はやや高い率となっています。

※社会的役割とは、主に友人宅への訪問、他人の相談、見舞いなど、地域で社会的な役割をはたす能力をいいます。

【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、４点満点で評価し、３点以下を「低下者」と判定しています。

区　　分	は　い	いいえ
問39　友人の家を訪ねていますか	１点	０点
問40　家族や友人の相談にのっていますか	１点	０点
問41　病人を見舞うことができますか	１点	０点
問42　若い人に自分から話しかけることがありますか	１点	０点

図表37　社会的役割の低下者



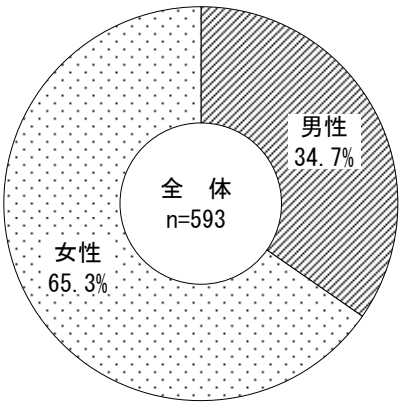
Ⅲ　在宅介護実態調査結果の概要

1　要介護者の現状

(1)　性　別

回答者の性別は、「男性」が 34.7%、「女性」が 65.3%です。

図表38　性　別

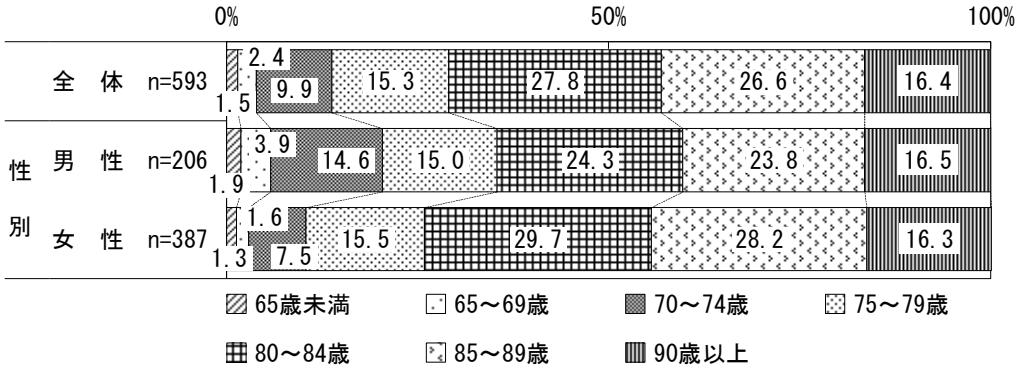


(2)　年　齢

回答者の年齢は、「80～84 歳」が 27.8%と最も高く、次いで「85～89 歳」が 26.6%、「90 歳以上」が 16.4%などの順となっており、＜75 歳以上＞が 86.1%を占めています。

性別にみると、女性は男性に比べて＜75 歳以上＞が高くなっています。

図表39　年　齢



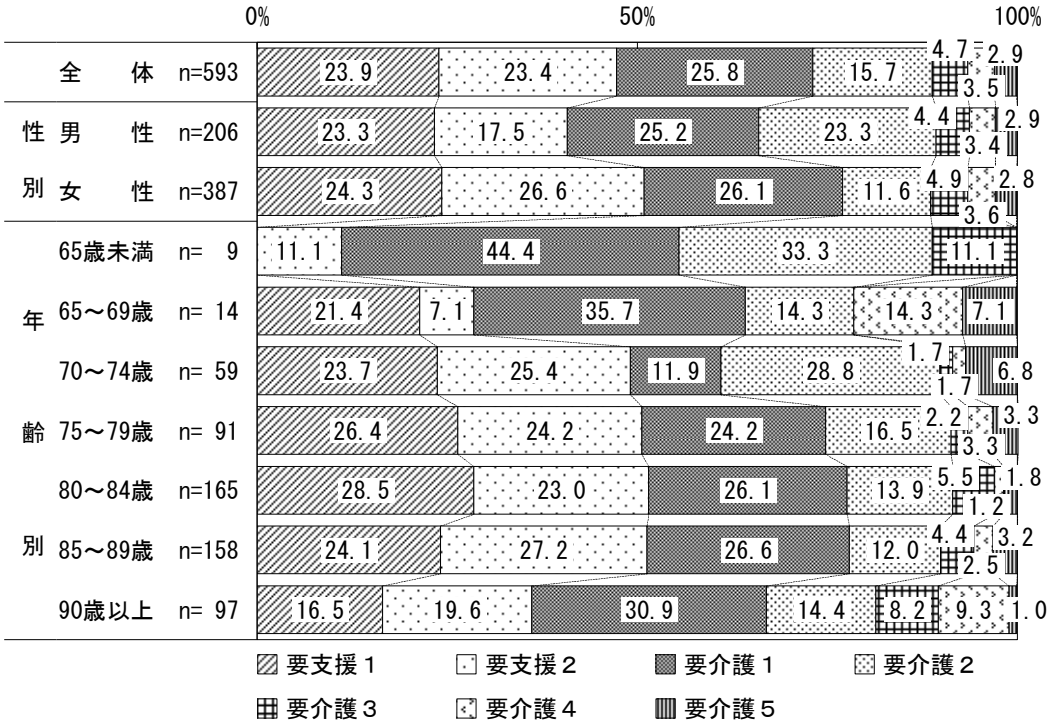
(3)　要介護度

回答者の要介護度は「要介護１」が 25.8%と最も高く、次いで「要支援１」(23.9%)、「要支援２」(23.4%) などの順となっており、＜要支援＞が 47.3%、＜要介護１・２＞が 41.5%、＜要介護３以上＞が 11.1%です。

性別にみると、女性は男性に比べて＜要支援＞が高くなっています。

年齢別にみると、90 歳以上になると＜要支援＞が低下し、＜要介護１・２＞及び＜要介護３以上＞が高くなります。

図表40　要介護度

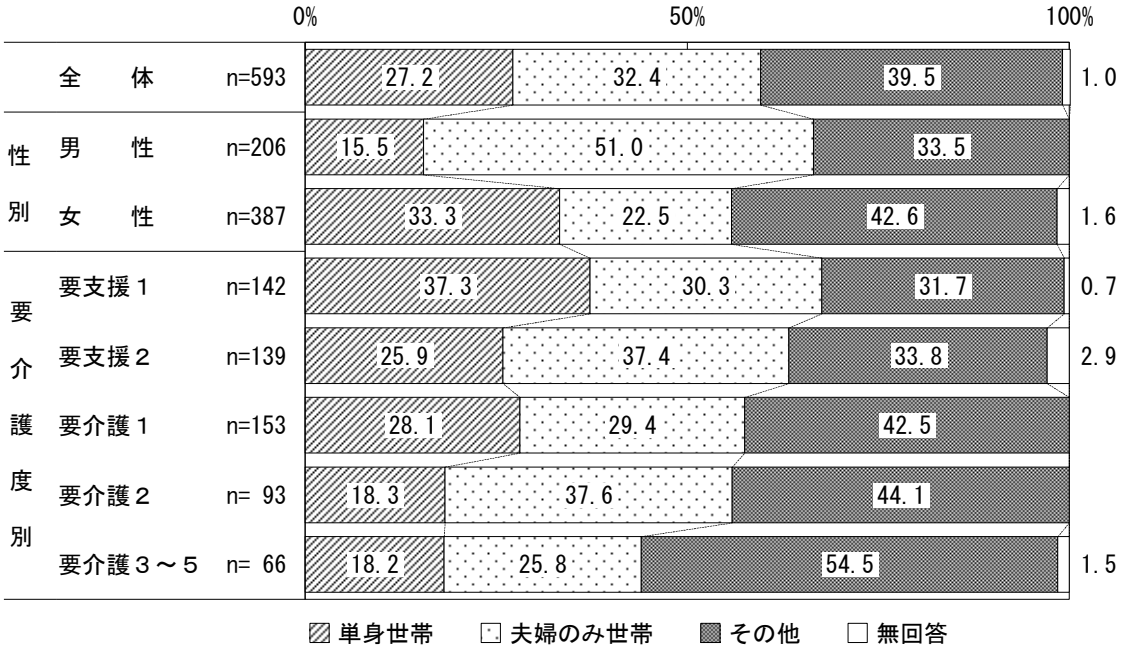


(4) 世　帯

世帯の状況は、同居世帯を含む「その他」が 39.5%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が 32.4%、「単身世帯」が 27.2%となっています。

要介護度別にみると、重度化するにしたがい「その他」が高くなっているものの、要介護２以上においても 20%近くが単身世帯です。

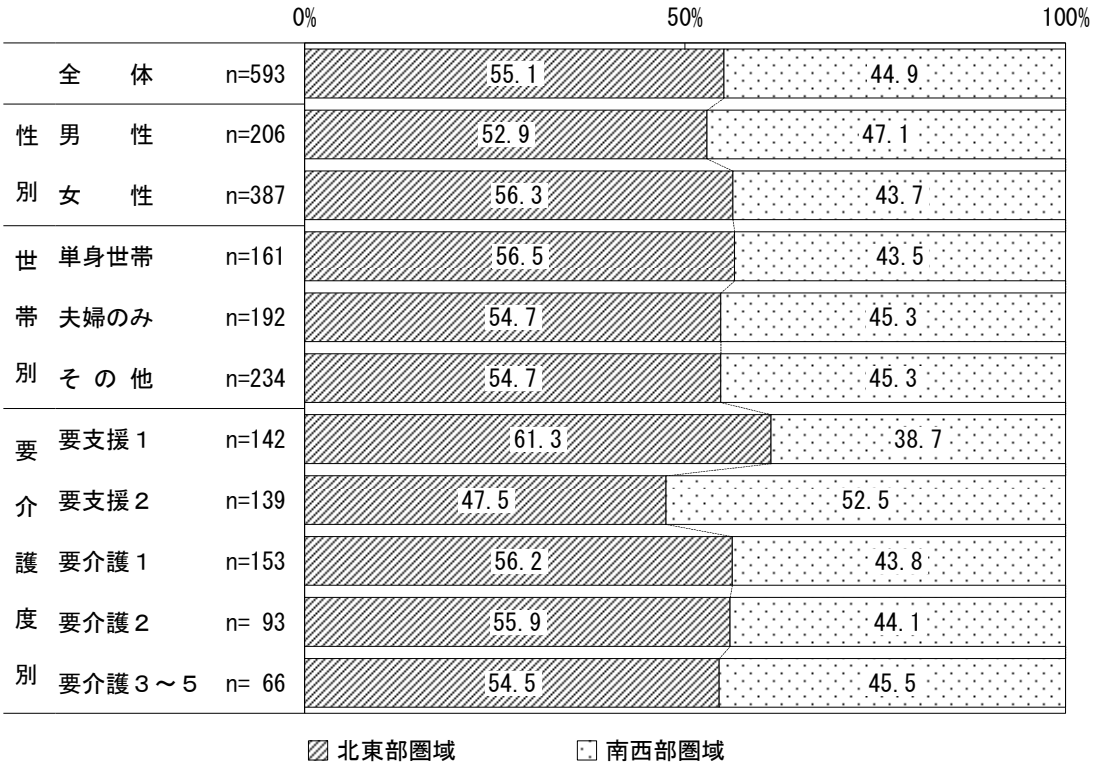
図表41　世　帯



(5)　日常生活圏域

要介護者の日常生活圏域は「北東部圏域」が 55.1%、「南西部圏域」が 44.9%です。要介護度別にみると、要支援２を除く認定者において、「北東部圏域」が「南西部圏域」を上回っています。

図表42　日常生活圏域

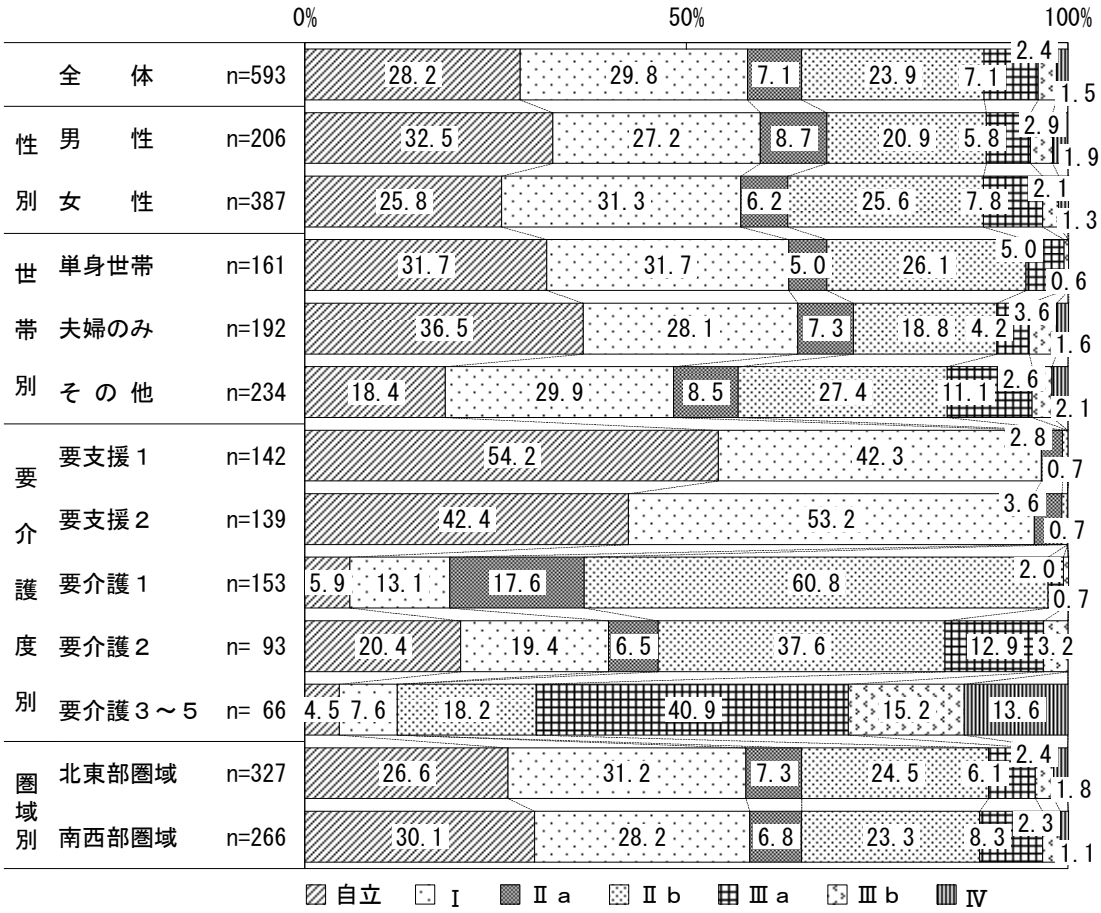


(6)　認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度（以下「認知症自立度」と言います。）判定基準の＜Ⅱａ以上＞を認知症とみると、全体では42.0%となります。

＜Ⅱａ以上＞を世帯別にみると、その他の世帯は過半数を占めています。また、要介護度別にみると、要介護１以上になると著しく高くなります。

図表43　認知症高齢者の日常生活自立度



【参考】認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

レベル	判断基準
Ⅰ	「何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態」基本的には在宅で自立した生活が可能なレベルです。
Ⅱa	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態」
Ⅱb	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態」
Ⅲa	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態」
Ⅲb	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を必要とする状態」
Ⅳ	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態」
M	「著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態」

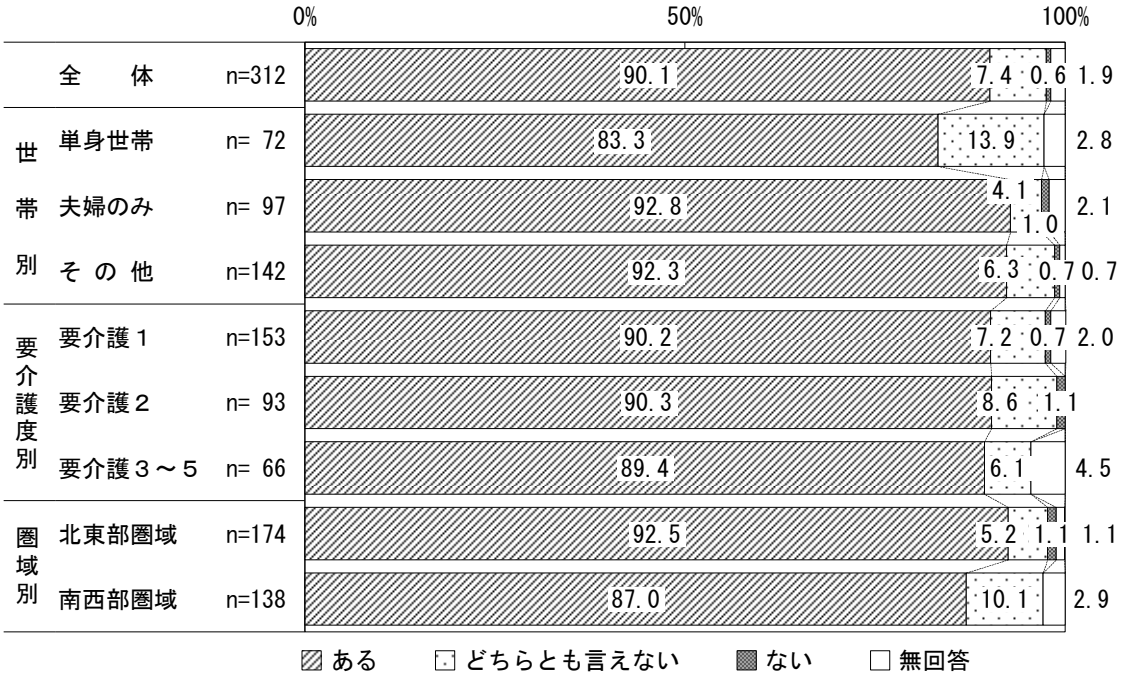
(7)　居場所

居場所があるかたずねたところ、「ある」が 90.1%、「どちらとも言えない」が 7.4%、「ない」が 0.6%となっています。

世帯別にみると、単身世帯は「ある」が低くなっています。

日常生活圏域別にみると、南西部圏域は北東部圏域に比べて「ある」が５ポイント以上低くなっています。

図表１１　居場所（要介護１～５）



2　在宅介護

(1)　介護保険サービスの利用状況

介護保険サービス（居宅）の種類別利用状況については、「通所介護」が 36.1%と最も高く、次いで「訪問介護」が 14.7%、「訪問看護」が 14.7%などとなっています

家族構成別にみると、単身世帯は「訪問介護」は高い率です。

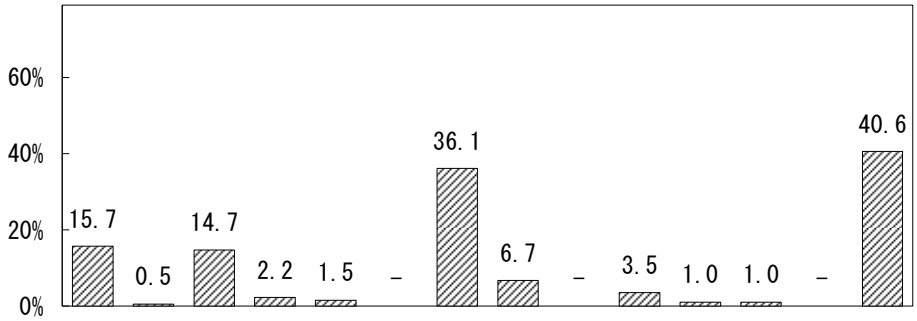
要介護度別にみると、重度になるにしたがい「訪問看護」及び「ショートステイ」は高くなります。また、要介護２は「通所介護」が 45.2%の高い率となっています。

日常生活圏域別にみると、北東部圏域は南西部圏域に比べて「通所介護」が高く、「訪問看護」が低くなっています。

図表44　介護保険サービスの利用状況（複数回答）

単位：ｎは人、他は%

全体　n=593



区分		n	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	居宅療養管理指導	夜間対応型訪問介護	通所介護	通所リハビリ	認知症対応型通所介護	ショートステイ	小規模多機能型居宅介護	看護小規模多機能型居宅介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	未利用
世帯別	単身世帯	161	30.4	－	13.0	1.2	1.2	－	36.6	4.3	－	2.5	1.9	0.6	－	36.6
	夫婦のみ世帯	192	7.8	0.5	14.1	3.6	1.0	－	29.2	9.4	－	2.1	0.5	2.1	－	47.4
	その他	234	12.4	0.9	16.7	1.7	2.1	－	41.5	6.0	－	5.6	0.9	0.4	－	37.6
要介護度別	要支援１	142	14.8	－	5.6	1.4	0.7	－	29.6	2.1	－	－	－	－	－	54.9
	要支援２	139	14.4	－	11.5	0.7	0.7	－	37.4	7.2	－	0.7	－	－	－	40.3
	要介護１	153	10.5	－	14.4	1.3	2.0	－	34.0	6.5	－	2.0	2.6	－	－	44.4
	要介護２	93	19.4	－	17.2	2.2	－	－	45.2	11.8	－	5.4	1.1	3.2	－	28.0
	要介護３～５	66	27.3	4.5	37.9	9.1	6.1	－	39.4	9.1	－	18.2	1.5	4.5	－	19.7
圏域別	北東部圏域	327	15.6	0.6	12.5	1.2	0.9	－	38.5	5.8	－	2.8	0.9	1.2	－	41.9
	南西部圏域	266	15.8	0.4	17.3	3.4	2.3	－	33.1	7.9	－	4.5	1.1	0.8	－	39.1

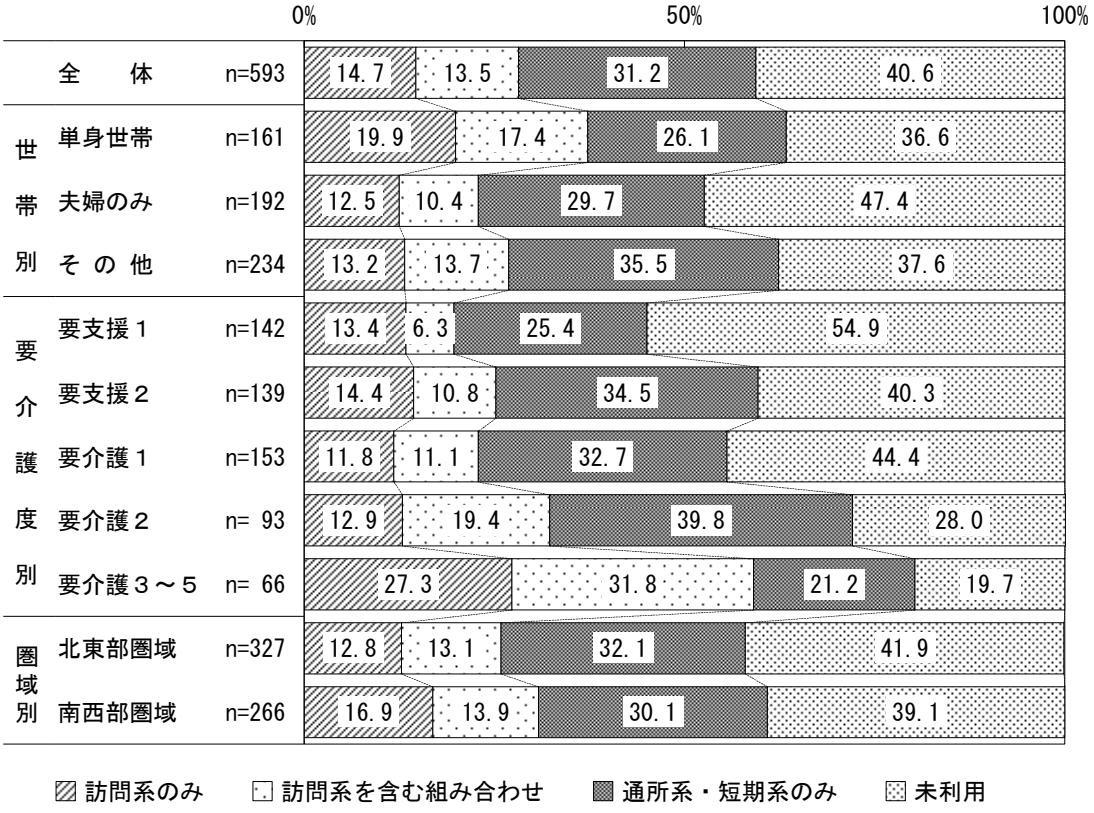
(2) 介護保険サービスの組み合わせ

利用している介護保険サービスの組み合わせをもみると、「通所系・短期系のみ」が 31.2%、「訪問系のみ」が 14.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が 13.5%となっています。家族構成別にみると、単身世帯は「訪問系のみ」が、その他の世帯は「通所系・短期系のみ」が高くなっています。

要介護度別にみると、要介護３以上になると、「通所系・短期系のみ」が低く、「訪問系のみ」及び「訪問系を含む組み合わせ」が急激に高くなります。

日常生活圏域別にみると、南西部圏域は北東部圏域に比べて「訪問系のみ」が高くなっています。

図表45　介護保険サービスの組み合わせ



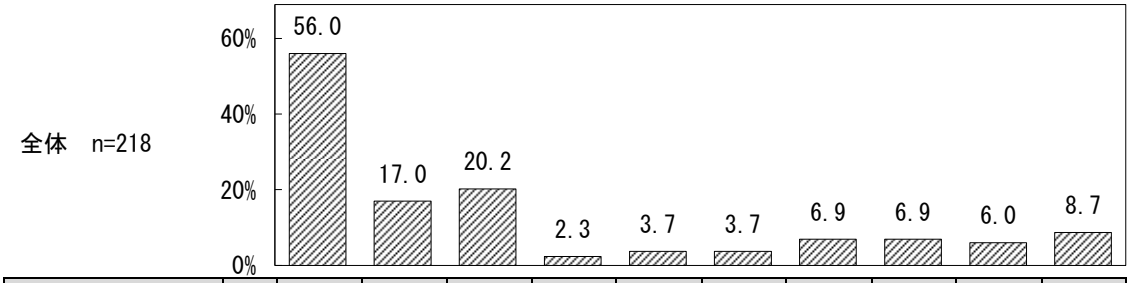
(3)　介護保険サービスを利用していない理由

介護保険サービスを利用していない人にその理由をたずねたところ、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 56.0%を占めており、次いで「家族が介護をするため必要ない」（20.2%）、「本人にサービス利用の希望がない」（17.0%）などの順となっています。

日常生活圏域別にみると、北東部圏域は南西部圏域に比べて「本人にサービス利用の希望がない」が高く、「家族が介護をするため必要ない」が低くなっています。

図表46　介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）

単位：ｎは人、他は%

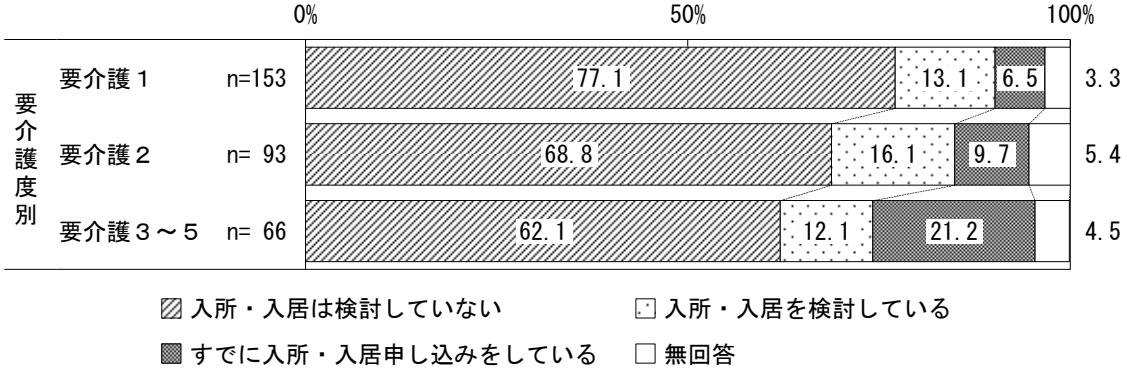


区分		n	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	その他	無回答
世帯別	単身世帯	55	54.5	20.0	10.9	－	3.6	5.5	7.3	9.1	5.5	10.9
	夫婦のみ世帯	75	56.0	13.3	26.7	2.7	4.0	5.3	6.7	4.0	6.7	10.7
	その他	85	56.5	18.8	20.0	3.5	3.5	1.2	7.1	7.1	5.9	5.9
圏域別	北東部圏域	116	56.9	20.7	13.8	1.7	4.3	4.3	6.9	8.6	4.3	10.3
	南西部圏域	102	54.9	12.7	27.5	2.9	2.9	2.9	6.9	4.9	7.8	6.9

(4)　施設入所の検討状況

要介護１～５の人に施設入所の検討状況をたずねたところ、重度になるにしたがい「すでに入所・入居申し込みをしている」が上昇し、要介護３～５になると 20%を超えます。

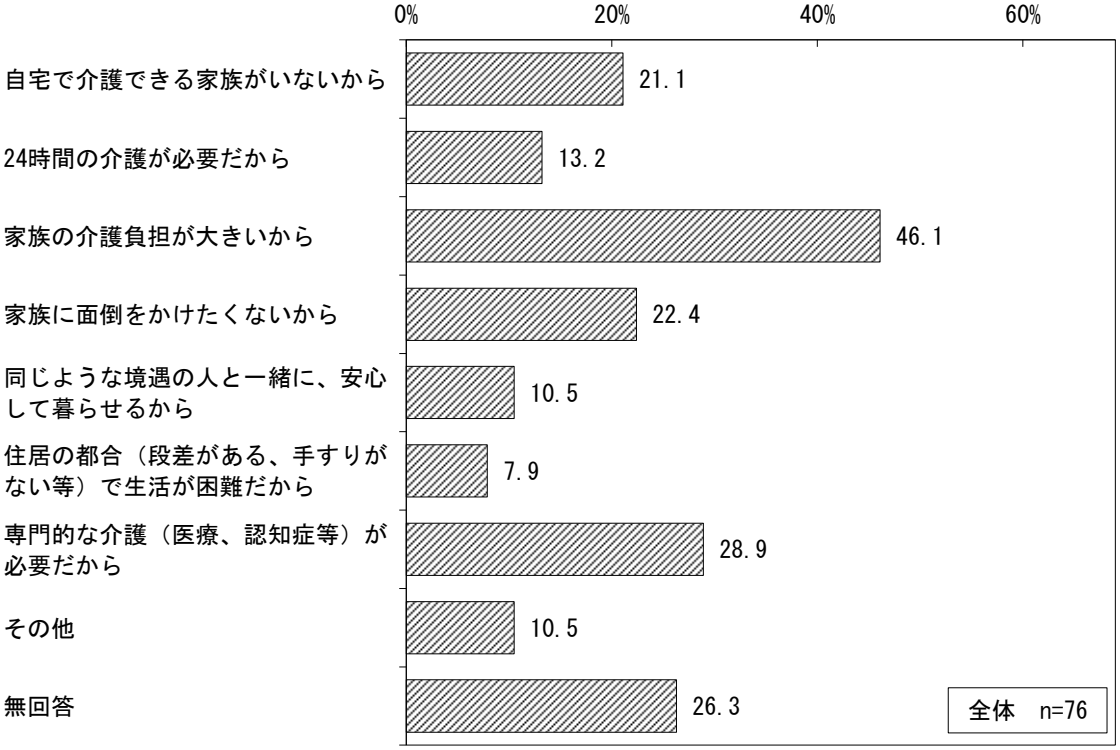
図表47　施設入所の検討状況（要介護１～５）



(5)　施設への入所を希望する理由

施設等への入所・入居の申し込みをしている（検討している）理由をたずねたところ、「家族の介護負担が大きいから」が 46.1%と最も高く、次いで「専門的な介護（医療、認知症等）が必要だから」（28.9%）、「家族に面倒をかけたくないから」（22.4%）などの順となっています。

図表48　施設への入所を希望する理由（要介護１～５、複数回答）



(6) 施設への入所・入居を希望しない理由

施設等への入所・入居を希望していない人にその理由をたずねたところ、「施設を利用するほどの状態ではないから」が過半数を占め、次いで「家族の介護を受けるから」(48.0%)、「施設に入ることに抵抗があるから」(22.4%) などの順となっています。

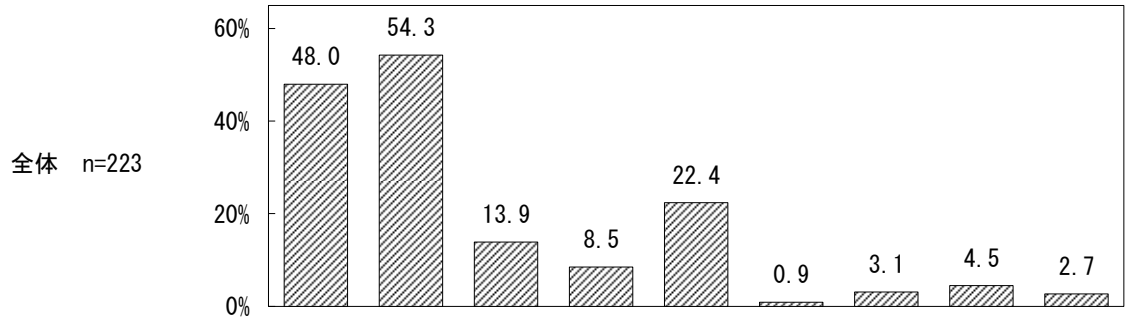
世帯別にみると、夫婦のみ世帯は「家族の介護を受けるから」が 55.6%の高い率です。

要介護度別にみると、重度化にしたがい「家族の介護を受けるから」及び「どんな施設に入ったらよいかわからないから」が上昇します。

日常生活圏域別にみると、南西部圏域は北東部圏域に比べて「どんな施設に入ったらよいかわからないから」が高くなっています。

図表49 施設への入所・入居を希望しない理由（要介護１～５、複数回答）

単位：ｎは人、他は%



区分		n	家族の介護を受けるから	施設を利用するほどの状態ではないから	利用料を支払うのが困難だから	どんな施設に入ったらよいかわからないから	施設に入ることに抵抗があるから	家族や身内などに理解が得られないから	申し込んでも入ることができるかわからないから	その他	無回答
世帯別	単身世帯	42	31.0	54.8	14.3	9.5	26.2	－	2.4	7.1	－
	夫婦のみ世帯	72	55.6	58.3	11.1	8.3	25.0	1.4	4.2	2.8	2.8
	その他	109	49.5	51.4	15.6	8.3	19.3	0.9	2.8	4.6	3.7
要介護度別	要介護１	118	39.0	66.9	13.6	5.9	23.7	1.7	2.5	3.4	2.5
	要介護２	64	51.6	46.9	15.6	10.9	21.9	－	1.6	4.7	3.1
	要介護３～５	41	68.3	29.3	12.2	12.2	19.5	－	7.3	7.3	2.4
圏域別	北東部圏域	124	48.4	56.5	14.5	6.5	22.6	0.8	3.2	6.5	4.0
	南西部圏域	99	47.5	51.5	13.1	11.1	22.2	1.0	3.0	2.0	1.0

(7) 在宅生活を続けるために必要な支援・サービス

今後、在宅生活の継続に必要だと感じる支援・サービスをたずねたところ、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 30.7%と最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」（25.1%）、「配食」（20.4%）などの順となっています。

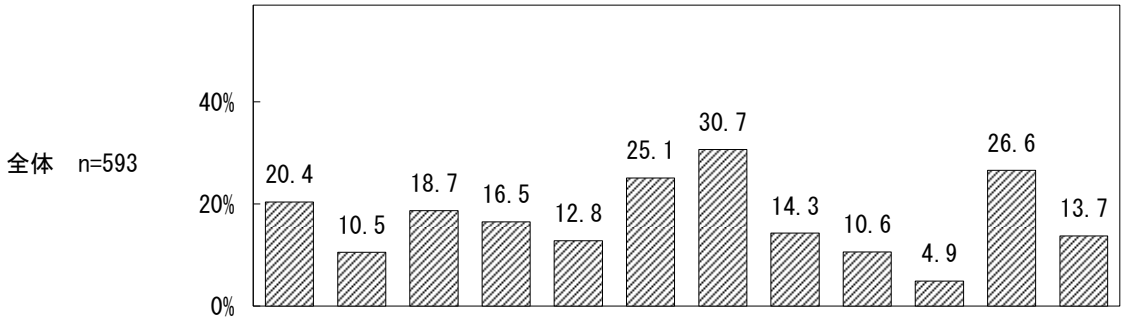
世帯別にみると単身世帯は全般的に高くなっています。

要介護度別にみると、要介護１は「見守り、声かけ」が高くなっています。

日常生活圏域別にみると、南西部圏域は北東部圏域に比べて「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が５ポイント以上高くなっています。

図表50　在宅生活を続けるために必要な支援・サービス（複数回答）

単位：ｎは人、他は%



区分		n	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
世帯別	単身世帯	161	32.3	12.4	28.0	24.2	23.0	37.3	31.7	24.8	9.9	6.2	14.3	8.1
	夫婦のみ世帯	192	21.4	12.5	18.2	16.1	8.9	21.4	34.4	9.9	8.9	4.7	27.1	13.5
	その他	234	11.5	7.7	12.8	11.5	8.5	20.1	26.9	10.7	12.8	4.3	35.0	17.5
要介護度別	要支援１	142	15.5	8.5	17.6	16.2	9.2	23.9	37.3	9.9	13.4	4.9	23.9	9.2
	要支援２	139	25.9	8.6	21.6	16.5	14.4	29.5	38.8	8.6	10.8	4.3	19.4	13.7
	要介護１	153	22.9	11.1	16.3	18.3	12.4	28.8	23.5	26.1	12.4	5.9	30.7	11.1
	要介護２	93	15.1	14.0	19.4	15.1	16.1	18.3	28.0	15.1	6.5	6.5	24.7	23.7
	要介護３～５	66	21.2	12.1	19.7	15.2	13.6	19.7	19.7	7.6	6.1	1.5	40.9	15.2
圏域別	北東部圏域	327	20.2	10.1	19.0	16.2	13.5	26.9	28.1	14.4	11.3	5.5	28.4	13.5
	南西部圏域	266	20.7	10.9	18.4	16.9	12.0	22.9	33.8	14.3	9.8	4.1	24.4	13.9

3　これからの生活

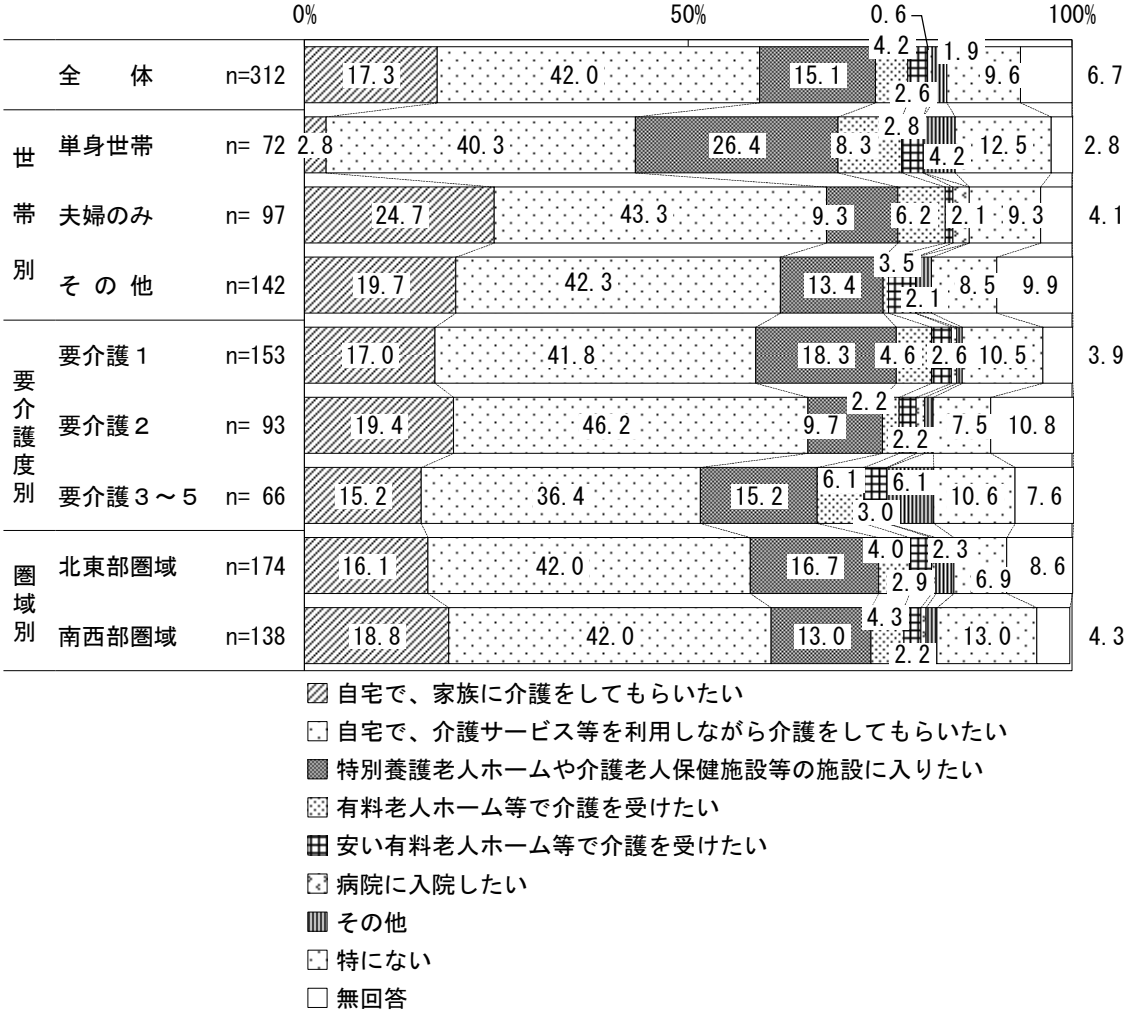
(1)　今後、希望する介護

要介護認定を受けている人に今後、希望する生活をたずねたところ、「自宅で、介護サービス等を利用しながら介護をしてもらいたい」が 42.0%と最も高く、次いで「自宅で、家族に介護をしてもらいたい」が 17.3%などの順となっており、これらを合計した＜自宅で介護を受けたい＞が 59.3%を占めています。

世帯別にみると、単身世帯は＜自宅で介護を受けたい＞が低く、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設等の施設に入りたい」が高くなっています。

要介護度別にみると、要介護２は＜自宅で介護を受けたい＞が 60%以上の高い率です。

図表51　今後、希望する介護（要介護１～５）



（注）全体以外の２%未満の数値は省略しました。

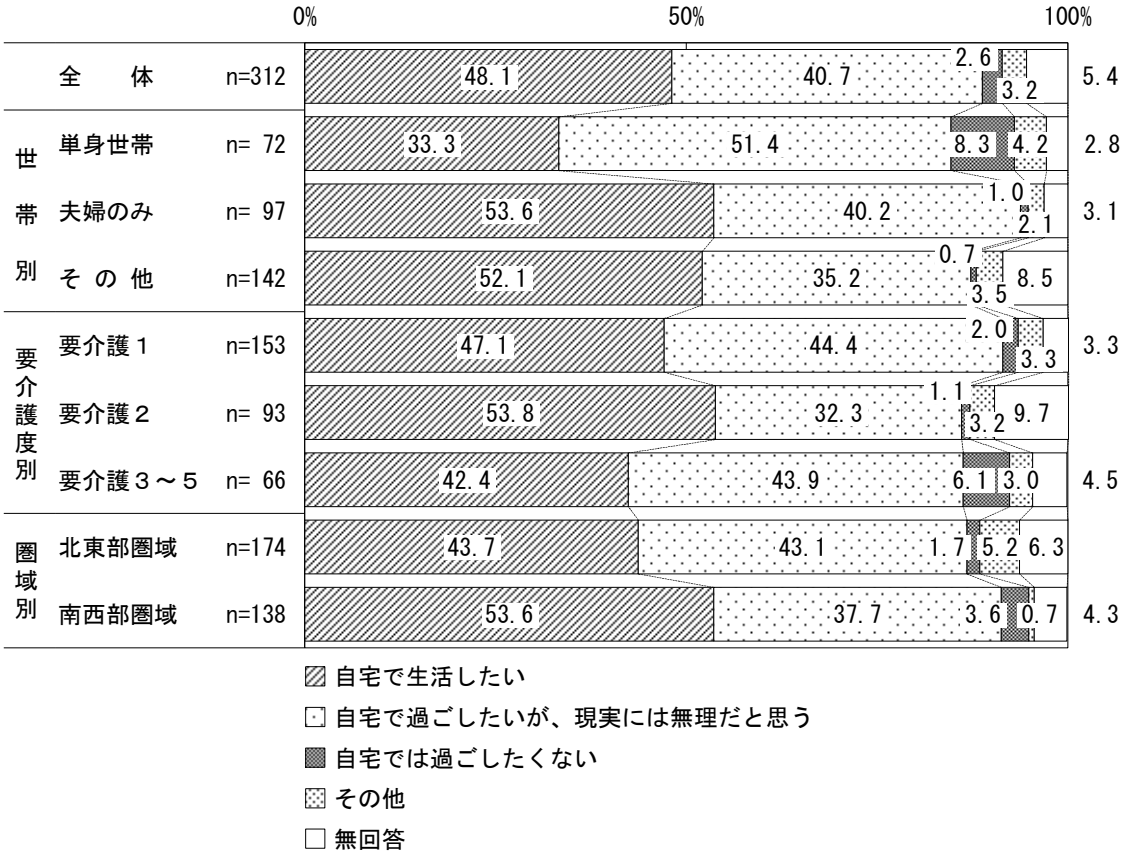
(2)　最期まで自宅で過ごしたいか

最期まで自宅で過ごしたいかたずねたところ､｢自宅で生活したい｣が 48.1%と最も高く、次いで「自宅で過ごしたいが、現実には無理だと思う」が 40.7%の順となっており、これらを合計した＜自宅で過ごしたい＞が 90%近くを占めています。

世帯別にみると、単身世帯は「自宅で過ごしたいが、現実には無理だと思う」及び「自宅では過ごしたくない」が高く、「自宅で生活したい」が低くなっています。

日常生活圏域別にみると、南西部圏域は北西部圏域に比べて「自宅で生活したい」が高く、「自宅で過ごしたいが、現実には無理だと思う」が低くなっています。

図表52　最期まで自宅で過ごしたいか（要介護１～５）



(3) 最期まで自宅で過ごすにあたり不安に思うこと

最期まで自宅で過ごすにあたり不安に思うことをたずねたところ、「家族に介護などの負担がかかること」が 74.0%と突出して高くなっており、次いで「時間を問わず対応してもらえるかどうか」（32.1%）、「介護サービスが十分に受けられるかどうか」（27.2%）などの順となっています。

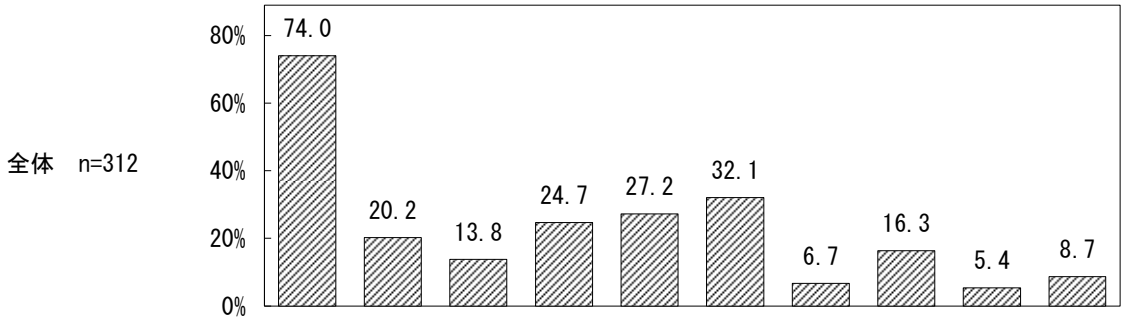
世帯別にみると、夫婦のみ世帯及びその他の世帯は「家族に介護などの負担がかかること」が 80%近くを占めています。

要介護度別にみると、重度化にしたがい「医療処置が十分に受けられるかどうか」が上昇し、「家族に介護などの負担がかかること」が低下します。

日常生活圏域別にみると、南西部圏域は北東部圏域に比べて「家族の理解や協力を得られるかどうか」が 10 ポイント以上高くなっています。

図表53　最期まで自宅で過ごすにあたり不安に思うこと（要介護１～５、複数回答）

単位：ｎは人、他は%



区分		n	家族に介護などの負担がかかること	家族の理解や協力を得られるかどうか	介護する家族がいないこと	医療処置が十分に受けられるかどうか	介護サービスが十分に受けられるかどうか	時間を問わず対応してもらえるかどうか	地域の見守り体制が整っていないこと	自宅の環境（段差など）が整っていないこと	その他	無回答
世帯別	単身世帯	72	58.3	18.1	26.4	13.9	25.0	30.6	4.2	19.4	5.6	9.7
	夫婦のみ世帯	97	79.4	21.6	12.4	30.9	33.0	36.1	8.2	13.4	4.1	7.2
	その他	142	78.9	20.4	8.5	26.1	24.6	30.3	7.0	16.9	6.3	8.5
要介護度別	要介護１	153	78.4	21.6	15.7	20.9	24.8	31.4	9.2	17.0	3.9	5.9
	要介護２	93	71.0	23.7	7.5	25.8	32.3	33.3	5.4	14.0	7.5	10.8
	要介護３～５	66	68.2	12.1	18.2	31.8	25.8	31.8	3.0	18.2	6.1	12.1
圏域別	北東部圏域	174	73.6	15.5	13.2	25.3	27.6	32.8	8.0	16.1	8.6	9.8
	南西部圏域	138	74.6	26.1	14.5	23.9	26.8	31.2	5.1	16.7	1.4	7.2

(4)　地域で暮らし続けるために最も充実すべきこと

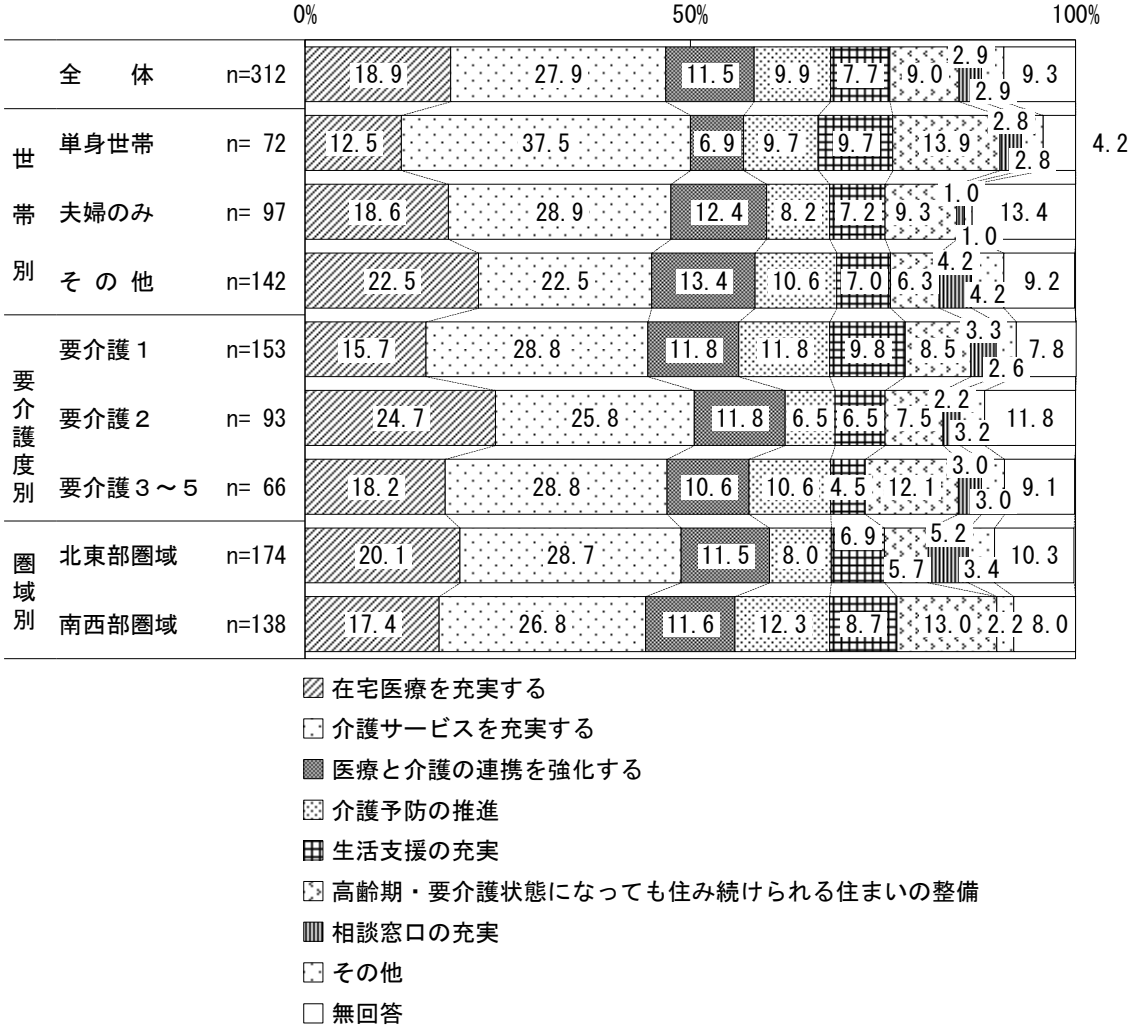
地域で暮らし続けるために最も充実すべきことをたずねたところ、「介護サービスを充実する」が 27.9%と最も高く、次いで「在宅医療を充実する」が 18.9%、「医療と介護の連携を強化する」が 11.5%などの順となっています。

世帯別にみると、単身世帯は「在宅医療を充実する」が低く、「介護サービスを充実する」及び「高齢期・要介護状態になっても住み続けられる住まいの整備」が高くなっています。

要介護度別にみると、要介護２は「在宅医療を充実する」が高くなっています。

日常生活圏域別にみると南西部圏域は北東部圏域に比べて「高齢期・要介護状態になっても住み続けられる住まいの整備」が 7.3 ポイント高くなっています。

図表54　地域で暮らし続けるために最も充実すべきこと（要介護１～５）



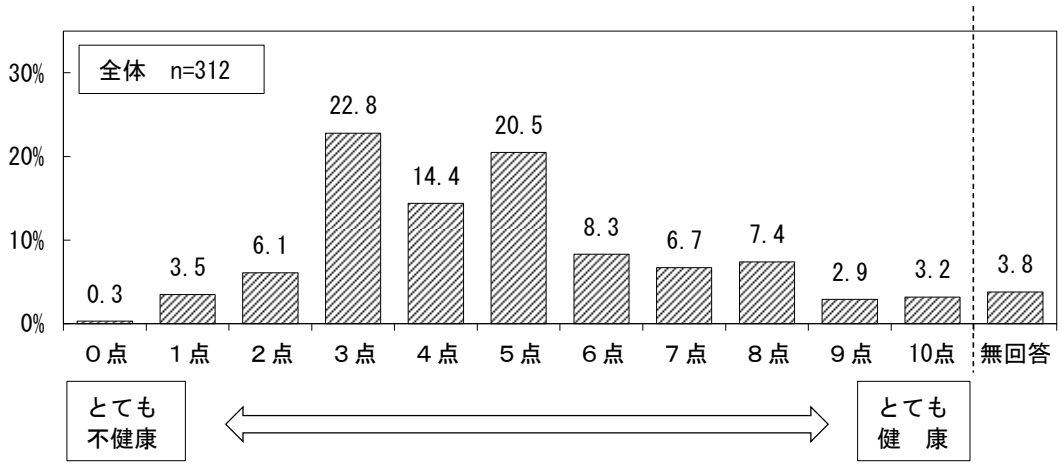
4　健康・医療

(1)　からだの健康度

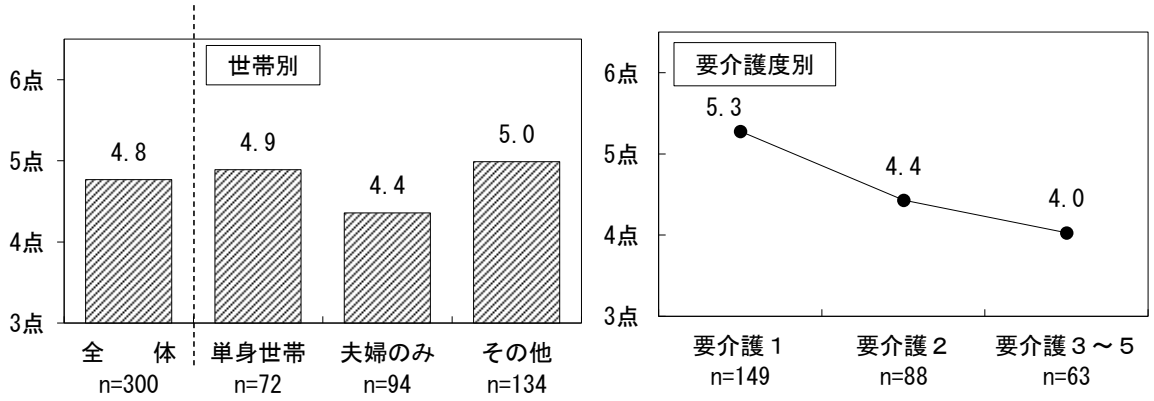
要介護認定を受けている人のからだの健康度は、「３点」が 22.8%と最も高く、次いで「５点」（20.5%）、「４点」（14.4%）などの順となっています。

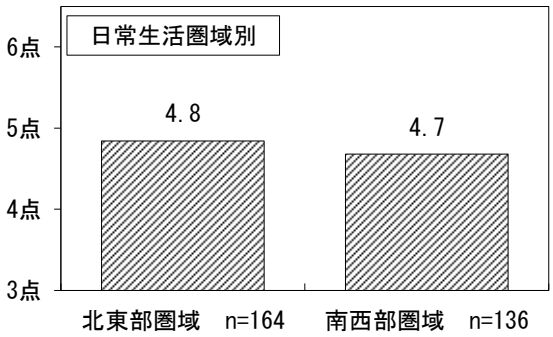
からだの健康度の平均点は 4.8 点となっており、世帯別にみると、夫婦のみ世帯は比較的低くなっています。

図表55　からだの健康度（要介護１～５）



図表56　からだの健康度の平均点



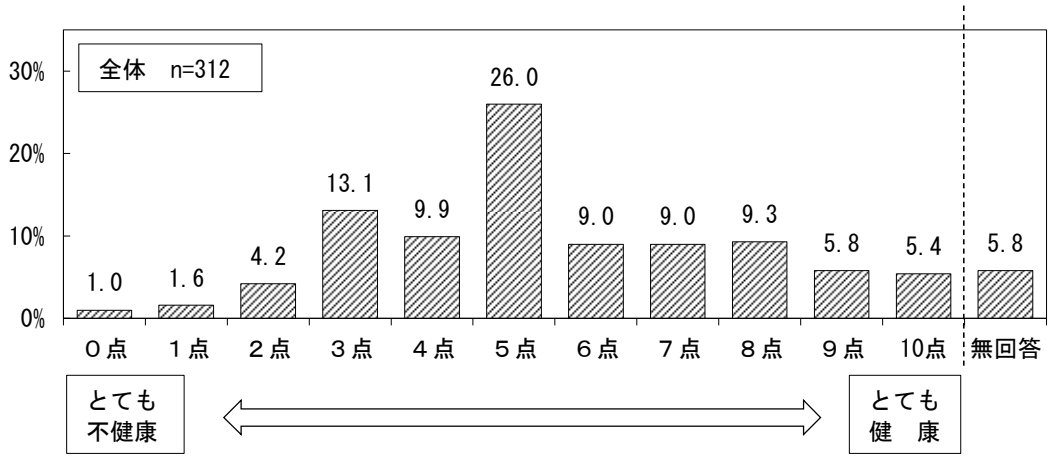


(2)　こころの健康度

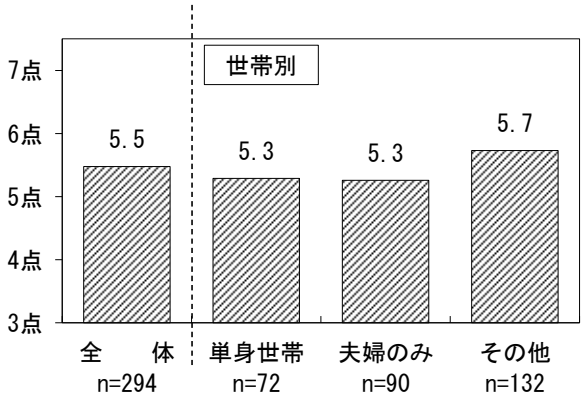
要介護認定を受けている人のこころの健康度は、「５点」が 26.0%と最も高く、次いで「３点」が 13.1%、「４点」が 9.9%などの順となっています。

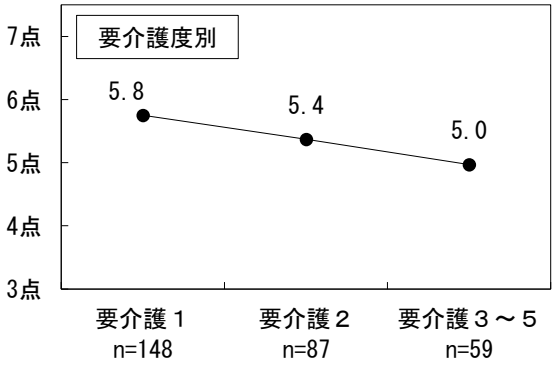
こころの健康度の平均点は 5.5 点となっており、世帯別にみると、その他の世帯は高い点数です。

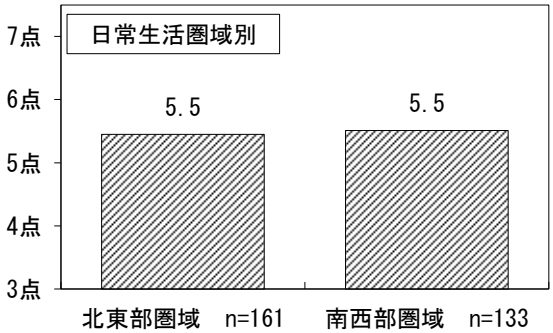
図表57　こころの健康度（要介護１～５）



図表58　こころの健康度の平均点（要介護１～５）





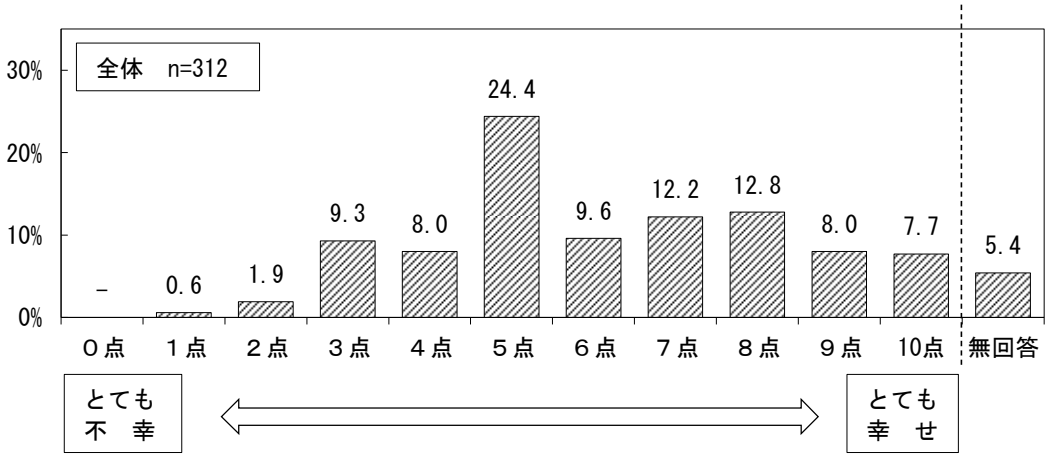


(3)　幸福度

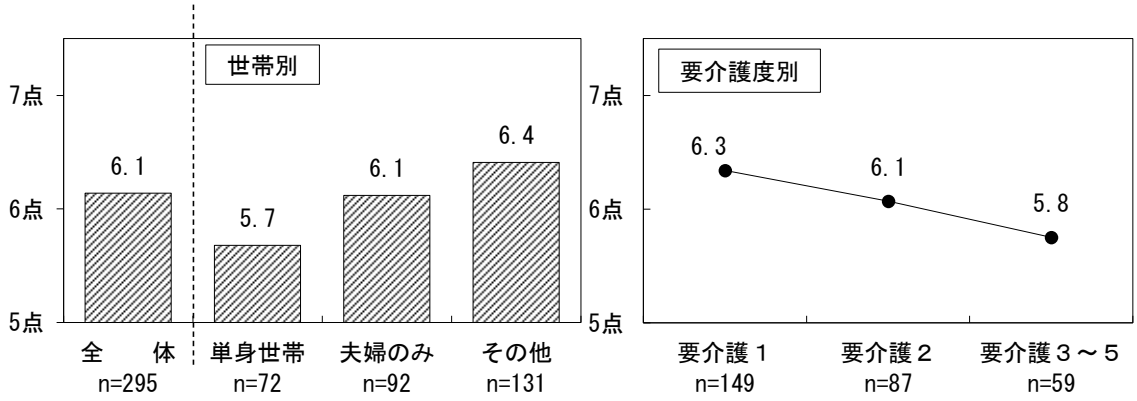
要介護認定を受けている人の幸福度は、「５点」が 24.4%と最も高く、次いで「８点」（12.8%）、「７点」（12.2%）などの順となっています。

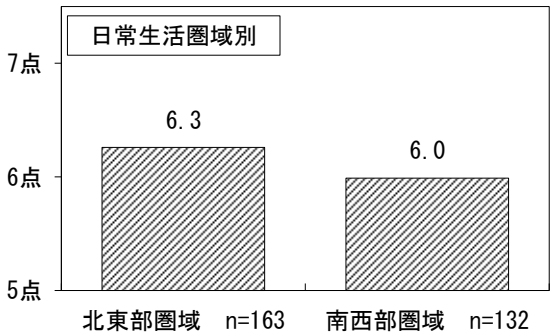
幸福度の平均点は 6.1 点となっており、世帯別にみると、単身世帯は 5.7 点の低い点数です。また、日常生活圏域別にみると、南西部圏域は北東部圏域に比べてやや低い点数となっています。

図表59　幸福度（要介護１～５）



図表60　幸福度の平均点



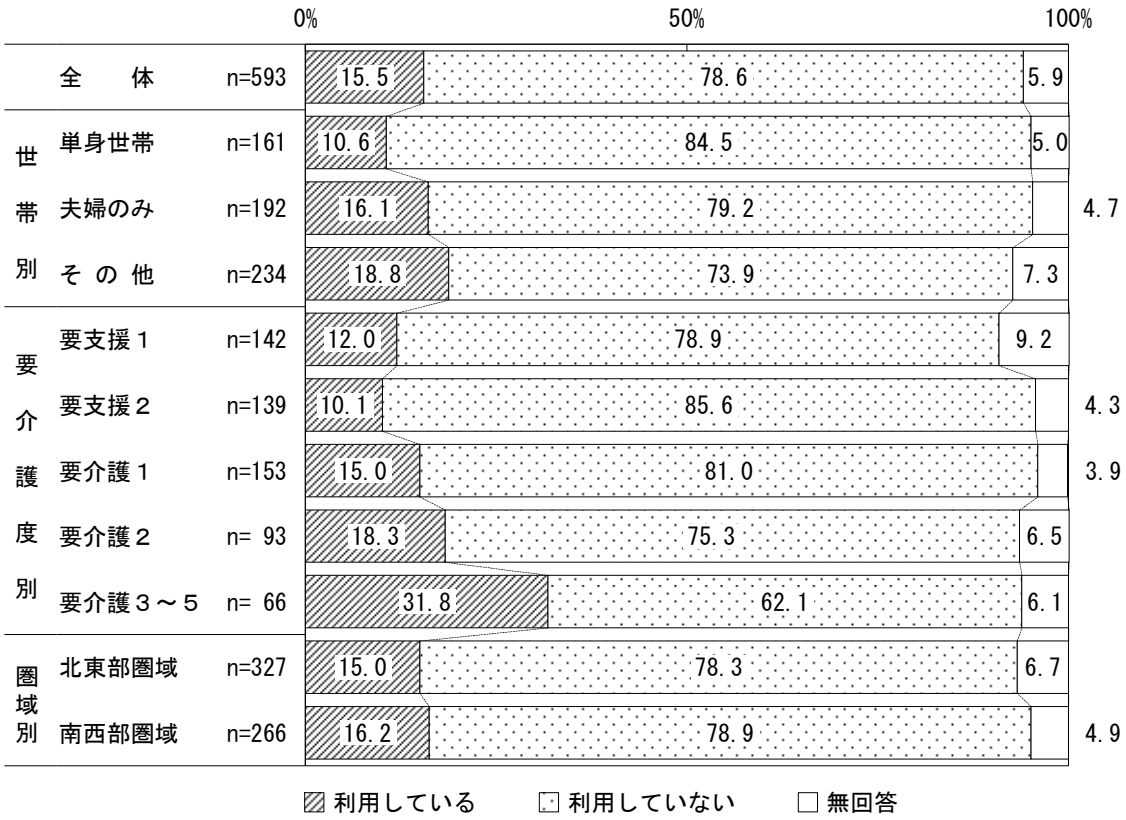


(4) 訪問診療の利用状況

現在の訪問診療の利用状況は、「利用している」が 15.5%です。

「利用している」を世帯別にみると、単身世帯はやや低い率です。また、要介護度別にみると、要介護３以上になると急激に高くなり、30%を超えます。

図表61　訪問診療の利用状況



５　主な介護者の年齢

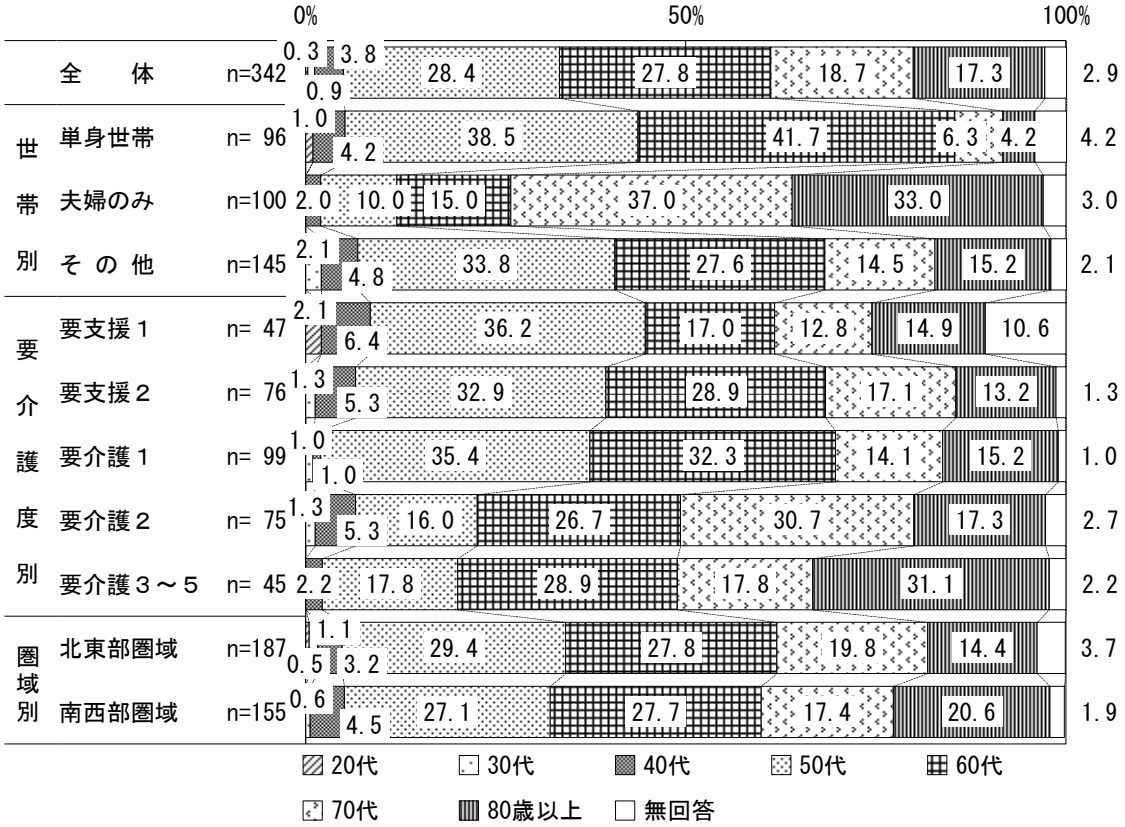
(1)　主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、「50 代」が 28.4%と最も高く、次いで「60 代」（27.8%）などの順となっており、<70 歳以上>が 36.0%です。また、「20 歳未満」と回答した人はいませんでした。

世帯別にみると、単身世帯は「60 代」が、夫婦のみ世帯は「70 代」が、その他の世帯は「50 代」がそれぞれ最も高くなっています。また、夫婦のみ世帯は<70 歳以上>が 70.0%を占めています。

要支援・要介護度別にみると、要支援１～要介護１は「50 代」が、要介護２は「70 代」が、要介護３～５は「80 歳以上」がそれぞれ最も高くなっており、重度化にしたがい介護者の年齢が高くなっています。

図表62　主な介護者の年齢



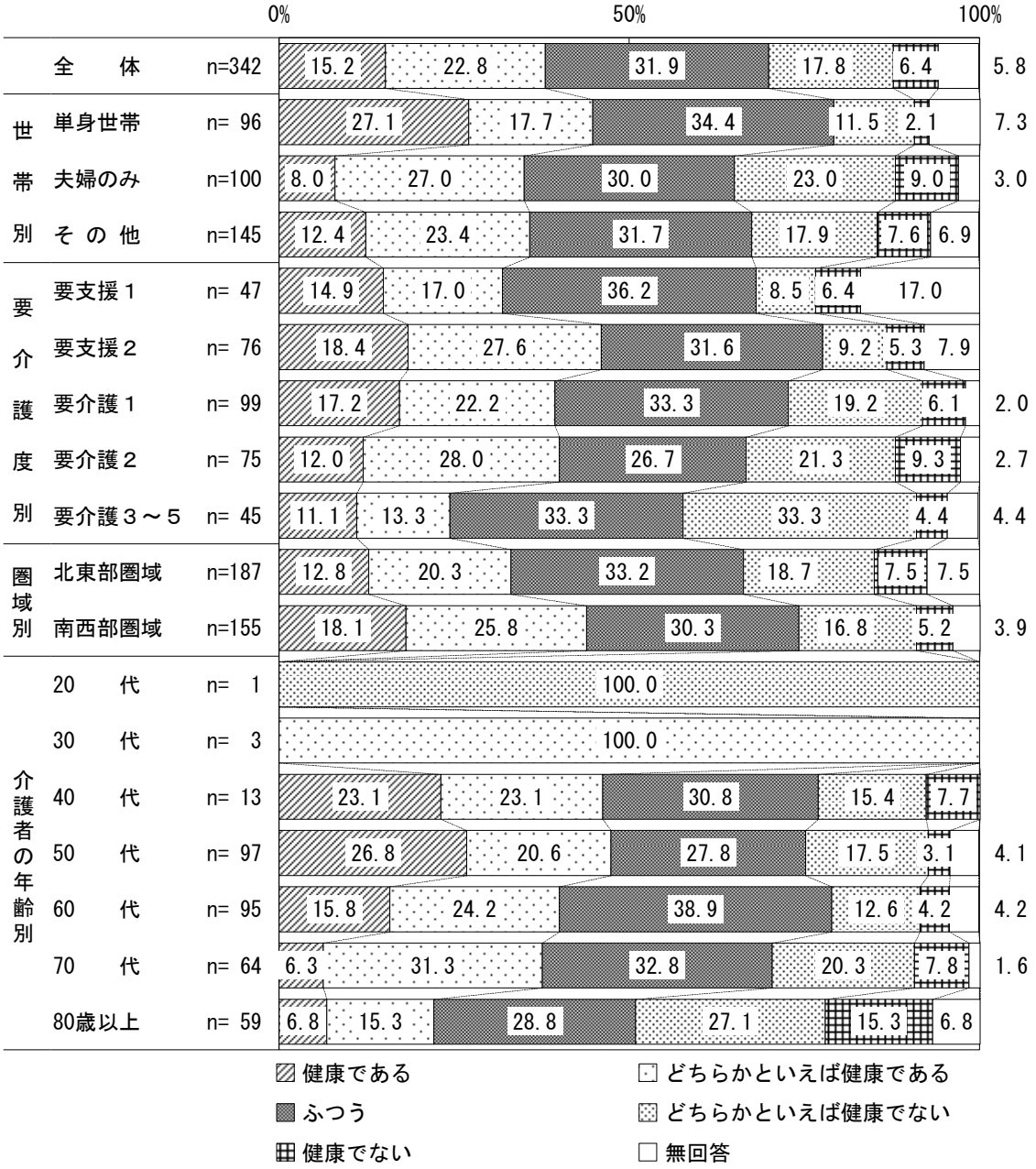
（注）「20歳未満」、「わからない」と答えた人はいませんでした。

(2) 主な介護者の健康状態

主な介護者の健康状態をたずねたところ、「どちらかといえば健康でない」（17.8%）と「健康でない」（6.4%）を合計した＜不健康＞が 24.2%となっています。

＜不健康＞を世帯別にみると、夫婦のみ世帯は 30%を超える高い率となっています。要介護度別みると、要介護２以上になると 30%を超えます。また、日常生活圏域別にみると、北東部圏域は南西部圏域に比べてやや高くなっています。介護者の年齢別にみると、80 歳以上になると 42.4%の非常に高い率です。

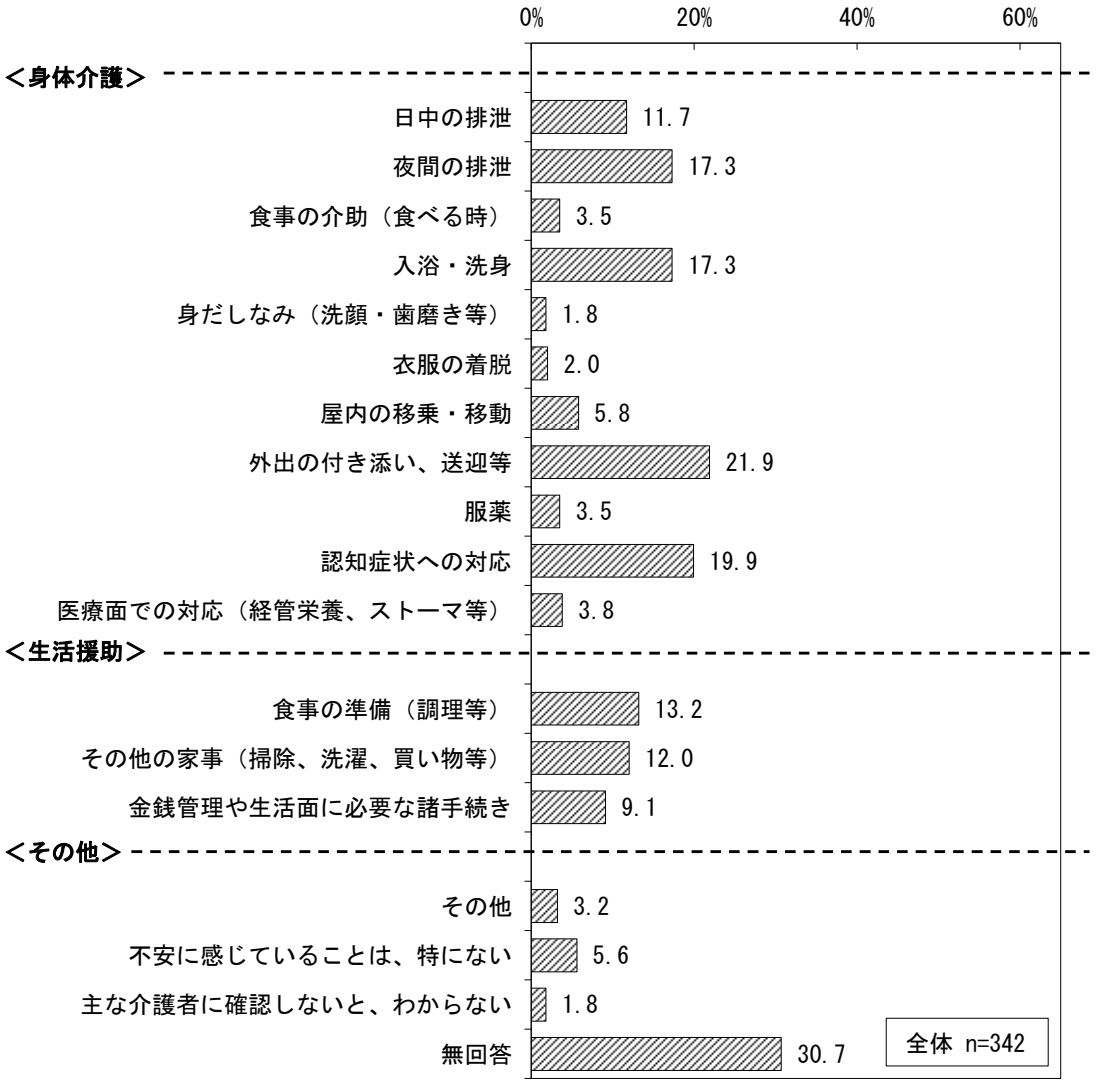
図表63　主な介護者の健康状態



(3)　主な介護者が不安に感じる介護

主な介護者が不安に感じる介護は「外出の付き添い、送迎等」が 21.9%と最も高く、次いで「認知症状への対応」（19.9%）、「夜間の排泄」及び「入浴・洗身」（17.3%）などの順となっています。

図表64　主な介護者が不安に感じる介護（○は３つまで）



(4) 主な介護者が介護をするうえで困ること

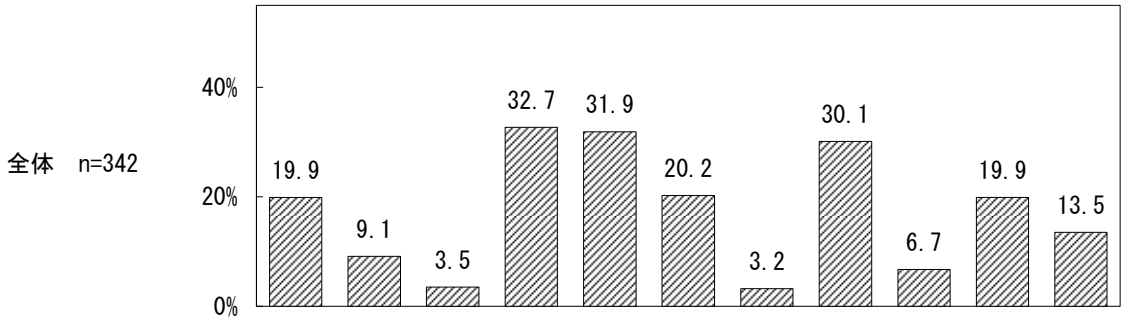
主な介護者が介護をするうえで困ることは「精神的な負担が大きい」が 32.7%と最も高く、次いで「体力的な負担が大きい」（31.9%）、「自分の時間が持てない」（30.1%）などの順となっています。

世帯別にみると、その他の世帯は「もっと介護サービスを利用させたくても本人が受けたがらない」、「精神的な負担が大きい」及び「自分の時間が持てない」が高くなっています。

要介護度別にみると、重度化にしたがい「体力的な負担が大きい」、「経済的な負担が大きい」及び「自分の時間が持てない」が高くなる傾向にあります。また、要介護１以上になると、「精神的な負担が大きい」が高くなります。

主な介護者が介護をするうえで困ること（複数回答）

単位：ｎは人、他は%



区分		n	もっと介護サービスを利用させたくても本人が受けたがらない	利用できる介護サービスの量が不足している	介護サービスの利用方法がわからない	精神的な負担が大きい	体力的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	介助・介護の方法や医療器具の使い方などがわからない	自分の時間が持てない	その他	特にない	無回答
世帯別	単身世帯	96	19.8	10.4	3.1	28.1	18.8	12.5	3.1	26.0	6.3	20.8	17.7
	夫婦のみ世帯	100	14.0	6.0	5.0	29.0	39.0	22.0	2.0	23.0	8.0	20.0	10.0
	その他	145	24.1	10.3	2.8	37.9	35.2	23.4	4.1	37.2	6.2	19.3	13.1
要介護度別	要支援１	47	12.8	8.5	4.3	21.3	21.3	17.0	4.3	21.3	4.3	27.7	29.8
	要支援２	76	6.6	6.6	2.6	17.1	22.4	10.5	2.6	13.2	2.6	32.9	23.7
	要介護１	99	31.3	6.1	4.0	39.4	26.3	20.2	2.0	35.4	5.1	17.2	7.1
	要介護２	75	22.7	13.3	2.7	41.3	38.7	24.0	1.3	33.3	10.7	13.3	6.7
	要介護３～５	45	20.0	13.3	4.4	42.2	60.0	33.3	8.9	51.1	13.3	6.7	4.4
圏域別	北東部圏域	187	19.8	10.7	4.3	34.2	32.6	18.2	4.3	28.9	7.0	18.7	12.3
	南西部圏域	155	20.0	7.1	2.6	31.0	31.0	22.6	1.9	31.6	6.5	21.3	14.8

６　仕事と介護の両立

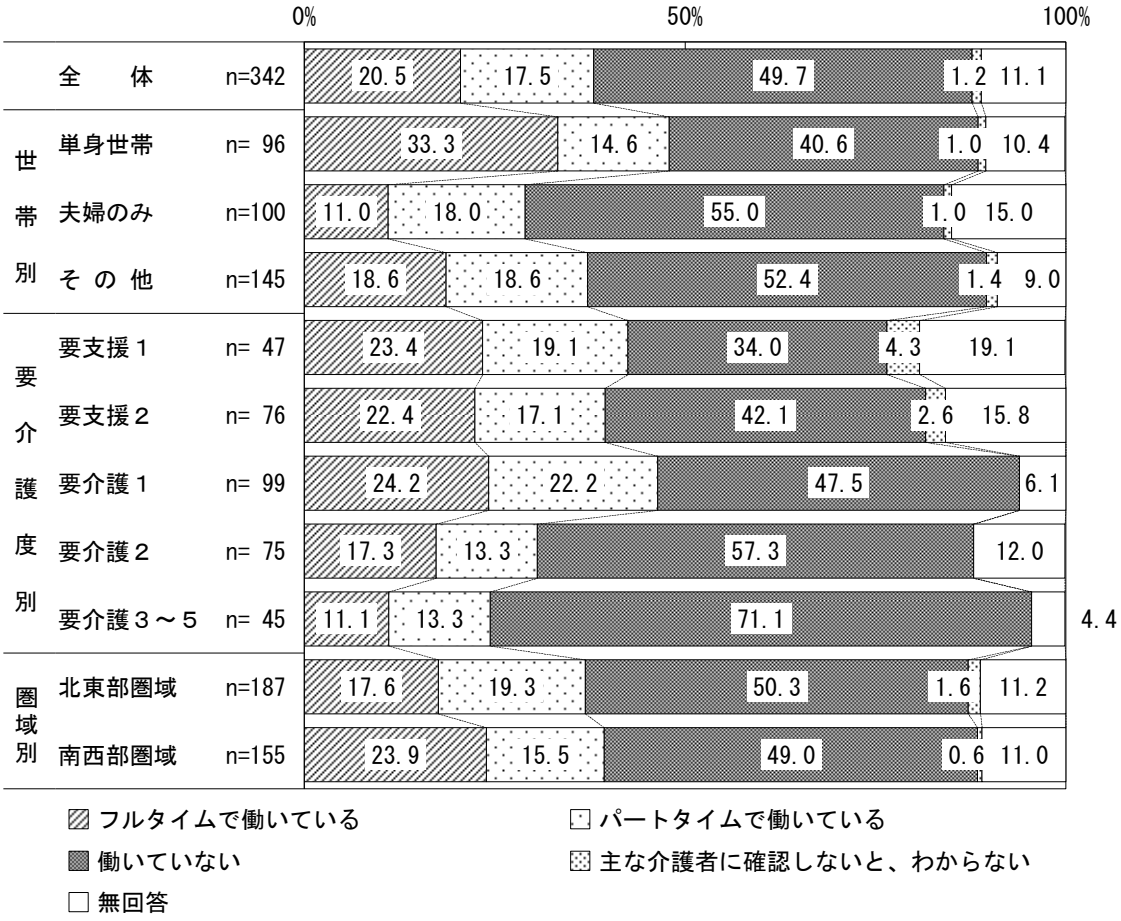
(1)　主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務状況をたずねたところ、「フルタイムで働いている」が 20.5%、「パートタイムで働いている」が 17.5%となっており、これらを合計した 38.0%が仕事と介護を両立しています。

世帯別にみると、単身世帯は「フルタイムで働いている」が高くなっています。

要支援・要介護度別にみると、要介護２以上になると、仕事と介護を両立している人が低下します。

図表65　主な介護者の勤務形態



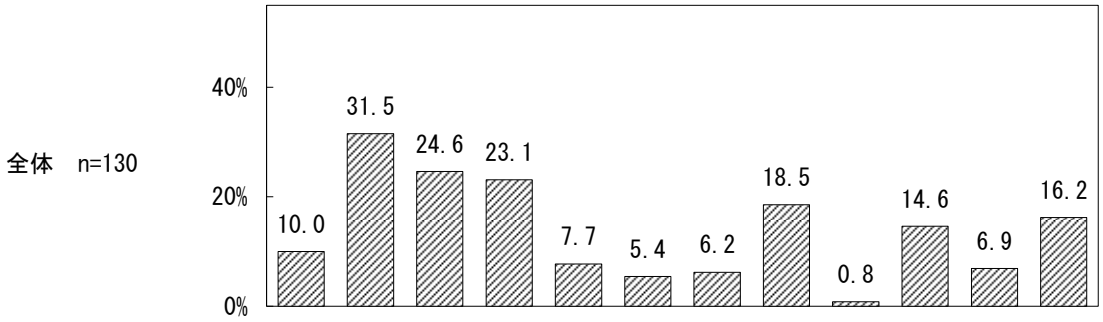
(2) 仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援

現在働いている主な介護者に、仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援をたずねたところ、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 31.5%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」（24.6%）、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（23.1%）などの順となっています。

主な介護者の就労状況別にみると、フルタイムはパートタイムに比べて「介護休業・介護休暇等の制度の充実」及び「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が高く、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」及び「介護をしている従業員への経済的な支援」が低くなっており、それぞれ５ポイント以上の差があります。

図表66　仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援（○は３つまで）

単位：ｎは人、他は%



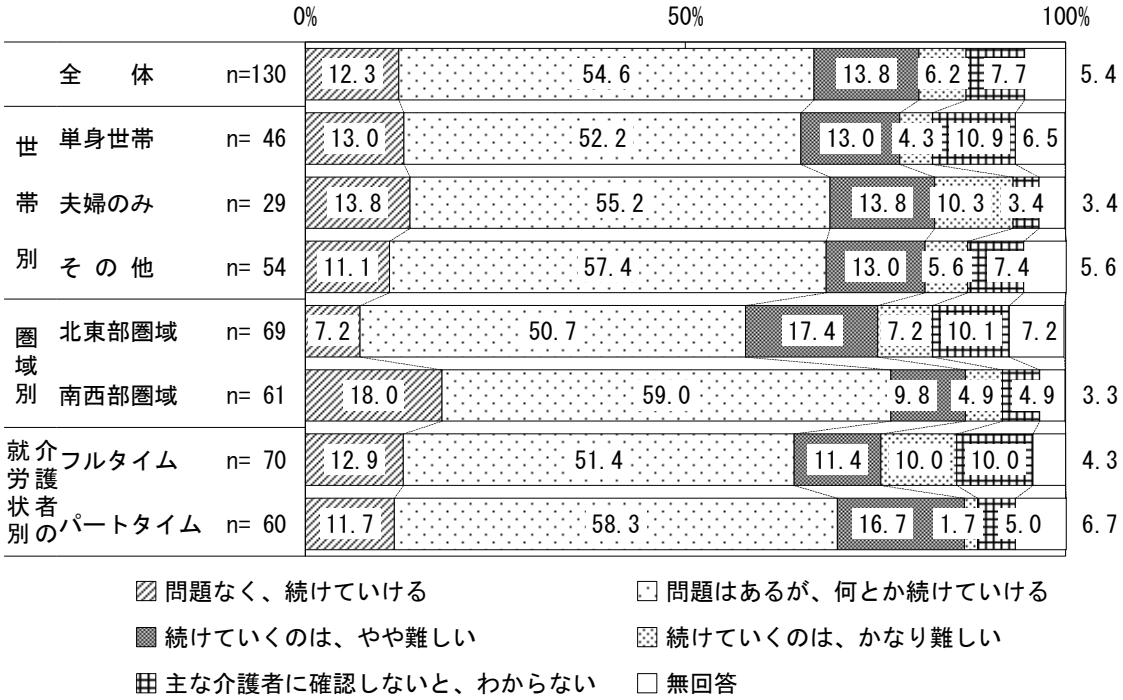
区分		n	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特にない	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
介護者の就労状況	フルタイム	70	11.4	34.3	25.7	25.7	10.0	1.4	10.0	12.9	－	7.1	10.0	18.6
	パートタイム	60	8.3	28.3	23.3	20.0	5.0	10.0	1.7	25.0	1.7	23.3	3.3	13.3

(3)　仕事と介護の両立

現在働いている主な介護者に、今後も働きながら介護を続けていけそうかたずねたところ、「続けていくのは、やや難しい」（13.8%）と「続けていくのは、かなり難しい」（6.2%）を合計した＜両立は困難＞は 20.0%です

＜両立は困難＞を世帯別にみると、夫婦のみ世帯は高くなっています。また、日常生活圏域別にみると、北東部圏域は南東部圏域に比べて 10 ポイント程度高くなっています。就労状況別にみると、フルタイムはパートタイムに比べてやや高い率です。

図表67　仕事と介護の両立



(4) 介護をするうえであるとよい支援

介護をするうえであるとよい支援をたずねたところ、「身近な相談窓口」が 40.1%と最も高く、次いで「介護にかかる費用の軽減」（39.8%）、「リフレッシュできる機会や場所」（19.9%）などの順となっています。

世帯別にみると、その他の世帯は「介護にかかる費用の軽減」が高くなっています。

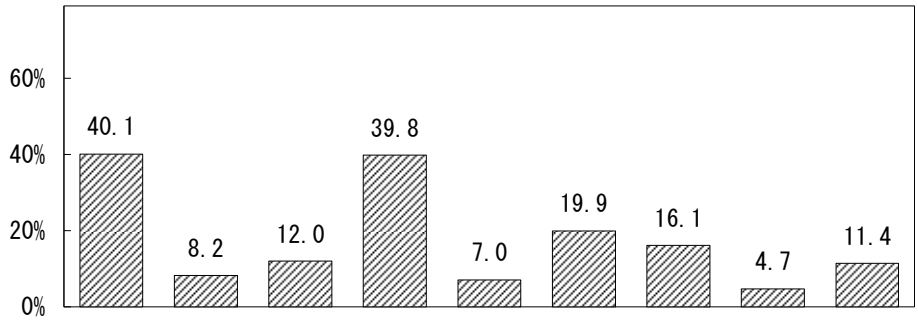
要介護度別にみると、重度化にしたがい「介護にかかる費用の軽減」が高くなる傾向にあります。また、要介護２は「介護教室・講習会・勉強会の開催」が高い率です。

日常生活圏域別にみると、北東部圏域は南西部圏域に比べて「身近な相談窓口」及び「リフレッシュできる機会や場所」が高くなっています。

図表68　介護をするうえであるとよい支援（複数回答）

単位：ｎは人、他は%

全体　n=342



区分		n	身近な相談窓口	介護者同士の交流会	介護教室・講習会・勉強会の開催	介護にかかる費用の軽減	地域住民による見守り	リフレッシュできる機会や場所	特にない	その他	無回答
世帯別	単身世帯	96	44.8	9.4	8.3	35.4	9.4	11.5	12.5	4.2	14.6
	夫婦のみ世帯	100	40.0	9.0	15.0	35.0	7.0	23.0	19.0	4.0	8.0
	その他	145	36.6	6.9	12.4	45.5	5.5	22.8	16.6	5.5	11.7
要介護度別	要支援１	47	48.9	8.5	12.8	36.2	12.8	23.4	12.8	6.4	19.1
	要支援２	76	31.6	10.5	11.8	34.2	9.2	13.2	19.7	－	18.4
	要介護１	99	44.4	5.1	9.1	37.4	5.1	17.2	17.2	7.1	8.1
	要介護２	75	41.3	9.3	20.0	44.0	4.0	24.0	16.0	4.0	8.0
	要介護３～５	45	33.3	8.9	4.4	51.1	6.7	26.7	11.1	6.7	4.4
圏域別	北東部圏域	187	47.1	8.0	12.8	42.2	7.0	24.1	10.7	6.4	10.7
	南西部圏域	155	31.6	8.4	11.0	36.8	7.1	14.8	22.6	2.6	12.3